埼玉放射線　第71巻　第2号　通巻272号　平成10年1月16日　第四種郵便物認可　ISSN 2186-571X

RADIOLOGICAL SAITAMA

Saitama Association of Radiological Technologists

2023
no.2

CONTENTS

2号連続特集
- 深吸気息止め照射の臨床導入

誌上講座
- 手持ち撮影歯科用エックス線装置の法令適用

総会資料
- 第12回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会定期総会

公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会
Saitama Association of Radiological Technologists
HP https://www.sart.jp　E-mail sart@beige.ocn.ne.jp

RADIOLOGICAL SAITAMA

Saitama Association of Radiological Technologists

2023/5 May
vol.71 no. 2

CONTENTS

2号連続特集

深吸気息止め照射の臨床導入…… 3

誌上講座

手持ち撮影歯科用エックス線装置の法令適用…… 12

総会資料

第12回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会定期総会

第12回公益社団法人
埼玉県診療放射線技師会定期総会…… 27
2022年度事業報告(案) …… 28
2022年度(公社)
埼玉県診療放射線技師会理事会審議事項…… 40
2023年度事業計画 新たな生活スタイルへ移行…… 42
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 定款…… 44
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 諸規程…… 49
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 支部地図… 59
2023年度収支予算書 …… 60

巻頭言

引き際のデザイン
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会 長 田中 宏…… 1

会 告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会役員選挙公示……16
2023年度 診療放射線技師のための
フレッシャーズセミナー(第24回SARTセミナー) ……17
第12回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
定期総会のお知らせ……19

お知らせ

埼玉県診療放射線技師会
電子ブックシステムのお知らせ……20
(公社)埼玉県臨床検査技師会主催の講習会を
診療放射線技師が会員価格で受講ができます。……21
埼玉県診療放射線技師会 メールマガジンのご案内……22
賛助会員さまへのお知らせ……23
「メディカルオンライン学会誌無料閲覧サービスについて」…24

本会の動き

2022年秋受賞者一覧 ……62
瑞寶雙光章を受章して……63
2022年度 第20回 胸部認定試験 開催報告……64
2022年度 乳腺セミナー 開催報告 ……65
2022年度 第13回CT認定試験開催報告 ……66
2022年度救急撮影ケーススタディ Web 開催報告 ……67
2022年度 上部消化管検査認定講習会・認定試験
開催報告……68
放射線被ばくに関する講習会 開催報告……70
第４回SART被ばく相談事例検討会 開催報告 ……71
第36回埼玉県診療放射線技師学術大会 開催報告 ……72
2022年度 MRI基礎講習会(Web)の開催報告 ……76

各支部掲示板

第一支部……77
第三支部……78
第六支部……80

求人コーナー

求人コーナー……82
求人広告掲載申し込みFAX用紙 ……83

議事録

2022年度 第2回常務理事会議事録 ……84
2022年度 第5回理事会議事録(抄) ……87
2022年度 第6回理事会議事録(抄) ……92

役員名簿

2021・2022年度役員名簿 ……98

正会員入会申込書…… 100
退会届…… 102
FAX申し込み …… 103
年間スケジュール…… 104
編集後記

引き際のデザイン

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長　田中　宏

豊臣秀吉の死後、1600年に石田三成との関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は1603年征夷大将軍に任じられ、江戸幕府を創設した。そのわずか2年後の1605年に将軍職を辞し、秀忠が次の征夷大将軍に任ぜられた。その後、1616年75歳（数え年）で死去。それまで想像を絶する苦労をしてきたにも関わらず、あっさりと将軍の座を明け渡したことが、後の江戸幕府264年続いた要因の一つだという歴史的な学説も論じられている。

現代社会において、私たちの身近なところにさまざまな役職があり、常に「引き際」という場面に直面する。周囲から望まれて役職に残る人や残念ながら望まれないのに居座る人、さまざまな人間模様がある。ただし、地主に関しては例外である。死去するまで地権者であり続けるため、個人名義の不動産賃貸業だけは事情が異なるが、一般的に会社組織やボランティア団体などは、組織や自分の意思で引き際を決めることができるのである。

引き際を美しくすることはさまざまなメリットが生まれる。リーダーが引退した後、人の流動性が生まれ組織が活性化し、そして、そのリーダーの英断は後世で高く評価されることになる。場合によっては引退後に別のフィールドでさらに活躍の場が訪れることさえある。つまり良いことだらけなのである。しかしながら、引き際を間違えた場合には全ての歯車が逆転する危険性をはらむのだ。

私の経験上、自分がやりたいことと、自分が周りから求められることが異なる場合は珍しくない。その場合、自分がやりたいことよりも、求められることをする方が周囲からは当然喜ばれることになる。そのためには、組織のために自分に何が求められ、何ができるのかを知り実践することが必要だ。

人生100年時代といわれる今、引き際を見極めなければならない場面が幾度となく到来することだろう。

ある友人に教えてもらったことがある。「異性に振られた時こそ、別れ際では相手を優しく思いやることで、相手の心にいつまでも美しく残るものである」残念ながら異性関係に疎い私は実践することはなかったが。

引き際を美しくするためには、まずは自分が次にやるべきことを明確にすることだ。そうすれば、次のステップに早く進みたいという思いから、気持ちに余裕が生まれ、周囲に喜ばれるよう配慮することができるようになる。

それでは具体的に引き際をどうデザインするかを考えてみる。

まずは、引き際のタイミングである。

将来のビジョンと実行プロセスが描けなくなった時はそのタイミングだと考えている。世間では「長期政権の弊害」と揶揄することをたびたび耳にするが、私は長期政権そのものが問題なのではなく、ビジョンやプロセスが描けないことの方が問題だと考えている。従って長期政権という理由は、要因であって原因ではない。ま

た周囲は社交辞令で「辞めるなんて言わないでくださいよ」と言ってくれることがある。大変にありがたく受け止めるが、冷静な視点で情勢を見極めなければならない。

次に引継ぎに関して述べる。

これまでの経験で、全ての業務に言えることであるが、文章や口頭で引き継げるのは2割から3割程度だと感じている。では、残りの約7割をどのようにして引き継ぐかであるが、その7割のほとんどは「感性」によるところが多い。誰にどのように相談を持っていくか、相談相手や話の持っていき方を間違えれば通る話も通らなくなることが多い。また現場レベルでも、相手の思考パターンや行動パターンを読み、先手を打つなど、これに関しては文章化することや口頭で伝えることは難しい。よって時間をかけて、自分の仕事を共有することが最善策だと考えている。事案を共有し、なぜ、このような判断になったのか、なぜ、このような結果になったのかを一緒に体感していくことが必要だと考えている。さらに言えば、役職に就いたときから引継ぎが始まっていると考えたほうがよい。

前述で少し触れたが、自分が次にやるべきことを明確化することが必要だ。引き際の年齢は組織によってさまざまであるが、多くの人は60歳前後を機に訪れる。

国民的なキャラクターであるサザエさんに登場する波平さんは54歳という設定だ。サザエさんの放送開始が1969年（昭和44年）であり当時の平均寿命は男69歳、女75歳である。比較して、島耕作さんは2002年の54歳当時は取締役という設定だ。当時の平均寿命は男78歳、女85歳である。ちなみに、2022年の平均寿命は男81歳、女88歳である。これらのデータから見ても、人生100年時代において、「60歳まで」ではなく「60歳から」であることは明らかである。

つまり、これからを生きる私たちはセカンドキャリアを考える必要があるということだ。診療放射線技師を軸としてもよし、教育者としてもよし、学術や公益団体の組織運営に携わるもよし、また全くの別世界でチャレンジするもよい。これからは、生き方という面でも多様性が求められる時代に変化したのだ。それには当然ながら準備期間が必要になる。現役世代はどうしても目の前のことが楽しく夢中になりやすい。もちろん与えられた責務を極めることは重要であるが、それと同時に50歳代以降に自分が次にやるべきことを探すことが必要だ。そのためにはまずは情報収集が必要だ。世の中にどのようなニーズがあり、どのような生き方をしている人たちがいるのか。それを知ることは将来のセカンドライフイメージを作るきっかけになるはずである。

私は平成3年に取得した行政書士を活用して、これまでお世話になった医療はもちろん教育などの分野で法的な知識を活用し、社会の役に立てたらと考え現在準備中である。

これが、私の引き際のデザインである。

深吸気息止め照射の臨床導入

聖路加国際病院　放射線治療品質管理室　山内　遼平

はじめに

本稿では、乳がんに対する深吸気息止め照射（Deep inspiration breath hold：DIBH）を新規に臨床導入を目指す、あるいは既存方法をアップデートし最適化しようとする施設に向けた内容について概説する。当院では汎用リニアック（CLINAC iX, Varian）および同装置付属の赤外線カメラシステム（Real-time Position Management（RPM）System, Varian）を用いてDIBHを実施している。このため、これらの装置を使用した臨床導入の注意点について説明するが、他の装置でも共有する点があるので参照していただけると幸いである。

乳がんに対する心臓線量低減の目的とその背景

乳がんは女性に最も多いがんであり、2020年の世界での発生率は226万人と推定されている[1)]。乳がんに対する放射線治療が、局所再発や乳癌特異的死亡のリスク低減を目的に標準治療として行われている[2) 3)]。一方で、放射線治療時の偶発的な心臓への放射線被ばくが、治療終了数年後の放射線誘発心毒性のリスクの増加と関連があることが報告されている[4) 5)]。Darbyらは、急性冠動脈イベントの発生率が平均心臓線量（Mean heart dose：MHD）と関連があることを示し、MHDが1Gy増えるとその発生率が7.4％直線的に増加することを示した[6)]。Darbyらの研究では、研究デザイン（case-control study）、照射技術が旧式であること、MHDが2次元データから再構成していること、など限界があった。2017年には、van den Bogaardらが現代の放射線技術および分割スキームに基づく患者の独立コホートに対して解析し、Darbyらと同様の結果が得られたと報告した[7)]。さらに、5Gyを受けた左心室の体積（LV-V5）が急性冠動脈イベントの予測因子として優れていることも示した。左前下行（left anterior descending：LAD）冠動脈は、その解剖学的位置から高線量の放射線を受ける可能性が高く、LADへの放射線照射と心血管疾患のリス

図1．聖路加国際病院におけるDIBH実施のための治療機器と関連機器
RGSC：Respiratory Gating for Scanners、RPM：Real-time position management

ク上昇との関連が報告されている。また、乳がん患者はアントラサイクリン系化学療法や抗HER2抗体（トラスツズマブ）を投与していることもあり、これらの薬剤は心毒性を増幅することが分かっている。化学療法および放射線治療の心血管系副作用の概要については、従前の報告を参照されたい[8) 9)]。

心臓線量低減が可能な技術

前項で示したように、乳がん放射線治療時の心臓線量低減が心毒性の発生率低減に有用であることが示されている。心臓への照射を保護あるいは回避可能な技術[10)]には、

(1) 心臓を胸壁から離す方法：深吸気息止め照射または腹臥位
(2) 先進技術を利用する方法：強度変調放射線治療または陽子線治療

がある。この中で、DIBHは世界中で最も使用されている方法であり、簡便に利用可能な技術である。

DIBHは、深吸気息止めをすることで心臓と胸壁の間に間隙を設けることで線量低減を図る方法であるが、強制的な呼吸制御を行う場合はmodulate DIBH（mDIBH）、自発的に呼吸制御する場合はvoluntary DIBH（vDIBH）に分類される。筆者が知る限り、mDIBHはactive breathing coordinatorシステム（Elekta）を使用する方法が一般的であり、国内では使用されていない。一方で、vDIBHは、皮膚マークと室内レーザーを用いる簡易的な方法から赤外線カメラシステムや体表面監視システムなど専用の機器を用いるものまで多岐にわたる[11) 12)]。最近の研究では、mDIBHとvDIBHの間で心臓線量や心臓位置の再現性に差はないと報告されている[13) 14)]。

当院におけるvDIBHの実施手順と臨床導入する際の注意点

図2に当院のvDIBHの (a) CTフローおよび (b) 照射フローを示す。診察時の適用決定から照射までの一連の流れに従って、汎用リニアックと赤外線カメラシステム（RPM）の組み合わせによるvDIBHの工夫した点や注意すべき点について、当院の方法を交えて説明する。

図2．聖路加国際病院におけるCTおよび照射時のフロー

【1．DIBH患者の適用基準】

vDIBHは患者に自発的な息止めを要求するため、患者の協力が不可欠である。また、25回や16回の治療では合計数百回程度の息止めが必要となるため、照射方法や息止めへの理解が可能であることは必須である。当院では、医師の診察や看護師のオリエンテーション時に患者をよく観察し、適用の判断を行っている。

上記のほかに相対的な適用基準として、「息止めが20秒以上可能なこと」、「70歳以下であること」、「原発領域がA、BあるいはD領域であること」、「BMIが30.0kg/m^{2}以上でないこと」を設けている。息止め時間が短いと息止めの回数が増え、結果として再現性の低下や治療時間の延長を招く恐れがある。年齢による制約は、息止め時間や理解力との関連があり、経験則から高齢の患者には案内を控えている。原発領域やBMIは心臓線量を予測する因子として有効であり、詳細については先行研究を参照されたい[15) 16)]。患者因子以外にも、CTやMRIなど事前の検査で画像を取得している場合は、心臓位置と腫瘍床との位置関係を評価するために積極的に利用している。

ESTRO-ACROP guidelineで、DIBH実施にあたり十分な練習時間を設けること、息止め時間は15～20秒できること、息止め振幅が1cmとなること、コミュニケーションが取れることを推奨している[17)]。

【2．患者教育】

当院でvDIBHを実施する際は、その患者にとって**“適切な量”**を**“再現良く”**、**“無理せず”**に深吸気息止めが**“20秒程度”**できることを大事にしている。患者教育を行っていない時期のDIBHの誤った認識として多かったものが、「吸気量は多ければ多いほど良い」、「息止め時間は長いほど良い」、「多く吸えたのでいつもより多く吸ってみた」などである。この認識により、息止めの再現性や精度が低下し、治療時間の延長や画像取得回数が増加する事があった。

この状況を改善することを目的として、看護師によるオリエンテーション時にDIBHに関して動画やパンフレットを用いた説明（図3）とベッドでの実体験を導入した。この際、**“適切な量”**を**“再現良く”**、**“無理せず”**に深吸気息止めが“20秒程度”できることを確実に理解してもらうことを徹底している。動画やパンフレットを用いることのメリットとして、説明者間での内容のばらつきを減らすとともに、患者自身のペースで看護師が付き添わずに理解を促すことが可能となる。動画やパンフレットでは、DIBHに関してや息止めの注意点、自宅での呼吸練習を含む内容としている。当院の説明動画と内容が類似したものがYouTube（“What is it and how does it help in radiation therapy?”）にも挙がっている。自宅での呼吸練習は、息止めの再現性や時間の延長

図3．患者教育用パンフレット

が向上するだけでなく、線量低減も可能であったという報告もある[18]。これらの導入には多くのコストがあるため、施設の状況に応じて検討する必要があるものの、患者の理解度向上は必須であると考える。職種ごとの役割については、呼吸性移動対策ガイドラインも参照すると良いだろう[19]。

【3．息止め方法】

図4に、胸式呼吸と腹式呼吸時の体表面の変位の仕方の違いを示す。胸式呼吸では、胸の筋肉および肋骨を動かして胸郭の拡張を行うため、胸が優位に膨らむ。腹式呼吸では、横隔膜を収縮・弛緩させて胸郭の拡張を行うため、腹が優位に膨らむ。

呼吸方法の選択（胸式呼吸あるいは腹式呼吸）においては、いくつかの検討が行われている。腹式呼吸は胸式呼吸に比べて、心臓線量低減が可能であったと報告されている[20]。一方で、位置再現性に関しては胸式呼吸のほうが良好であったと報告されている。従って、それぞれ一長一短であり、患者によっては切り分けできないことも多いため、施設内で方針を決めてイレギュラーな場合のみ対応するとよい[21]。

息止め方法とともに吸気量についても考慮が必要である。当院では、DIBH時の吸気量を最大吸気量の70%～80%を目安にしている。最大吸気量の場合、体に力が入りすぎる、複数回息止めできない、日間の差がある、といったデメリットが多いからである。吸気量の多さに従い線量低減が可能であるものの、当院では再現性を重視している。

RPMマーカーを用いる方法では、マーカー位置（点）の体表面移動情報を取得・追跡しているため設置位置に注意が必要である。呼吸信号を代替するような位置にマーカーを置く必要があるからである。当院では、胸式呼吸を行ってもらい、マーカーは胸部（対側乳房中心）に配置することで、呼吸による信号の検出感度が高くなるようにしている。この方法は標的である乳房の動きを直接監視できるメリットがある。腹部に配置した場合、腹筋の力の入れ方で振幅を容易に変更できてしまうことが事前の検証で判明したため臨床使用は行わなかった。経験上、完全胸式呼吸の患者はほとんどいないが、患者が意識した（思う）胸式呼吸を一貫して行うことが大事である。このとき、呼吸による振幅は少なくとも0.5cm以上となるよう指導し、自由呼吸時の振幅との切り分けができるようにしている。

【4．CT撮影時における息止め再現性の確認】

息止め位置の再現性は、皮膚マーキングの変位、RPMの信号値、CT画像によって確認・評価することが一般的である。

当院では、CT撮影の際に息止めの練習を何回か行い、自由呼吸時および息止め時にマーキングを行うことで、変位位置を視覚的に評価している。このとき、患者を直接観察し、呼吸方法の再現性や背中が浮いていないか、腕や肩に力が入っていないか確認することも重要である。

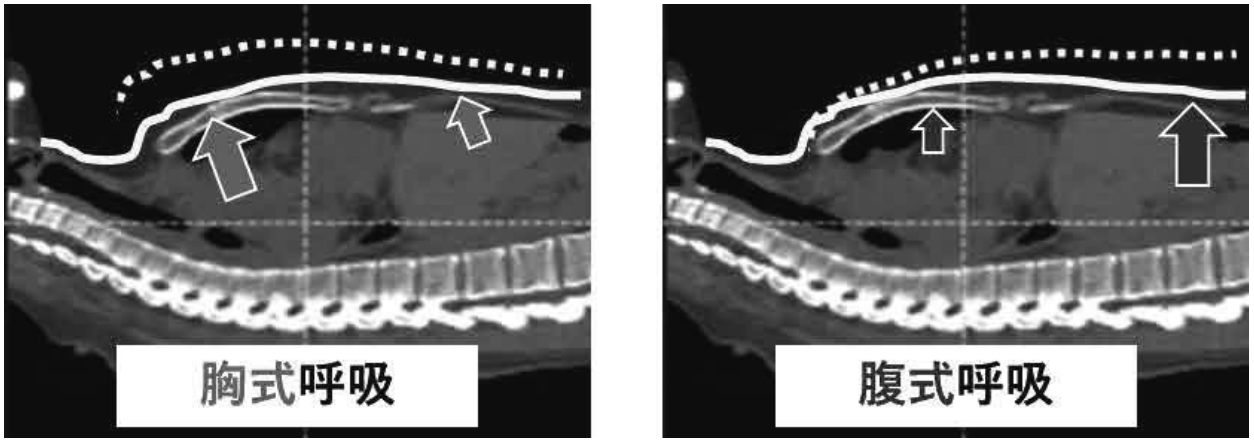


図4．胸式呼吸と腹式呼吸時の体表面の変位の仕方の違い

RPMの信号値は、マーカーの3軸の移動量または波形が利用可能である。対側乳房にマーカーを置いているため、標的である乳房の位置再現性が評価できる。当院では、この値のばらつきが2mm以内になるようにしている。

CT撮影を行う方法が最も直感的であり、乳房位置だけでなく、心臓位置や椎体の変位なども評価できる。当院では被ばく低減のため省略しているが、導入直後10例程度は低線量CTスキャンも併用し、RPM信号値と画像の相関を評価することを推奨する。

【5．Visual feedbackの利用】

【4．CT撮影時における息止め再現性の確認】における再現性を高めるため、当院では2016年よりVisual feedbackの利用をしている。Visual feedbackは、図1右に示すような小型モニタやゴーグルなどを用いて、呼吸信号をバーモデルなどで表示し、患者へ視覚的に情報を共有するものである。日内・日間で常に同じ息止め（量や呼吸法、タイミングなど）を行うことは容易でない。以前解析した結果では、Visual feedbackの利用により有意に位置精度が改善し、約90％のフラクションで治療計画に対して±3mm内に収まっていた[22]。当院では、市販の映像機器を用いて、RPMの映像を分岐して患者へ見せている。近年、治療装置やCT装置をインストールした施設では、Visual coaching device（Varian）も納入されていることもあるだろう。Visual feedbackの利用により再現性や患者理解度の向上が見られ、照射時のゲーティング幅の低減（±2mm→±1 mm）や照射時間の短縮を達成することが可能である。Visual feedbackの注意点として、息を吸ってゲーティング幅で止める際に、2秒程度のゆっくりした呼吸を意識すると止めやすくなる。また、通信障害や映像機器の不備で使えないこともあるため、不具合時のフローをあらかじめ決めておくことを推奨する。

同様の患者へ呼吸情報をフィードバックする方法として、Audio feedbackもある。これは、音声により呼吸のタイミングを指示するものであるが、振幅を制御するDIBHにおいてはVisual feedbackのほうが有用とされている[23]。しかし、特別な機器も必要ないためより簡便に導入が可能である。息止めの合図が操作者によってばらつくことを防ぐために、録音データを利用することで、再現性の向上が図れる可能性がある。

【6．治療計画および線量評価】

当院のDIBHにおける治療計画方法は、基本的に自由呼吸時と同じである。PTVマージンも、自由呼吸での振幅と息止めの不確かさで大きな差がないため変えていない。しかし、息止めが上手くない患者で心臓が近い場合には、治療計画をする医師へ申し送りを行っている。治療計画の際には、LAD位置が息止めや心拍による不確かさがあることや腋窩リンパ節の位置が息止めや腕の挙上具合により変位があることに注意が必要である[24) 25)]。

診療報酬上の定義として、呼吸性移動対策加算を算定するには、「深吸気位において心臓の線量低減が可能な左乳がん」が対象であり、「呼吸性移動対策を行わない場合よりも心臓が照射野から遠位に外れるため心臓線量の低減が実現可能である（呼吸性移動対策ガイドライン）」とされている。心臓が照射野から遠位に外れることを示す有用な方法は提案されておらず、当院では全例に対して自由呼吸時のCTで治療計画を行っている。図5に治療計画した一例を示す。心臓線量（MHD：D_{mean}およびV_{5Gy}）について評価し、低減できることを証明している。図6は、当院での臨床開始後85例におけるDIBH実施の有無によるMHDの

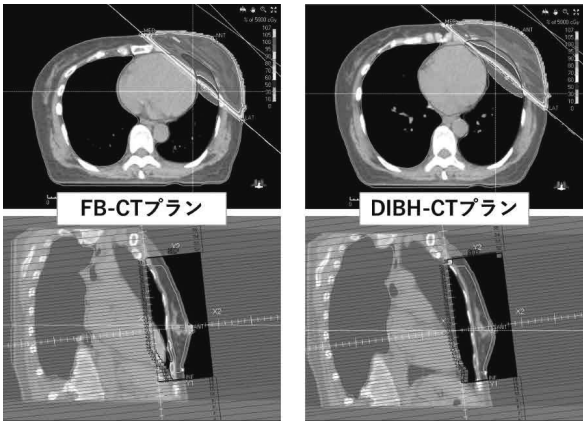


図5．治療計画の一例

比較である。従前の報告から、DIBH実施によりMHDは約50％低減可能であり、自由呼吸時のMHDが高いほど低減率は高くなる（＝DIBHの効果が大きい）[15]。治療計画を2つ行うことは臨床においては非常に困難かもしれないが、導入直後20～30例程度計画を行い、従前の報告との比較や患者因子（体型、吸気量、呼吸方法など）による変化を観察することを推奨する[13) 26) 12) 27)]。

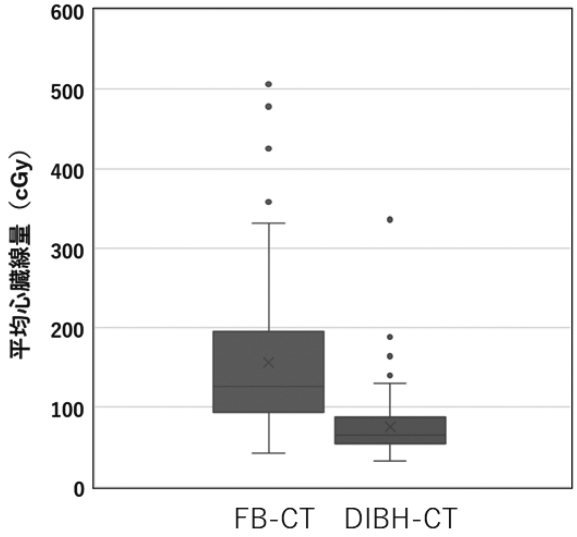


図6．DIBH実施の有無によるMHDの比較（n=85）

【7．治療中の位置評価・監視・追跡】

当院では、治療体位で息止め練習を最低1回行ったのち、照合あるいは照射としている。照合は、照射方向からのMV画像（またはkV画像）を用いている。RPMを用いたDIBHにおいて、得られる画像はセットアップエラーと息止めエラーが合成されたものであることに注意が必要である。両者を切り分けて照合中に即時に判断することは容易でない。また、RPM信号値が適切でも体内臓器位置が不適切なことは往々にして生じる。そのため、固定具の選定やセットアップ方法、Visual feedbackの利用など、可能な限り各要素における不確かさを小さくしなくてはならない。明らかな息止め方法の変化を検出できるように、基準画像には計画CT時の心臓位置を表示している。これにより、患者へのフィードバックが可能となる。

治療期間内での画像取得は治療開始後3回および3日間に1回の頻度で照合撮影している。また、治療期間中は照射中のシネ画像を取得し、乳房や心臓位置の変化を監視している。患者によっては、RPM信号値は適切であるにもかかわらず、息が漏れていたり、体が回転したりする患者がまれに存在する。追加に被ばくなしで多くの情報を得ることができるため、手技が煩雑にならない限り、シネ画像を取得することが推奨される。

【8．品質管理・品質保証】

RPMを用いたDIBHにおける品質管理・品質保証においては、AAPM TG-76 [28)]、TG-142 [29)]、TG-147 [30)] を参照すると良い。特に、TG-147は放射線治療用非放射線位置決め装置の品質保証に関しての報告であり、RPMシステムがこれに該当する。また、SGRTに関するガイドラインであるAAPM TG-302 [31)]、ESTRO-ACROP guideline [17)] は、品質管理・品質保証だけでなく、DIBH時のリスク管理やワークフローの提示などSGRTシステムを有していない施設にも役立つ情報が記載されている。

アクセプタンスおよびコミッショニング、日々の品質保証の際に評価すべき項目は、動作試験、インターロック動作、周辺機器との統合、呼吸信号の追跡精度（振幅・周期）、ゲーティング機能、呼吸同期時の線量・分布評価などが該当するだろう。各試験内容については、ガイドラインを参照し、施設の状況に応じて適切に判断されることが望まれる。

【9．RPM（RGSC）マーカーの特性】

前項の品質管理・品質保証とも関連するが、RPMマーカー（あるいは、RGSC：Respiratory Gating for Scannersマーカー）の特性を把握することは非常に重要である。RPMシステムの呼吸信号の追跡精度、システム遅延時間、マーカー通過時の線量への影響について、先行研究や当院での結果を踏まえ説明する。

2017年にL. Conroyは、DIBH実施時のRPMマーカーの問題点について技術報告して

いる[32]。RPMシステムをDIBHモードあるいはAmplitudeモードで使用する際、ベースラインからのマーカー信号値の変位量を吸気量の代替指標として用いている。これは、RPMマーカーの置き方や赤外線カメラからの位置に依存せず、再現性があることが必須である。Conroyが行った呼吸信号の追跡精度試験において、2-dotタイプのマーカーでは、マーカーの傾きが大きくなるほど、追跡精度が悪くなり、実際の振幅から大幅に乖離したと報告している。これは、乳房にマーカーを置く際に水平に設置することが難しいことがあるため注意が必要である。一方、6-dotタイプのマーカーではこの影響は解消されており、通常臨床内での精度は良好である。当院において、TG-147に従いステップチャート法による検証したところ、マーカーを3cm移動させたときのシステムの検出値は±3mm以内に収まっていた。唯一、マーカーを18°傾け、頭側・腹側に変位させたとき4mmのズレが検出された。これは、カメラのキャリブレーションを実施した位置から遠くなるほど、精度が低下する可能性を示唆している。

TG-142によると、システムの遅延時間は治療前に適切であると判断される必要がある。しかし、遅延時間の直接測定は難しく、遅延時間は臨床的に適切な閾値以下であることを確認すべきであるとしている。また、DIBHでは1秒未満としている。当院ではDIBH以外にも同期照射で使用しているため、TG-142の推奨値100ms以内であることを検証し、使用している[33]。

当院のように対側乳房にRPMマーカーを置く場合、患者体型によっては接線照射の際に、マーカーを通過する可能性がある。Conroyはフィルム用いて検証し、マーカーを通過後に皮膚線量が増加すると報告している[32]。臨床上、日々の設置のばらつきがあることも考慮し、当院では特別な配慮はしていない。各施設においては、このような状況が発生することを把握し、医師との協議の上、判断されると良いだろう。

さいごに

当院における全乳房DIBHの実施方法および注意点を紹介した。DIBHは比較的簡便な方法であり、追加設備が必要なく実施できる手法であるため、多くの施設で導入が進んでいる。今後、DIBH導入を目指す施設やアップデートを試みている施設にとって本書が参考になれば幸いである。

1) Sung H, Ferlay J, Siegel RL, et al. Global cancer statistics 2020: GLOBOCAN estimates of incidence and mortality worldwide for 36 cancers in 185 countries. CA Cancer J. Clin. 2021.
2) Early Breast Cancer Trialists' Collaborative Group (EBCTCG) . Effects of radiotherapy and of differences in the extent of surgery for early breast cancer on local recurrence and 15-year survival: an overview of the randomised trials. The Lancet. 2005;366:2087-2106.
3) Early Breast Cancer Trialists' Collaborative Group (EBCTCG) . Effect of radiotherapy after breast-conserving surgery on 10-year recurrence and 15-year breast cancer death: meta-analysis of individual patient data for 10 801 women in 17 randomised trials. The Lancet. 2011;378:1707-1716.
4) Boero IJ, Paravati AJ, Triplett DP, et al. Modern Radiation Therapy and Cardiac Outcomes in Breast Cancer. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 2016;94:700-708.
5) Rehammar JC, Jensen MB, McGale P, et al. Risk of heart disease in relation to radiotherapy and chemotherapy with anthracyclines among 19,464 breast cancer patients in Denmark, 1977-2005. Radiother. Oncol. 2017;123:299-305.
6) Darby SC, Ewertz M, McGale P, et al. Risk of ischemic heart disease in women after radiotherapy for breast

cancer. N. Engl. J. Med. 2013;368:987-998.
7) van den Bogaard VA, Ta BD, van der Schaaf A, et al. Validation and Modification of a Prediction Model for Acute Cardiac Events in Patients With Breast Cancer Treated With Radiotherapy Based on Three-Dimensional Dose Distributions to Cardiac Substructures. J. Clin. Oncol. 2017;35:1171-1178.
8) Lenneman CG, Sawyer DB. Cardio-Oncology: An Update on Cardiotoxicity of Cancer-Related Treatment. Circ. Res. 2016;118:1008-1020.
9) Boekel NB, Schaapveld M, Gietema JA, et al. Cardiovascular Disease Risk in a Large, Population-Based Cohort of Breast Cancer Survivors. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 2016;94:1061-1072.
10) Shah C, Badiyan S, Berry S, et al. Cardiac dose sparing and avoidance techniques in breast cancer radiotherapy. Radiother. Oncol. 2014;112:9-16.
11) Conroy L, Yeung R, Watt E, et al. Evaluation of target and cardiac position during visually monitored deep inspiration breath-hold for breast radiotherapy. J. Appl. Clin. Med. Phys. 2016;17:25-36.
12) Taylor CW, Wang Z, Macaulay E, Jagsi R, Duane F, Darby SC. Exposure of the Heart in Breast Cancer Radiation Therapy: A Systematic Review of Heart Doses Published During 2003 to 2013. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 2015;93:845-853.
13) Bartlett FR, Colgan RM, Carr K, et al. The UK HeartSpare Study: randomised evaluation of voluntary deep-inspiratory breath-hold in women undergoing breast radiotherapy. Radiother. Oncol. 2013;108:242-247.
14) Bartlett FR, Donovan EM, McNair HA, et al. The UK HeartSpare Study (Stage II) : Multicentre Evaluation of a Voluntary Breath-hold Technique in Patients Receiving Breast Radiotherapy. Clin. Oncol. 2017;29:e51-e56.
15) Yamauchi R, Mizuno N, Itazawa T, Saitoh H, Kawamori J. Dosimetric evaluation of deep inspiration breath hold for left-sided breast cancer: analysis of patient-specific parameters related to heart dose reduction. J Radiat Res. 2020.
16) Mkanna A, Mohamad O, Ramia P, et al. Predictors of Cardiac Sparing in Deep Inspiration Breath-Hold for Patients With Left Sided Breast Cancer. Front. Oncol. 2018;8:564.
17) Freislederer P, Batista V, Ollers M, et al. ESTRO-ACROP guideline on surface guided radiation therapy. Radiother. Oncol. 2022;173:188-196.
18) Kim A, Kalet AM, Cao N, et al. Effects of Preparatory Coaching and Home Practice for Deep Inspiration Breath Hold on Cardiac Dose for Left Breast Radiation Therapy. Clin. Oncol. 2018;30:571-577.
19) 呼吸性移動対策を伴う放射線治療に関するガイドライン 2019
20) Zhao F, Shen J, Lu Z, et al. Abdominal DIBH reduces the cardiac dose even further: a prospective analysis. Radiat. Oncol. 2018;13:116.
21) Hirata K, Narabayashi M, Hanai Y, et al. Comparison of thoracic and abdominal deep inspiration breath holds in whole-breast irradiation for patients with left-sided breast cancer. Breast Cancer. 2021;28:1154-1162.
22) Yamauchi R, Mizuno N, Itazawa T,

Masuda T, Akiyama S, Kawamori J. Assessment of visual feedback system for reproducibility of voluntary deep inspiration breath hold in left-sided breast radiotherapy. J Med Imaging Radiat Sci. 2021;52:544-551.
23) Kini VR, Vedam SS, Keall PJ, Patil S, Chen C, Mohan R. Patient training in respiratory-gated radiotherapy. Med. Dosim. 2003;28:7-11.
24) Wang X, Pan T, Pinnix C, et al. Cardiac motion during deep-inspiration breath-hold: implications for breast cancer radiotherapy. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 2012;82:708-714.
25) Borm KJ, Oechsner M, Combs SE, Duma MN. Deep-Inspiration Breath-Hold Radiation Therapy in Breast Cancer: A Word of Caution on the Dose to the Axillary Lymph Node Levels. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 2018;100:263-269.
26) Lin A, Sharieff W, Juhasz J, Whelan T, Kim DH. The benefit of deep inspiration breath hold: evaluating cardiac radiation exposure in patients after mastectomy and after breast-conserving surgery. Breast Cancer. 2017;24:86-91.
27) Pierce LJ, Feng M, Griffith KA, et al. Recent Time Trends and Predictors of Heart Dose From Breast Radiation Therapy in a Large Quality Consortium of Radiation Oncology Practices. Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 2017;99:1154-1161.
28) Keall PJ, Mageras GS, Balter JM, Emery RS, Forster KM. The Management of Respiratory Motion in Radiation Oncology, Report of AAPM Task Group 76. American Association of Physicists in Medicine. 2006.
29) Klein EE, Hanley J, Bayouth J, et al. Task Group 142 report: quality assurance of medical accelerators. Med. Phys. 2009;36:4197-4212.
30) Willoughby T, Lehmann J, Bencomo JA, et al. Quality assurance for nonradiographic radiotherapy localization and positioning systems: report of Task Group 147. Med. Phys. 2012;39:1728-1747.
31) Al-Hallaq HA, Cervino L, Gutierrez AN, et al. AAPM task group report 302: Surface-guided radiotherapy. Med. Phys. 2022;49:e82-e112.
32) Conroy L, Guebert A, Smith WL. Technical Note: Issues related to external marker block placement for deep inspiration breath hold breast radiotherapy. Med. Phys. 2017;44:37-42.
33) Woods K, Rong Y. Technical Report: TG-142 compliant and comprehensive quality assurance tests for respiratory gating. Med. Phys. 2015;42:6488-6497.

手持ち撮影歯科用エックス線装置の法令適用

日本放射線公衆安全学会
諸澄　邦彦

1．はじめに

令和4年3月31日付け医政発0331第33号「医療法施行規則の一部を改正する省令の公布について」（以下、医政発0331第33号）の厚生労働省医政局長通知で、手で保持して使用する口内法撮影用エックス線装置（以下、手持ち撮影歯科用エックス線装置）が、新たに放射線障害防止の方法が規定されたことにより、医療法施行規則の一部が改正された[1)]。

この医政発0331第33号通知は、令和4年3月31日告示であるが、施行期日は令和7年4月1日となっており、歯科診療における放射線安全管理に混乱が生じる懸念があるので、改正経緯と現場での対応について述べる（写真１）。

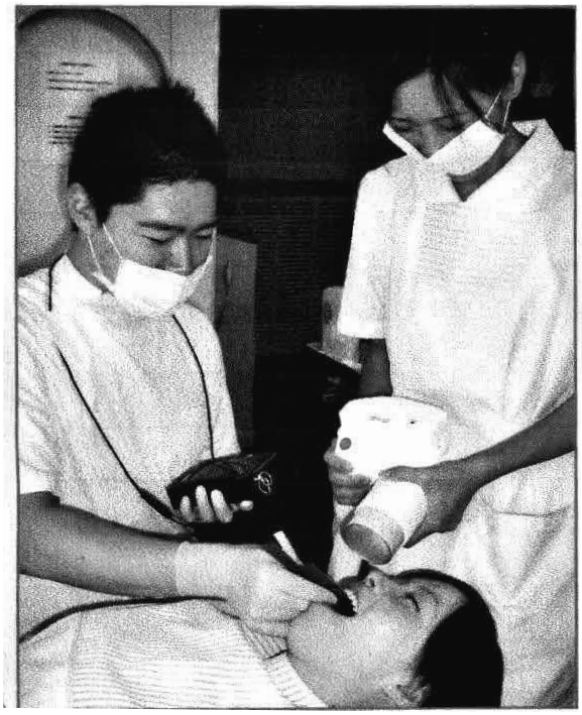


写真1．手持ち撮影歯科用エックス線装置による診療（メーカーのパンフレットより引用）

2．従来（医薬発第188号通知）の歯科用装置の規制

国際放射線防護委員会（ICRP）の1990年勧告の取り入れに伴い、平成13年4月1日から「医療法施行規則の一部を改正する省令」が施行された。それに併せて「医療法施行規則の一部を改正する省令の施行について」と題する厚生労働省医薬局長通知（医薬発第188号）が発出され、医療現場における放射線管理の参考とされてきた（現在は廃止されている）。

エックス線診療室などの構造設備に関する事項は、医療法施行規則第30条の4で規定されており、第2号では「エックス線診療室の室内には、エックス線装置を操作する場所を設けないこと。」との規定があり、そのただし書きで「近接透視撮影を行うとき、若しくは乳房撮影を行う等の場合」と除外例が示されている。医薬発第188号通知第二個別事項（三）エックス線診療室等の構造設備に関する事項１エックス線診療室（第30条の4）の（3）の（イ）には、「1週間につき1,000ミリアンペア秒以下で操作する口内法撮影用エックス装置による撮影を行う場合」と規定されていた。

さらに同項（4）では「(3）の（イ）の場合のうち、一時に２人以上の患者が診察を行わない構造になっている口内法撮影用エックス線装置による撮影を行う室については、エックス線診療室と診察室とを兼用しても差支えないこと。なお、この場合にあっても第30条の4に定める基準を満たし、あわせて管理区域を設定し第30条の16に定める措置を講じること。これ以外の場合にあっては、増改築、口内法撮影用エックス線装置の購入等の機会をとらえ、速やかに専用のエックス線診療室を整備されること」と規定されていた。この規定を根拠に、医療法第25条第1項に基づく立入検査では指導がされた。

一方、エックス線装置の防護は、医療法施行規則第30条で規定されている。同条第1項（１）ハには、「定格管電圧が125キロボルト以下の口内法撮影用エックス線装置にあっては、エックス線管焦点から1メートルの距離において、0.25ミリグレイ毎時以下」とあり、同条第1項（2）イでは、

「定格管電圧が70キロボルト以下の口内法撮影用エックス線装置にあっては、アルミニウム当量1.5ミリメートル以上」と利用線錘の総濾過となるような附加濾過板を付することが求められている。

また同条第3項（2）では、エックス線管焦点皮膚間距離について、定格管電圧が70キロボルト以下の口内法撮影用エックス線装置では15センチメートル以上、定格管電圧が70キロボルトを超える装置にあっては20センチメートル以上との規定もある（写真2）。

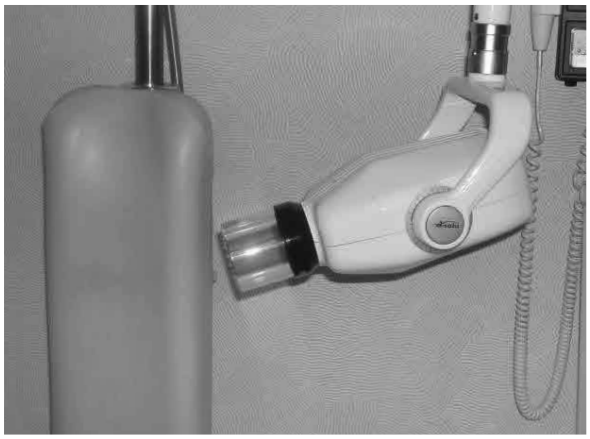


写真２．口内法撮影用エックス線装置概観

３．改正された（医政発0315第4号通知）規制

平成31年3月11日に公布された「医療法施行規則の一部を改正する省令（平成31年厚生労働省令第21号）」に伴い、「医療法施行規則の一部を改正する省令の施行などについて（平成31年3月12日付け医政発0312第7号厚生労働省医政局長通知）」によって、施行に当たっての留意事項が示された[2) 3)]。さらに、改正省令における診療用放射性同位元素および陽電子断層撮影診療用放射性同位元素の取扱い、エックス線装置を用いた新しい医療技術への対応、ならびに、これらを含む病院又は診療所における診療用放射線の取り扱いについて留意すべき事項として「病院又は診療所における診療用放射線の取扱いについて（平成31年3月15日付け医政発0315第4号厚生労働省医政局長通知）」が発出された[4)]。この取扱通知により、従来の医薬発第188号は廃止された。取扱通知の第3エックス線診療室等の構造設備に関する事項 1エックス線診療室 (第30条の4) の (3) (イ) では「1週間につき1,000ミリアンペア秒以下で操作する口内法撮影用エックス装置による撮影を行う場合」との規定はあるが、同項（5）で「(3) の（イ）の場合のうち、同時に２人以上の患者が診察を行わない構造になっている口内法撮影用エックス線装置による撮影を行う室については、エックス線診療室と診察室とを兼用しても差支えないこと。なお、この場合にあっても規則第30条の4に定める基準を満たし、あわせて管理区域を設定し第30条の16に定める措置を講じること。」とあり、従前の「これ以外の場合にあっては、増改築、口内法撮影用エックス線の購入等の機会をとらえ、速やかに専用のエックス線診療室を整備されること」の規定は削除さている。

さらに取扱通知の第4管理義務に関する事項1使用の場所等の制限（規則第30条の14）の（1）エにおいて、「歯科診療を行うチェアが1台で同時に2人以上の患者の診療を行わない構造の室においては、第3の1の（5）が適用されること。」とされている。

しかしながらこの取扱通知では、医療法施行規則第30条で規定されているエックス線装置の防護については触れられていない。

４．薬機法による薬事承認

規則第30条において、病院又は診療所に備えたエックス線装置は、「医療用エックス線装置基準（以下、基準）」に定める放射線障害防止の方法が規定されている[5)]。この基準は、「医薬品、医療機器などの品質、有効性および安全性の確保に関する法律（以下、薬機法」第42条第2項の規定に基づき定められた基準であり、診断又は治療に用いられる医療用エックス線装置を対象として、放射線障害を防止するために講じるべき方法が規定されている。この基準は、IEC（International Electrotechnical Commision：国際電気標準会議）が作成する国際規格に準拠しており、令和3年5月に口内法撮影用エックス線装置に関するIEC規格が改正されたことから、令和4年3月31日付けで、「医療用エックス線装置基準の一部を改正する件」が公布され、基準が改正された[6) 7)]。

改正前のIEC規格（2012）においては、手持ち撮影歯科用エックス線装置（写真１）では免除されていたが、改正されたIEC規格（2021）では、新たに放射線障害防止の方法が盛り込まれたことにより、冒頭に述べた医療法施行規則の一部が改

正された。改正趣旨をまとめると、以下の2点である。

1）漏れ放射線からの防御

定格管電圧が125キロボルト以下の手持ち撮影歯科用エックス線装置のエックス線管の容器および照射筒については、「エックス線管焦点から1メートルの距離において、0.25ミリグレイ毎時以下」とは別に、利用線錘以外のエックス線量が、「装置表面において、0.05ミリグレイ毎時以下」の空気カーマ率になるように遮へいすること。

2）迷放射線からの防御（写真３）

手持ち撮影歯科用エックス線装置においては、移動型および携帯型装置に求めている距離における防御を行えないことから、公称管電圧70キロボルトで0.25ミリメートル鉛当量以上の取り外しのできない後方散乱エックス線シールド構造を備えること。

改正前のIEC規格(2012）に基づく製品が販売された経緯は、当該製品を販売した業者が、一般社団法人日本医療画像システム工業会に加入していなかったことと、またJIS規格の改正においても、IEC国際規格のエックス線装置関連の最新の放射線防護規定への対応の遅れによるものと考えられる。

今回の基準改正により、改正省令による改正後の医療法施行規則（以下、新規則）の施行は令和7年4月1日となっている（改正省令附則第1条関係)。また、「改正省令の施行の際、現に病院又は診療所に備えられているエックス線装置に対する新規則第30条の規定の適応については、なお従前の例によることができること。」と経過措置が示されていることから、医療現場には、改正前のIEC規格（2012）に準拠した装置（写真１）と、改正IEC規格（2021）に基づく装置（写真３）が混在することになる。

写真３．新基準による手持ち撮影歯科用エックス線装置（メーカーのパンフレットより引用）

５．手持ち撮影歯科用エックス線装置を使用する想定

歯科診療に携わっていない診療放射線技師には、この手持ち撮影歯科用エックス線装置の導入に対して疑問を持たれると思う。この装置を医療現場で用いられる導入には以下のような事例が想定されている。

1）歯科診療室でインプラントの確認に用いる

製造販売会社からの添付文書では、歯根部処置中に診察台から移動してのエックス線撮影より安全との意見もあるが、歯科学会からの報告例は確認できない。

2）訪問診療に用いる

訪問診療では携帯型エックス線装置を使わざるを得ないが、装置を固定しての撮影が可能である場合には手持ち撮影を行うべきでない。また、訪問診療においても、エックス線撮影前の視診および触診などの段階で医療機関での治療が必要性が明らかになった場合は、撮影も医療機関で行われるべきであるとの意見がある。

3）災害時にご遺体の確認に用いる

災害時の避難所でのエックス線装置取り扱いについては通知が出されているが、遺体確認における簡易型の歯科撮影に関する規定はない。この事例は医療法の範囲外にあり、規制の在り方そのものが課題であると考えられる[8) 9)]。

６．まとめ

国際規格であるIEC規格 (2012) においては「歯科口内法Ｘ線源装置は、附属文書において次の情報が提供されていれば、正常な使用下のＸ線管負荷時に、手持ち操作であってもよい」とある。附属文書に求められる情報は、①操作者に対する、漏れＸ線および迷Ｘ線の値、Ｘ線管負荷中のＸ線源装置の動きによる画像の劣化を避けるための手引き、②製造業者によって指定された、操作者に対する漏れＸ線および迷Ｘ線の測定方法、ならびに動きによる劣化の２点であり、手持ち撮影歯科用エックス線装置（写真１）は条件を満たしていた。その後に改正されたIEC規格（2021）に適応するまでとして、3年後の施行となっている。

医療で放射線を使用する場合には、患者だけでなく介助／介護者の医療被ばくに加えて、放線診

療従事者の職業被ばく、そして周囲にいる家族、他の患者、見舞客などの公衆被ばくにも配慮しなければならない。手持ち撮影歯科用エックス線装置の使用場所としては、エックス線診療室内だけでなく、患者の自宅、介護施設、医療機関の診療室、手術室なども考えられる[10]。

使用場所がエックス線診療室外である場合には、患者および介助／介護者、放射線診療従事者の被ばく防護について十分な注意が求められる。併せて、歯科放射線学会から出されている「携帯型口内法X線装置による手持ち撮影のためのガイドライン」の遵守と、撮影場所にかかわらず、放射線防護の基本的手段の3原則（距離・時間・遮へい）の徹底が求められている[11]。

7．参考資料

1) 厚生労働省医政局長：医療法施行規則の一部を改正する省令の公布について、令和4年3月31日（医政発0331第33号）
2) 厚生労働大臣：医療法施行規則の一部を改正する省令、平成31年3月11日（厚生労働省令第21号）
3) 厚生労働省医政局長：医療法施行規則の一部を改正する省令の施行について、平成31年3月12日（医政発0312第7号）
4) 厚生労働省医政局長：病院又は診療所における診療用放射線の取扱いについて，平成31年3月15日（医政発0315第4号）
5) 医療用エックス線装置基準：平成13年3月22日（厚生労働省告示第75号）
6) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律（昭和35年法律第145号）
7) 医療用エックス線装置基準の一部を改正する件：令和4年3月31日（令和4年厚生労働省告示第114号）
8) 医療行為及び医療関係職種に関する法医学的研究（平成元年厚生科学研究報告書）
9) 医療行為に関する法的研究（平成25年度厚生労働科学特別研究事業報告書）
10) 国立保健医療科学院：医療放射線の安全管理の考え方を解説するサイトです、No. 233 手持ちタイプの歯科用X線装置
11) 歯科放射線学会防護委員会：携帯型口内法X線装置による手持ち撮影のためのガイドライン

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会役員選挙公示

会員各位
2023年4月13日
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
選挙管理委員会委員長　三橋　則行

2023年1月16日公示しました公益社団法人埼玉県診療放射線技師会役員選挙について、2023年4月12日に立候補届を締め切り、下記候補者が決定しました。

つきましては、立候補者数が定数を超えないため、定款19条および役員選出規程12条により、総会において無投票にて当選者を定めるものとします。

記

理事　立候補者　（20人）

浅見　純一、今出　克利、潮田　陽一、大友　正人、大西　圭一、大野　　渉、
城處　洋輔、紀陸　剛志、肥沼　武司、近藤　敦之、佐々木　健、佐藤　吉海、
清水　邦昭、滝口　泰徳、富田　博信、仲西　一真、中根　　淳、八木沢英樹、
矢﨑　一郎、吉田　　敦

監事　立候補者　（2人）

淺野　克彦、田中　　宏

2023年度 診療放射線技師のための フレッシャーズセミナー （第24回SARTセミナー）

主催：公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
共催：公益社団法人日本診療放射線技師会

本セミナーは新入会員を対象とした、日本診療放射線技師会と埼玉県診療放射線技師会の合同企画です。技師会活動の紹介および日常業務に必要な基礎的知識や実習に加え、社会人として必要とされるマナーなどの習得を目的として開催しています。会場内は密を避けるために席数を減らし人数制限を行います。ご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。

会員、非会員問わず、皆さまの受講をお待ちしております。

記

セミナー名：2023年度 診療放射線技師のためのフレッシャーズセミナー
日　　時：2023年5月28日（日）9：30～18：15
会　　場：埼玉会館　7B会議室
※新型コロナウイルス感染状況により、オンライン配信に変更する場合があります。
定　　員：60人（定員となり次第、申込を締め切ります）
対 象 者：診療放射線技師
受 講 料：無料
申込方法：本会Webサイトからお申し込みください。（http：//www.sart.jp/）
申込期間：2023年4月10日（月）～5月12日（金）（申し込み期間終了しました）
※本講習会は、JARTのラダー教育システムの指定講習会となります。

プログラム（敬称略）

9：30～ 9：35	開講式・オリエンテーション	
9：35～ 9：40	会長あいさつ	田中　宏（埼玉県診療放射線技師会会長）
9：40～10：10	患者さんに優しい診療放射線技師	大河原侑司（さいたま赤十字病院）
10：10～10：40	社会人としてのエチケット・マナー講座	中根　淳（埼玉医科大学総合医療センター）
10：40～11：10	被ばく低減	宮崎　千晶（埼玉医科大学国際医療センター）
11：20～12：20	医療安全講座	金野　元樹（上尾中央総合病院）
12：20～13：20	休憩（お弁当をご用意させて頂きます）	
13：20～14：20	感染対策講座	茂木　雅和（上尾中央総合病院）
14：30～15：20	検査手技と読影（一般撮影）	高橋　忍（埼玉医科大学病院）
	検査手技と読影（消化管撮影）	小林　茂幸（深谷赤十字病院）

会　告

15：30～16：20　検査手技と読影（CT・肺）
荻野　奈規（済生会川口総合病院）
検査手技と読影（MRI）
西山　　翔（埼玉医科大学病院）
16：30～18：00　気管支解剖講座
富田　博信（済生会川口総合病院）
18：00～　閉講式・入会案内

以上

【お問い合わせ先】
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会　TEL：048-664-2728　FAX：048-664-2733
常務理事（総務）：今出 克利（大宮医師会）
mail：k-imade＠sart.jp

第12回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会定期総会のお知らせ

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長　田中　　宏

拝啓　陽春の候、皆さまにおかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本会は第12回定期総会を下記の通り開催致しますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。なお、当日ご欠席の場合は、お手数ながら委任状を2023年5月26日（金）までに、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

日　　時：2023年6月11日（日）　14：00から
会　　場：埼玉会館　7A会議室
　　〒330-8518　さいたま市浦和区高砂3-1-4
　　（TEL）048-829-2471

第１号議案　2022年度　事業報告（案）
第２号議案　2022年度　決算報告（案）
第３号議案　2022年度　監査報告
第４号議案　名誉会員の承認
第５号議案　その他
2022年度　補正予算　　報告
2023年度　事業計画・予算　報告

特別講演　テーマ：技師会が教えてくれたこと
　　講　師：公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 会長　田中　　宏

＊総会資料につきましては会誌5月272号、決算関係はホームページをご覧ください。

以上

【お問い合わせ】（公社）埼玉県診療放射線技師会　　総務担当　常務理事　　今出　克利
k-imade@sart.jp

お知らせ

埼玉県診療放射線技師会
電子ブックシステムのお知らせ

当会では、1954年からの会誌を電子ブック化（e-book）することになりました。

現在は、2000年まで閲覧できるようになっておりますが、順次拡大していく予定です。

当会ホームページ内、「埼玉県診療放射線技師会　電子ブックシステム」にアクセス（または下記URL、QRコード）していただき、ログインID・パスワードを入力の上、ご覧いただけます。

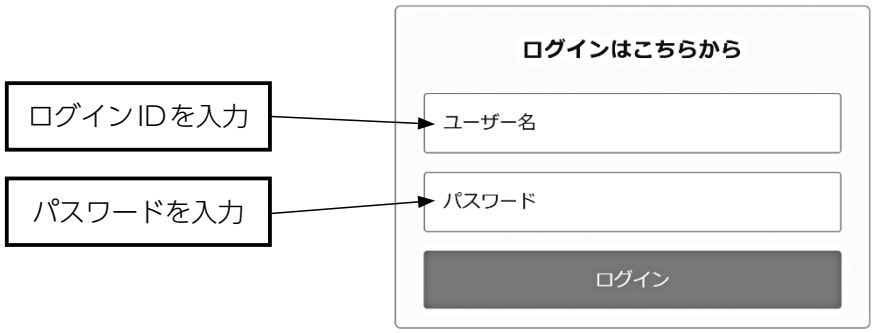
閲覧のためのパスワードが変更されました。下記の新パスワードを入力し、ログインしてください。

また、パスワードは毎年変更する予定となっており、今後、会員の皆さまには会誌でご案内させていただきます。

アクセスURL：https://e-books.sart.jp/sart/login.html

2023年度用
ログインID：sart_e-book2022
パスワード：sartmember2023

埼玉県診療放射線技師会
電子ブックシステム



お知らせ

(公社)埼玉県臨床検査技師会主催の講習会を診療放射線技師が会員価格で受講ができます。

このたび、職能団体のチーム医療を目的として、(公社)埼玉県診療放射線技師会と(公社)埼玉県臨床検査技師会で、お互いが企画する講習会を会員価格で受講することができる取り決めを行いましたのでお知らせ致します。

これまで職能団体の役員同士の交流はありましたが、会員同士の交流の機会はあまりありませんでした。最近では、診療放射線技師が心電図や血液データなどに興味を持ち、臨床検査技師の方が画像に興味を持っていると聞きます。そこでお互いの会員レベルの学術的交流を目的として企画致しました。

今後は、他職種との学術的な交流を深めるきっかけになればと考えております。

お知らせ

埼玉県診療放射線技師会　メールマガジンのご案内

当会では、イベントや勉強会情報があるときに、不定期でメールマガジンを配信しております。
登録数は徐々に増えてきておりますが、まだまだ少ない状況です。
そこで、今回このようなページを企画致しました。ご覧の皆さまには、ぜひ当会ホームページよりメールマガジンにご登録いただけますようお願い申し上げます（お名前とメールアドレスだけで登録できます）。
以下、No.93 で配信したメールマガジンの例です。多くの皆さまの登録をお待ちしております。

【埼放技メールマガジン】No.93
▼編集情報委員会からのお知らせ▼
――――――――――――――

埼放技メールマガジンのご利用ありがとうございます。
学術案内などの日程を埼玉県診療放射線技師会HPに掲載しております。
http：//www.sart.jp/
――――――――――――――

第35回日本診療放射線技師学術大会（埼玉県開催）
開催日：2019年９月14日（土）から16日（月・祝）
会場：大宮ソニックシティ
◆…―【近日開催イベント・お知らせのご案内】―…◆
平成31年４月16日（火）締め切り　告示（2019・2020年度　役員選挙について）
【支部】http：//www.sart.jp/radiotech/branch/　からお進みください。
平成31年１月24日（木）第四支部勉強会のお知らせ
平成31年１月24日（木）第五支部情報交換会のお知らせ
【学術案内】http：//www.sart.jp/radiotech/information/　からお進みください。
平成31年１月25日（金）第１回SART 学術ナイトセミナー～本当に理解している？ DR、CT の撮影条件と線量管理～
平成31年１月26日（土）平成30年度胸部認定試験開催のお知らせ
平成31年１月26日（土）第６回サイコメ実臨床セミナー「災害医療」一緒に学びませんか！
平成31年２月 ２日（土）第29回埼玉県大腸がん検診セミナー
平成31年２月 ２日（土）地元開催の全国大会で研究成果を発表しよう～研究発表支援セミナー～
平成31年２月 ９日（土）日本放射線公衆安全学会　第28回講習会　プログラム
改正RI法における医療現場の対応の最終準備
平成31年２月15日（金）第43回SAITAMA MRI Conferenceご案内
平成31月２月22日（金）第75回埼玉CT Technology Seminar開催のご案内
平成31年２月24日（日）平成30年度SART TART支部合同勉強会骨軟部撮影セミナー2019
【埼放技メールマガジン】
アドレスの変更・削除などは、以下のアドレスへご連絡ください。mail_magazine2007@sart.jp

お知らせ

賛助会員さまへのお知らせ

編集情報委員会常務理事
清水　邦昭

会誌「埼玉放射線」への“技術解説・広告”のご依頼

日ごろから埼玉県診療放射線技師会へのご支援・ご協力ありがとうございます。
“2023年度賛助会員さま”の特典の一つに、会誌「埼玉放射線」に技術解説・広告掲載があります。
会誌掲載投稿のお願いを申し上げます。詳細については以下に記します。

掲載内容：技術解説（製品紹介）A4　3頁＋広告A4　1頁＝計　4頁
会誌「埼玉放射線」発行月：１月・５月・７月・10月となります。

原稿締め切り：発行月１ヵ月前の第１月曜日までに電子メールでお送りください。
なお、掲載希望月は賛助会員さまでお決めいただき、あらかじめ電子メールにてお知らせください。
また、１企業さまにつき年度内に１回の掲載とさせていただきます。
（2023年７月・10月・2024年１月・５月発行月までに１回）

原稿詳細：以下に示します。

企画書および執筆要綱

埼玉放射線「技術解説（製品紹介）」
企画協力：（公社）埼玉県診療放射線技師会　会誌「埼玉放射線」

企画意図
　急速に進歩する医療業界においては、常に最新機器や医薬品・放射線被ばくの観点から、施設や線量測定技術などの情報、今後の動向を探ることが重要である。広い視野を持った業務遂行、被ばくに関する説明など、今後における業務の一助となることを目的とする。

対象読者
　「埼玉放射線」の読者である（公社）埼玉県診療放射線技師会の会員（診療放射線技師）、「埼玉放射線」の配布先関係者（発行部数1561部）。

お知らせ

「メディカルオンライン学会誌無料閲覧サービスについて」

編集情報委員会
常務理事　清水　邦昭

本会会員は、専用アカウント（ID／PW）を用いてメディカルオンライン無料閲覧サービスを受けることができるようになりました。

※メディカルオンライン（Medical Online）とは、医学論文をダウンロード提供する医療の総合ウエブサイト。医学文献の検索全文閲覧をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供する、会員制の医学・医療の総合サイト。

サービスの内容：メディカルオンラインで掲載の本会会誌「埼玉放射線」（全文・アブストラクト）、および他学会誌アブストラクトを無料で閲覧・検索することができます。

2023年度アカウントについて
＜～2024年３月末日まで有効＞

学会さま専用ID：1100007180-08
パスワード：a65bdpfd

雑誌名：埼玉放射線
雑誌URL：http://mol.medicalonline.jp/archive/select?jo=ew2saita
貴会雑誌URLをクリックしますと、機関誌アーカイブ画面へ遷移します。
画面右側の会員認証欄に上記ID/PWご入力後、機関誌の閲覧が可能となります。
（添付：学会誌閲覧方法.pdfご参照）

＊重要　アカウントの更新・移行期間に関して

専用アカウントは、１個発行し、年度ごと（４月～３月）で変更致します。
次回は、2024年２月上旬に新アカウントを事務局さま（本Mailアドレス）へご案内致します。

＊メディカルオンラインでの検索は自由、アブストラクトは全誌閲覧可能です。

なお、埼玉放射線以外で全文ダウンロードボタンを押すと
「あなたは文献をダウンロードする権限がありません」と表示されます。
あらかじめご承知願います。

お知らせ

＊メディカルオンラインご利用に際してのお願い

一定時間内に論文を大量にダウンロードする事は、会員規約で禁止事項としています。

◆メディカルオンライン会員規約◆
http://www.medicalonline.jp/img/houjinkiyaku.pdf

※大量ダウンロードが発生した場合
そのご利用端末に対し、最大で１時間の利用停止措置の案内がメディカルオンラインより自動配信されます。

配信後においてもさらに続きますと、メディカルオンラインのサーバーに必要以上の負荷が掛かるため本会専用アカウントの利用停止に至る場合があります。

株式会社メテオ
コンテンツ部
東京都千代田区神田須田町2-7-3
TEL：03-5577-5877　FAX：03-5577-5878

第12回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会定期総会

次　　第

開　会　の　辞
会　長　挨　拶
来　賓　挨　拶
表　　彰
総会運営委員会報告
議　長　選　出
総会職員任命
議　　事
報　　告

第1号議案　2022年度　事業報告（案）
第2号議案　2022年度　決算報告（案）
第3号議案　2022年度　監査報告
第4号議案　名誉会員の承認
第5号議案　その他
2022年度　補正予算　　報告
2023年度　事業計画・予算　報告

閉　会　の　辞

第12回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会定期総会

2022年度事業報告（案）

2022年度事業報告（案）

1．総括

2022年度はこれまでに習得したWeb技術を可能とし、学術大会、講習会、会議を安定的に運用することができました。3年間運用してみて分かったことは、Webによる学会では本音トーク、いわゆる「ここだけの話」がしにくくなったという新たな発見がありました。思った以上に「ここだけの話」がいかに重要であったかを再認識できました。また、全国を対象とできるためアピール次第では参加者が増えると予想しましたが、必ずしもそうではないことです。現地に行き、人と会うことでモチベーションを保つことができるということも改めて再認識させられました。

年度後半では、世間において社会全体ではアフターコロナに移行して日常を取り戻しているが、医療現場ではハイブリットの有効活用を試みています。今後はこのハイブリット技術をどのような形で運用するのが最も効果的なのかを実行して検証する必要があると考えます。

2021年10月1日施行の診療放射線技師法改正による告示研修については受講定員が厚生労働省から決められており、さらには開催する側のマンパワーの問題で開催回数に限界があることから今後の課題ではありますが、少しでも多くの会員が受講できるように努力していきたいと思います。

コロナ禍の中で、ご協力を頂きました会員の皆さま、会務に果敢に挑戦してくれた理事、委員、支部役員、関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。

名誉会員の承認

本会へ多大な貢献があった会員として中野寿夫氏、尾形智幸氏を名誉会員に推薦させていただきました。ご審議の程、よろしくお願い申し上げます。

会員の育成

埼玉では以前から、講師育成に取り組んでまいりました。埼玉の会員が、他学会、他県技師会などで多くの人材が活躍をしております。近年では国際学会へ発表する診療放射線技師が増えてきており、今後は技師会としてバックアップを行い、人材の育成に取り組んでまいります。

役員の育成

技師会で学び育った人材が各施設でリーダーシップを発揮し、さらに人材育成をしていただくことは技師会の役目でもあります。他職種と多くの関わりあいを持ち役員の成長につなげてまいります。

他団体との連携強化

埼玉県診療放射線技師学術大会では埼玉県臨床検査技師会、埼玉県理学療法士会、埼玉県臨床工学技師会の代表をお招きし、密な情報交換を行うことができました。

1）総務

入会促進事業の一つであるフレッシャーズセミナーは新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会場型での開催が困難となったため、オンライン形式で開催し、県内外から多数ご参加いただきました。今後も会員入会促進事業として継続していきたいと考えております。

永年勤続表彰事業は、日本診療放射線技師会より委託されている50年・30年の対象者を選出し返信いただいた会員のかたがたを日本診療放射線技師会に推薦致しました。表彰は2022年兵庫県開催の第38回日本診療放射線技師学術大会にて表彰されました。埼玉県診療放射線技師会の40年・20年永年勤続表彰は、対象者となる会員のかたがたを選出し、表彰委員会での承認を経て当会定期総会にて表彰予定です。

恒例となりました新年当初の「新春の集い」は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。

役員研修会を開催し、あぜもと代議士の案内のもと国会見学が行われ、役員および役員家族に多数ご参加いただきました。

今年度は、いろいろな行事が新型コロナウイルス感染症のため例年通りとは行きませんでしたが、いずれの事業におきましても入会促進また会員の福利厚生の事業として開催形式にこだわらず今後も継続していきたいと考えております。

2）学術

今年度も新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、各種講習会やセミナー、認定講習会、認定試験に関しては、オンライン方式にて開催しました。学術ナイトセミナーでは、CT Angiographyにおける造影剤の注入条件、撮影タイミングの決定、MRIの非造影

Angiographyのシーケンスや同期の選択についてワンポイントアドバイスとなる内容を企画し、初学者から中級者に向けて有益な情報を提供しました。

第36回埼玉県診療放射線技師学術大会については、会場とWeb配信を併用したハイブリッド方式にて開催しました。一般演題のセッションでは立ち見が出るほどの参加があり、活発な討論も行われ、以前の学術大会の光景が戻って来た印象がありました。

今後の学術大会や各種講習会の開催においては、ハイブリッド方式の需要が高まることも想定し、多くの会員の皆さまに参加していただける環境を整備して行きたいと考えています。

3）編集・情報

会誌「埼玉放射線」を計4号発刊しました。編集・情報活動は本会活動の中でも、重要な事業と考えています。

会誌「埼玉放射線」は、平成26年から発行回数が年4回となりましたが、その分、内容をさらに充実させることへ力を注ぎました。

Webサイトについては、診療放射線技師向け情報提供や講習会などの申し込みの他、「診療放射線技師として必要な情報はなるべく掲載する」という方針のもと、多岐にわたる情報を発信しました。また県民の方が閲覧しても有益なよう、医療被ばくについての解説や、放射線検査の紹介など、放射線診療に関する正確な情報を、専門家の立場から分かりやすく提供しました。

これらWebサイトの他、定期的に会員向けメールマガジンの配信を行いました。Webサイトやメルマガは即時性の高い情報提供手段と考えています。

今後は、会員のために充実した魅力ある技師会・会誌になるよう務めていきたいと考えます。

4）公益

2022年度本会公益活動として、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止を余儀なくされました。

・埼玉県各支部の医療画像展でのパネルを使用した放射線検査や治療などの説明とパンフレットの配布
・放射線特別授業

を再開することができました。

それに加え従来の

・ホームページからの被ばく相談
・放射線被ばくに関する講習会
・被ばく相談事例検討会

を継続して行いました。特に被ばく相談事例検討会は3年振りの会場型開催とし、活発な議論をすることができました。

次年度も従来の活動を踏襲するだけでなく、公益活動について、環境にあわせた活動を熟考しながら行っていく所存です。

2．事業遂行評価

1．職業人としての質の向上

（1）学術大会・認定講習会・セミナーの定期開催

ア．埼玉県診療放射線技師学術大会の開催　○
イ．埼玉県診療放射線技師支部合同秋季大会　○
ウ．胸部撮影認定講習会　○
エ．上部消化管検査認定講習会　○
オ．フレッシャーズセミナー（SARTセミナー）　○
カ．放射線技術部門マネジメント・セミナー　×
（医療安全、接遇・クレーム、医療経営、人材育成）
キ．CT認定講習会　○
ク．MRI基礎講習会　○
ケ．乳腺セミナー　○
コ．DR計測セミナー　○
サ．救急撮影ケーススタディー　△
（日本救急撮影技師認定機構との共催）
シ．読影力向上のための講習会　×
（支部開催セミナー）
ス．AI（Artifical Intelligence）関連講習会の開催　×
セ．オンラインセミナー、学会の充実およびデジタル化　○
ソ．業務拡大2015年統一講習会の継続および告示研修開催への協力　○
タ．オンライン会議の推進　○

（2）会員講師の育成と体制づくり　○

（3）他県診療放射線技師会や他団体との合同講習会企画推進

ア．関東甲信越診療放射線技師学術大会への協力　○
イ．日本診療放射線技師全国大会への協力　×
ウ．埼玉県医師会主催事業への支援　○
エ．埼玉県臨床検査技師会への協力　○

オ．日本放射線技術学会関東部会との合同企画×
カ．日本診療放射線技師会との合同開催企画　×
キ．各認定機構との合同企画(埼玉開催の推進)×

2．組織運営に関わる事業
（1）行政との連携　○
（2）入会促進事業の強化　○
（3）会員データベースの再構築　△

3．公益目的事業
（1）学術情報の提供　刊行誌「埼玉放射線」の発刊　○
（2）市民公開講座の開催　×
（3）地域自治体主催事業への参画　○
（4）医療画像展の開催と支援　○
（5）県民向けホームページの充実　×
（6）医療被ばく相談の迅速な対応　○
（7）中学高校における特別授業の担務　○

4．編集・情報
（1）本会会誌「埼玉放射線」の充実　○
（2）診療放射線技師向けホームページの充実　○
ア．各講習会、セミナー、イベントなどの迅速な広報　○
イ．学術データベースの充実　×
（3）e-book 事業の推進　×
（4）メールマガジンの有効利用　○

5　その他
（1）他医療職種団体との連携　○
（2）日本診療放射線技師会・他県技師会への協力　○

2022年度各事業報告

1．総務事項報告

（1）2022年度役員は次の通りである。

役職名	氏名	担当
会長	田中　宏	
副会長	富田　博信	
同	潮田　陽一	
監事	堀江　好一	
同	浅野　克彦	
常務理事	今出　克利	総務
同	八木沢英樹	総務
同	城處　洋輔	学術
同	中根　淳	学術
同	佐々木　健	公益
同	清水　邦昭	編集・情報
理事	肥沼　武司	財務
同	近藤　敦之	学術
同	滝口　泰徳	学術
同	吉田　敦	編集・情報
同	紀陸　剛志	公益
同	双木　邦博	総務・第一支部
同	大西　圭一	総務・第二支部
同	市川　隆史	総務・第三支部
同	大野　渉	総務・第四支部
同	矢﨑　一郎	総務・第五支部
同	茂木　雅和	総務・第六支部

（2）　会議開催状況

ア．総会

第11回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会総会を2022年6月12日（日)、埼玉会館において会員24人出席、有効委任状提出722人（全委任状提出791人、無効委任状69人)、合計746人にて開催した。総会では2021年度事業報告案、2021年度決算報告案、2021年度監査報告、および名誉会員の承認などについて審議し決議した。

イ．理事会は下記の通り7回開催し、重要案件について審議し決議した。

理事会開催状況

	年月日	開催場所
1	2022.05.26	オンライン開催
2	2022.07.07	同
3	2022.08.04	同
4	2022.09.01	同
5	2022.11.10	同
6	2023.01.05	同
7	2023.03.02	同

ウ．常務理事会は下記の通り4回開催し、理事会への提案議題の審議ならびに決定事項について処理した。

常務理事会開催状況

	年月日	開催場所
1	2022.04.07	オンライン開催
2	2022.10.06	同
3	2022.12.01	同
4	2023.02.02	同

エ．その他

連絡会議ならびに予算会議を開催、会務の重要事項について審議立案し､必要事項を調整しこれを処理した。

連絡会議

	年　月　日	開　催　場　所
1	2022.05.19	オンライン開催
2	2022.06.30	同
3	2022.07.28	同
4	2022.08.25	同
5	2022.10.27	同
6	2023.02.22	同

予算会議

	年　月　日	開　催　場　所
1	2022.12.27	オンライン開催
2	2023.02.02	常務理事会内（Web）

全国会長会議

	年　月　日	開　催　場　所
1	2022.07.17	三田国際ビル

関東甲信越会長会議

	年　月　日	開　催　場　所
1	2022.06.24	Gメッセ群馬

北関東地域会長会議

	年　月　日	開　催　場　所
1	2022.06.24	Gメッセ群馬
2	2022.11.26	オンライン開催

（3）各委員会開催状況

各委員会開催状況は別表の通りである。

委　員　会　名	開　催　年　月　日
総会運営委員会	2022.12. 12
編集情報委員会	2022. 06.03 2022.11.04 2023.03.15
学術委員会	2022.05.11 2022.07.15 2022.08.23 2022.10.18 2022.12.05 2023.02.06 2023.02.21
公益委員会	2022.07.08 2022.09.08 2023.01.19
放射線特別授業運営委員会	公益委員会と合同
臨時総務委員会	2022.09.07

表彰委員会

	年　月　日	開　催　場　所
1	2022.06.29	オンライン開催
2	2022.12.15	オンライン開催
3	2023.02.13	オンライン開催

（4）各種委員会名簿

ア．表彰委員会

役　職　名	氏　　名
委　員　長	藤間　英雄
委　　員	橋本　里見　　小島　精一
同	渡辺　　弘　　田中　　宏
同	富田　博信　　潮田　陽一
同	今出　克利　　八木沢英樹
同	平野　雅弥

イ．医療画像展実行委員会（秩父会場）

開催形式の変更により不参加

ウ．医療画像展実行委員会（浦和区会場）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を考慮して参加辞退

エ．医療画像展実行委員会（川越会場）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止

オ．医療画像展実行委員会（越谷市会場）

実行委員	氏　　名
委　　員	矢部　　智　　中嶋　幸孝
同	長坂　　純
同	矢﨑　一郎　　中村　優志

カ．医療画像展実行委員会（深谷会場）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止

キ．医療画像展実行委員会（伊奈町会場）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止

ク．医療画像展実行委員会（行田会場）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止

ケ．編集・情報委員会

役　職　名	氏　　名
委　員　長	清水　邦昭
副委員長	吉田　　敦
委　　員	肥沼　武司　　潮田　陽一
同	宮崎　雄二　　八木沢英樹
同	大友　哲也　　渡部　伸樹

同	堀越　隆之

コ．学術委員会

役　職　名	氏　　名
委　員　長	城處　洋輔
副委員長	中根　　淳　　近藤　敦之
同	滝口　泰徳
委　　員	今出　克利　　寺澤　和晶
同	土田　拓治　　佐々木　健
同	伊藤　寿哉　　大根田　純
同	亀山　枝里　　妹尾　大樹
同	浅見　純一　　吉澤　孝郁
同	戸澤　僚太　　新島　正美

サ．公益委員会

役　職　名	氏　　名
委　員　長	佐々木　健
副委員長	紀陸　剛志
委　　員	志藤　正和　　内海　将人
同	石田　仁子　　坂庭　琴美
同	大河原侑司　　佐藤　克哉
同	宮崎　千晶　　嶋崎　恭介

シ．総務・財務委員会

役　職　名	氏　　名
委　員　長	今出　克利
副委員長	八木沢英樹　　潮田　陽一
委　　員	肥沼　武司
同	双木　邦博　　大西　圭一
同	市川　隆史　　大野　　渉
同	矢﨑　一郎　　茂木　雅和
同	田中　達也　　矢部　　智
同	佐々木　剛　　岡田　尚也
同	福田　　栞　　戸澤　　茜

ス．総会運営委員会

役　職　名	氏　　名
委　員　長	三橋　則行
委　　員	三島　裕介　高橋　将史
同	増渕　康太　矢部　　智
同	野口　裕輔

セ．総会実行委員会

役　　職　　名	氏　　名
委　員　長	田中　　宏
副委員長	富田　博信　　潮田　陽一
委　　員	今出　克利　　八木沢英樹
同	城處　洋輔　　中根　　淳
同	清水　邦昭　　佐々木　健

（5）表　彰

叙勲瑞宝双光章受賞（敬称略）

（春）田中 武志、（秋）中野 寿夫

保健衛生知事表彰（敬称略）

該当者なし

公衆衛生功労知事表彰（敬称略）

八木沢英樹　　齊藤　幸夫　　志田　智樹

公衆衛生事業功労者（財）日本公衆衛生協会会長表彰（敬称略）

該当者なし

（公社）日本診療放射線技師会表彰

永年30年勤続者表彰（13人、敬称略）

荒木　新也、石田　直之、大塚　善治、
小林　芳春、征矢　　強、田原　孝浩、
土田　拓治、蓮見眞一郎、松本　洋栄、
宮崎　雄二、宮野　勝典、矢部　　智、
山崎由紀敏

永年50年勤続者表彰（1人、敬称略）

佐々木正夫

（公社）埼玉県診療放射線技師会表彰

永年20年40年勤続表彰対象者は総会当日に報告致します。

（6）物故者：藤井　正夫（フジイ　マサオ）さま
第一支部

（7）会員の動向（2023年2月22日現在）

項　　目		会　員　数
2021年度末	会員数	1,394人
2022年度	新入会者数	115人
同	再入会者数	11人
同	転入者数	17人
同	転出者数	13人
同	退会者数	49人
2022年度末	会員数	1,475人

（8）2022年度賛助会員17社（順不同）

シーメンスヘルスケア株式会社
GEヘルスケア・ジャパン株式会社
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
株式会社メディカル・サービスT&K

コノカミノルタジャパン株式会社
カイゲンファーマ株式会社
富士フイルムメディカル株式会社
富士フイルムヘルスケア株式会社
日本メジフィジックス株式会社
株式会社フィリップス・ジャパン
バイエル薬品株式会社
PDRファーマ株式会社
株式会社サイカンシステム
島津メディカルシステムズ株式会社
株式会社東日本メディカル.
株式会社ドクターネット
株式会社アゼモトメディカル

2．学術教育活動報告

（1）第6回学術ナイトセミナー
CT・MR Angiographyのための
ワンポイントアドバイス
講　　師：中根　　淳、加々美　充
日　　程：2022年7月29日（金）
　　2022年8月5日（金）Web配信のみ
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：47人

（2）第7回DR計測セミナー
講　　師：樋口　誠一、戸澤　僚太
日　　程：2022年11月11日（金）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：17人

（3）第13回CT認定講習会
講　　師：富田　博信、染野　智弘、八木沢英樹、
　　寺澤　和晶、中根　　淳、城處　洋輔
日　　程：2022年11月20日（日）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：10人

（4）第20回胸部認定講習会
講　　師：滝口　泰徳、曽根　達也、笹原　重治、
　　森　　一也、戸澤　僚太、佐々木　健
日　　程：2022年11月27日（日）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：16人

（5）乳腺セミナー
講　　師：佐藤夏都美、新島　正美、亀山　枝里
日　　程：2023年1月15日（日）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：13人

（6）胸部認定試験
日　　程：2023年1月15日（日）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：11人
認 定 者：A認定　該当者なし
　　B認定　吉澤　孝郁、五十嵐　慧、
　　松吉　和樹、奥田さくら、
　　新井　隼統、須崎　雅人

（7）CT認定試験
日　　程：2023年1月19日（木）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：7人
認 定 者：A認定　該当者なし
　　B認定　安澤　毅幸、武田　尚也、
　　白石　健吾

（8）救急撮影ケーススタディ
講　　師：岡本　拓己、武田　尚也、宮本　桃子、
　　佐々木　健、大根田　純、滝口　泰徳
日　　程：2023年1月20日（金）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：10人

（9）第20回上部消化管検査認定講習会
講　　師：浅見　純一、志田　智樹、伊藤　寿哉、
　　池田　圭介、今出　克利、大森　正司
日　　程：2023年1月22日（日）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：7人

（10）上部消化管検査認定試験
日　　程：2023年2月5日（日）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：2人
認 定 者：A認定　該当者なし
　　B認定　該当者なし

（11）第36回埼玉県診療放射線技師学術大会
日　　程：2023年3月5日（日）
場　　所：大宮ソニックシティとZoomによるオ
　　ンライン配信を併用したハイブリッド開
　　催
参 加 者：238人

（12）MRI基礎講習会
講　　師：坂口　功亮、近藤　敦之、駒形　一成
日　　程：2023年3月25日（土）
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

参 加 者：19人

3．編集・情報・活動報告

（1）編集活動報告

2022年度の編集活動として、会誌「埼玉放射線」を第69巻265号から第70巻268号まで、計4回発刊致しました。

第69巻7月265号では、誌上講座：電離放射線障害防止規則改正への対応。第10回定期総会資料、技術解説など。

第69巻10月266号では、誌上講座：「脊髄再生医療リハビリテーションにおける当院の対応と診療放射線技師・臨床検査技師の関わり」。2020年度支部合同勉強会　抄録集 として、「さいたま赤十字病院の新人教育」 ～一般撮影部門を中心に～、「これってウチの施設だけ？教育方法の再検討」技術解説など。

第70巻1月267号では、第35回SART 学術大会抄録集、特集：第六支部2021年度Web定期講習会抄録集「大動脈解離について」、「外傷症例」、技術解説など。

第70巻5月268号では、第11回埼玉県診療放射線技師会定期総会資料。特集：「埼玉県内の核医学治療の現状」、誌上講座：冠動脈CT撮影のピットフォール、技術解説などを掲載しました。

（2）情報活動報告

ア「会員向けHP」

1）学術案内（19件）
2）表紙・巻頭言（4件）267～270号まで
3）会誌・バックナンバー（4件）264～267号まで
4）お知らせ（31件）

イ「一般向けHP」

1）「会誌・バックナンバー」（4件）264～267号まで
2）お知らせ（1件）

ウ「メールマガジン配信」

1）配信11件（no.113からno122まで）
2）登録13件

4．新春の集い

新型コロナウイルスの感染拡大により開催中止とした。

5．財務報告

決算関係報告は総会にて行います。

6．公益活動

（1）医療画像展

2回（Web開催含む）

（2）被ばく相談

ホームページにて11件（2023/03/20現在）

（3）放射線特別授業

・放射線について知ろう　1校2授業

講　　師：佐々木、紀陸　准講師：嶋崎

（4）被ばく相談事例検討会

講　　師：石田、宮崎、内海
日　　時：2023年2月18日(土)15：00～18：00
場　　所：さいたま市民会館（レイボックホール）
参 加 者：13人

（5）放射線被ばくに関する講習会

講　　師：嶋崎、大河原、志藤
日　　時：2023年1月25日(水)19：00～20：40
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：24人

7．支部報告

第一支部

支部理事　双木　邦博
監　　事　宮澤　浩治
役　　員　八木沢英樹　野々浦成美
　　福田　　栞　小野寺衣里
　　戸澤　僚太　内藤　完大
　　小泉　秀一　大岩　祐哉
　　鎌田　靖男　安田　一平
　　酒井　利幸　佐藤夏都美

（1）第1回支部勉強会

日　　時：2022年4月22日（金）19：00～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：40人
内　　容：

（ア）メーカー講演

「AI技術を用いたAplio iシリーズ
Prism editionのご紹介」
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
阿部　史称

「造影CTの基礎～安心安全な
医療を提供するために～」

株式会社根本杏林堂　宇越　弘樹

（イ）一般演題

「当院での一般撮影における再撮影率の傾向と対策」

JCHO埼玉メディカルセンター　浅賀やよい

「当院の新型コロナウイルス感染症対策下における胸部CT撮影の傾向」

JCHO埼玉メディカルセンター　川久保優妃

「当院の再生医療（膝）について」

埼玉協同病院　佐藤　直哉

（2）支部役員会

日　　時：2023年2月16日（木）19：00～

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

役　　員：11人

内　　容：勉強会内容、役員変更について

（3）第2回支部勉強会

日　　時：2023年3月23日（木）19：00～

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

参 加 者：44人

内　　容：

（ア）令和4年度会計報告

第一支部理事　双木　邦博

（イ）メーカー講演

「造影検査におけるリスクマネージメント―造影CT/MRI検査を中心に―」

バイエル薬品株式会社　小西　達也

「最新情報　MRI/マンモグラフィー/アンギオグラフィー」

シーメンスヘルスケア株式会社

MR事業部　大澤　勇一

XP事業部　青木　みき

Cardiology/IR事業部　金子　達也

（ウ）一般演題

「頭部領域におけるDual-Energy CTの有用性について」

さいたま市立病院　林崎芽衣里

第二支部

会　長（支部理事）	大西　圭一	
会　計	大西　圭一	
役　員	三島　裕介	梅澤　達也

第三支部

会　長（支部理事）	市川　隆史		
副会長	高橋　将史		
会　計	瀬川麻衣子		
監　事	今井　昇		
役　員	栗原　良樹	細井　慎介	
	堰　祐一	浅見　徹	

（1）第1回　支部役員会

日　　時：2022年6月3日(金) 19：00～19：40

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

参 加 者：4人

内　　容：2022年度事業日程について

（2）第2回　支部役員会

日　　時：2022年11月8日(火)19：00～19：40

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

内　　容：第1回第三支部勉強会について

参 加 者：6人

（3）第1回第三支部勉強会

日　　時：2022年11月22日(火)18：00～19：00

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

内　　容：若葉マークの撮影技術学

技師講演

「マンモグラフィー編」

埼玉医科大学病院　工藤いづみ

「核医学編」

埼玉医科大学病院　松本　朱音

参 加 者：36人

（4）第3回　支部役員会

日　　時：2022年11月22日(火)19：00～19：40

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

内　　容：第2回第三支部勉強会について

参 加 者：7人

（5）第4回　支部役員会

日　　時：2023年2月28日(火)18：00～18：40

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

内　　容：第3支部総会について

参 加 者：5人

(6) 第2回第三支部勉強会・総会

日　　時：2023年3月29日(水)18：30～20：00

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

内　　容：「埼玉医科大学国際医療センター新棟（化学放射線治療棟）の紹介」

埼玉医科大学国際医療センター

吉田　春果

「急性期脳梗塞の血管内治療について」

埼玉医科大学国際医療センター

柴田　美穂

参 加 者：32人

（7）第5回　支部役員会

日　　時：2023年3月29日(水)20：00～20：30

場　　所：Zoomを利用したオンライン開催

内　　容：役員交代による申し送り・次年度運営に関して

参 加 者：10人

第四支部

会　長（支部理事）	大野　　渉	
副会長	柏瀬　義倫	
会　計	高井　太市	
役　員	大谷　智則	増渕　康太
	田中　智大	横田　文克
	柏瀬　義倫	
監　事	山田　伸司	

（1）支部合同勉強会

日　　時：2022年5月21日（土）14：00～

内　　容：ディスカッション

～ なんでもいいから諸先輩に聞いてみよう！～

(ファシリテーター)

上尾中央総合病院　仲西　一真

さいたま市立病院　福田　　栞

(回答者)

かわぐち心臓呼吸器病院　竹本　直哉

埼玉西協同病院　北原　弘治

埼玉石心会病院　岡田　良祐

深谷赤十字病院　登坂　崇史

上尾中央総合病院　飯島　　竜

その他、セッションに参加されている皆さま方

(タスクシフト/シェアについてのアンケート)

埼玉県済生会栗橋病院　内海　将人

診療放射線技師のタスクシフト/シェアと業務拡大について

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会副会長

(兼)日本診療放射線技師会副会長　富田　博信

救急センター看護師だった診療放射線技師が、進化する診療放射線技師に伝えられること

座長：JCHO船橋中央病院　滝口　泰徳

講師：埼玉県済生会栗橋病院

放射線技術科　鈴木　孝義

参加者：50人

（2）医療画像展（秩父市保健センターまつり）

日　　時：2022年8月7日(日) 10：00～14：00

場　　所：秩父市保健センター

内　　容：骨密度測定、パネル展示、スーパーボール釣り、被ばく相談など

※開催形式の変更により不参加

（3）2022年度　第四支部　納涼会

※新型コロナウイルスの影響で中止

（4）第2回　第四支部勉強会

日　　時：2022年9月29日(木)19：00～21：00

内　　容：メーカー講演

X線TV　FLEXAVISION　F4

島津製作所　医用機器事業部

グローバルマーケティング部　飯沼　正雄　氏

頭部乳房専用PET　BresTome

島津製作所　医用機器事業部

グローバルマーケティング部　大谷　　篤　氏

技師講演：ちょっと怖い　糖尿病の話

秩父市立病院　横田　文克　氏

参 加 者：40人

（5）第2回　第四支部役員会

日　　時：2022年9月29日(木)21：00～21：30

内　　容：忘年会、勉強会、健康祭り

参 加 者：7人

（6）医療画像展（深谷市福祉健康まつり）

場　　所：深谷ビックタートル・深谷市総合体育館

内　　容：骨密度測定、パネル展示、スーパーボール釣り、被ばく相談など

※新型コロナウイルスの影響で中止

（7）2022年度　第四支部　忘年会

場　　所：マロウドイン熊谷

※新型コロナウイルスの影響で中止

（8）医療画像展（行田健康フォーラム2022）

場　　所：教育文化センターみらい

内　　容：骨密度測定、パネル展示、スーパーボール釣り、被ばく相談など

※新型コロナウイルスの影響で中止

（9）第3回　第四支部勉強会

日　　時：2023年1月19日(木)19：00～20：30

内　　容：メーカー講演

「Embo　familyの特徴とTIPS　」

ジョンソン・エンド・ジョンソン

セレノバス事業部2課　木村　萌子　氏

技師講演：
「急性期脳梗塞の診断から治療まで」
行田総合病院　放射線科　大谷　智則　氏
参 加 者：55人
(10) 第3回第四支部役員会
日　　時：2023年1月19日(木)20：30～21：00
内　　容：監査会、総会
参 加 者：6人
(11) 2022年度第四支部監査会
日　　時：2023年2月24日（金）19：00～
参 加 者：8 人
(12) 第4回第四支部勉強会・令和3年度第四支部総会
日　　時：2023年3月16日（木）19：00～
講演内容：「MRI ガイド下収束超音波治療（FUS）について」
熊谷総合病院　草薙　柾哉　氏
参 加 者：48人
(13) 第4回第四支部役員会
日　　時：2023年3月16日(木)20：30～21：00
参 加 者：8人

第五支部

支部理事　矢﨑　一郎
支部役員　岩井　悠二
石原　優希　　矢部　　智
村本　圭祐　　中嶋　幸孝
金子　初穂　　矢作　悠馬
町永　　努　　加藤　広一
長坂　　純　　中村　優志
曽根　昌弘　　駒崎　和弘

（1）医療画像展
日　　程：2022年10月23日（日）
場　　所：越谷市役所周辺
(越谷市民祭り内にて開催)

第六支部

会　長（支部理事）	茂木　雅和	
副会長	仲西　一真	
監　事	山口　　明	大森　正司
学　術	安川　紘平	池野　裕太
	木村　千尋	小保方　駿
広　報	吉井　　肇	
編　集	佐越　美香	
総　務	小屋　　匠	野口　裕輔
	茂木健太郎	
会　計	大川斗喜也	畠山　洋一

（1）第1回　支部役員会
日　　時：2022年4月14日（木）18：50～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：12人
（2）2022年度第六支部第一回定期講習会
日　　時：2022年4月28日（木）19：00～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：51人
内　　容：
施設講演
①明日から使える撮影技術と修正方法
～関節・膝関節編～
丸山記念総合病院　関谷　直樹
②当院における再撮影率低減に向けた取り組み
彩の国東大宮メディカルセンター　横山　　楓
技師講演
一般撮影　画像処理の基礎
～FUJIFILMユーザーの視点から～
上尾中央総合病院　樋口　誠一
（3）2022年度　支部合同勉強会
日　　時：2022年5月21日（土）13：30～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：52人
内　　容：
「ディスカッション　～ なんでもいいから諸先輩に聞いてみよう！ ～」
ファシリテーター
上尾中央総合病院　仲西　一真
さいたま市立病院　福田　　栞
回答者
かわぐち心臓呼吸器病院　竹本　直哉
埼玉西協同病院　北原　弘治
埼玉石心会病院　岡田　良祐
深谷赤十字病院　登坂　崇司
上尾中央総合病院　飯島　　竜
「タスクシフト/シェアについてのアンケート」
埼玉県済生会栗橋病院　内海　将人
【診療放射線技師のタスクシフト/シェアと業務拡大について】
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会副会長
(兼)日本診療放射線技師会副会長　富田　博信
「救急センター看護師だった診療放射線技師が、

進化する診療放射線技師に伝えられること」
座長　JCHO船橋中央病院　滝口　泰徳
講師　埼玉県済生会栗橋病院
放射線技術科　鈴木　孝義

（4）第六支部2022年度技術交流会
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止

（5）第六支部納涼会
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止

（6）第2回　支部役員会
日　　時：2022年9月15日（木）18：50～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：13人

（7）忘年会
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止

（8）2022年度第六支部第二回定期講習会
日　　時：2023年1月12日（木）19：00～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　　容：
メーカー講演
「Philips心臓MRI撮像の概要」
株式会社フィリップス・ジャパン　栃本　　剛
ユーザー講演
①「知っておきたい心臓CTの基礎」
さいたま赤十字病院　池野　裕太
②「当院における心臓MRI検査の現状について」
上尾中央総合病院　　伊藤　悠貴

（9）第3回支部役員会
日　　時：2023年1月26日（木）18：50～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：7人

（10）支部会計監査
日　　時：2023年2月7日（火）19：00～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：7人

（11）第六支部定期総会および第二回定期講習会
日　　時：2022年3月9日（木）19：00～
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
参 加 者：42人
内　　容：【救急画像～初級編～】
『自分が経験した症例を通して』
上尾中央総合病院　茂木　雅和

9．研究会活動

（1）埼玉乳房画像研究会活動報告

ア．第4回埼玉乳房画像研究会講習会
日　　時：2022年7月13日(水)18：30～20：30
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　　容：マンモグラフィのポジショニングについて考えよう
講義　　さいたま赤十字病院　舘沼理保奈
ポジショニング実践
さいたま赤十字病院　山田　智子
埼玉協同病院　佐藤夏都美
参 加 者：18人

イ．第78回画像の向こうの患者をみよう勉強会（症例検討会）
日　　時：2022年11月2日(水)19：00～21：00
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　　容：症例検討会
総合司会　　済生会川口総合病院　土田　拓治
MMG　　済生会川口総合病院　高橋　美香
US　　埼玉協同病院　佐藤夏都美
MRI　　埼玉県立がんセンター　湧田もみじ
病理　　熊谷総合病院　亀山　枝里
参 加 者：10人

ウ．第79回画像の向こうの患者をみよう勉強会（症例検討会）
日　　時：2023年1月25日(水)19：00～21：00
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　　容：症例検討会
総合司会　　熊谷生協病院　新島　正美
MMG　　埼玉県立がんセンター　辻村明日香
US　　埼玉県立がんセンター　湧田もみじ
MRI　　埼玉県済生会川口総合病院
高橋　美香
病理　　埼玉協同病院　佐藤夏都美
参 加 者：20人

エ．第5回埼玉乳房画像研究会講習会
日　　時：2023年3月19日(日)9：00～12：00
場　　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　　容：マンモグラフィ施設画像評価認定の取得について
第一部：製品紹介
「関心領域の高コントラスト化 Dynamic Visualization Ⅱ　および クリニック向け装置 AMULET ELITE のご紹介」

富士フイルムメディカル株式会社　浅野　省二
第二部：シンポジウム
「マンモグラフィ施設画像認定受審を経験して」
座長　熊谷総合病院　亀山　枝里
埼玉県済生会川口総合病院　土田　拓治
シンポジスト
埼玉県済生会川口総合病院　高橋　美香
埼玉県行田中央総合病院　坂口　由紀
公益財団法人栃木県保健衛生事業団　神尾　恵子
第三部：特別講演
「新たな乳房撮影ガイドライン
精度管理マニュアルについて」
東京都立大学　健康福祉学部
放射線学科　准教授
NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構
理事　根岸　徹
参 加 者：22人

（2）埼玉消化管撮影研究会活動報告

ア．第63回埼玉消化管撮影研究会
日　程：2022年7月22日（金）
場　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　容：
講義：胃X線検査に求められる画像
～所見を見落とさない撮影の意識～
丸山記念総合病院　志田　智樹
埼玉消化管症例閲覧会：
司会　済生会川口総合病院　池田　圭介
症例提供　深谷赤十字病院　小林　茂幸
参 加 者：66人

イ．第64回埼玉消化管撮影研究会
日　程：2022年12月15日（木）
場　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　容：
講義：『胃がんの粘膜と組織型の関係』
羽生総合病院　田口　裕也
埼玉消化管症例閲覧会：
司会　済生会川口総合病院　池田　圭介
症例提供　済生会川口総合病院　結城　朋子
参 加 者：70人

ウ．第65回埼玉消化管撮影研究会
日　程：2023年3月23日（木）
場　所：Zoomを利用したオンライン開催
内　容：
講　義：内視鏡診断から学ぶ胃透視撮影
さいたま赤十字病院　中野　啓一
埼玉消化管症例閲覧会：
司会　行田中央総合病院　浅見　純一
症例提供　埼玉石心会病院　山田　幸一
参 加 者：66人

2022年度（公社）埼玉県診療放射線技師会理事会審議事項

1．ウイルスソフト貸与について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-１）承認
2．名誉会員の承認について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-２）承認
3．学術大会の優先予約について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-３）承認
4．第6回SART学術ナイトセミナーを開催について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-４）承認
5．2021年度埼玉県診療放射線技師会決算承認について、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-５）承認
6．監査報告書の承認について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-６）承認
7．新入会員の承認について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-７）承認
8．2021年度事業報告について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-８）承認
9．「夢を見つける！リアル体験教室　あこがれの職業を体験しよう！」への参加について、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-９）承認
10．令和5年秋　叙勲候補者の選出について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-10）承認
11．新入会員の承認について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-11）承認
12．2022年度救急撮影ケーススタディのWeb開催について、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-12）承認
13．2022年度　上部消化管検査　認定講習会の開催について、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-13）承認
14．第20回胸部認定講習会の開催について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-14）承認
15．第36回埼玉県診療放射線技師学術大会の開催及び大会テーマについて、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-15）承認
16．新入会員の承認について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-16）承認
17．第47回越谷市民祭り「街づくり広場」の事業に参加および医療画像展の出展について、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-17）承認
18．第36回川越市健康まつり（Web開催）川越市健康づくり事業の参画について、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-18）承認
19．第4回SART被ばく相談事例検討会の開催について、
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-19）承認
20．放射線被ばくに関する講習会の開催について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-20）承認
21．DRセミナーの開催について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-21）承認
22．第13回CT認定講習会の開催について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-22）承認
23．乳腺セミナーの開催について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-23）承認
24．MR基礎講習会の開催について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-24）承認
25．新入会員の承認について、　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-25）承認
26．本会事務所倉庫の修繕について　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-26）承認
27．新入会員の承認について　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-27）承認
28．2023年度 診療放射線技師のためのフレッシャーズセミナー（第24回SARTセミナー）の開催について
資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-28）承認
29．役員選挙における選挙管理委員の選出について　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-29）承認
30．2023年度 第12回定期総会の開催について　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-30）承認
31．新入会員の承認について　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-31）承認
32．ホームページ更新作業の契約について　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-32）承認
33．表彰推薦者の承認について　資料を基に審議し承認した。（議案書番号：理-33）承認

総会資料

34. 2023年度事業計画案について　資料を基に審議し承認した。(議案書番号：理-34) 承認
35. 2023年度予算案について　資料を基に審議し承認した。(議案書番号：理-35) 承認
36. 埼玉県診療放射線技師会 永年勤続表彰対象者（20年・40年）の承認について
資料を基に審議し承認した。(議案書番号：理-36) 承認
37. 新入会員の承認について　資料を基に審議し承認した。(議案書番号：理-37) 承認

2023年度事業計画
新たな生活スタイルへ移行

新たなスタイルの日常生活へ移行

欧米諸国は既に日常生活を取り戻しつつある中で、日本では一部日常生活を取り戻したとはいえ、まだ完全に戻りきってはいない。感染症の二類から五類への移行は政府ではいまだに検討段階で、医療の現場においての負担は以前とほぼ変わらない状態が続いている。

世界的なコロナ禍となり、まさかの3年が経過したが、今回の歴史的なパンデミックにより新たに手に入れたものと、社会の脆弱な一面を見ることができた。前者はWebを活用したテレワークや会議の効率化。また必要な会合・会食とそうでないイベントが見極めることができた。後者は目に見えない感染という敵に対する不安や恐怖から誰かを攻撃して自身の不安を解消するために、その矛先はマスク警察や政府への批判として現れた。この社会現象は、中世ヨーロッパに見られた魔女狩りをほうふつとさせたのは当方だけであろうか。さらには、非理論的なデマや中傷が世の中を困惑させ、国民の情報リテラシーの格差をあらわにした。

新たな生活スタイルとして、学会や講習会などでWebの活用に関して述べさせていただいたが、思ったほど参加者が増えたわけではない。この現象はモチベーションの格差がさらに広がったとも考えられる。モチベーションを自分自身で維持できる人もいれば、人と会うことで、お互い刺激しあいモチベーションを維持する人もいる。どちらのタイプも正解だと思っている。

「新たな生活様式」とは、増えた選択肢に対して自分がどのタイプかを判断し選択することが必要だ。アフターコロナにおける次のステップでは選択肢の提供は既に過去のものであり、情報を受ける側が個々の選択をどう判断するかという時代が到来したといえる。

タスクシフト・シェアについて

2021年10月1日よりタスクシェアによる業務拡大に関する医療法改正があったことはご承知かと思う。以前の「局長通達」とは異なり、今回は「法改正」に伴う研修であり、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士などの関連職種全てが対象であり、必ず受講しなければならない。この告示研修を受けずに関連する行為で事故が発生した場合には罰則を受ける可能性もあるといわれている。おそらく、10年から20年後には、診療放射線技師が当たり前にルートを確保し、アンギオのセカンドを行っている時代がくることを確信している。その時、診療放射線技師の技術格差を生じないよう、タスクシフトの浸透についての十分な情報提供が必要である。

多職種との連携

院内ではチーム医療を重視し、医師はもちろん、コメディカル同士の連携の重要性が述べられてきた。今後は職能団体の連携も強めていきたい。

1．職業人としての質の向上

（1）学術大会・認定講習会・セミナーの定期開催
- ア．埼玉県診療放射線技師学術大会の開催
- イ．埼玉県診療放射線技師支部合同秋季大会
- ウ．胸部撮影認定講習会
- エ．上部消化管検査認定講習会
- オ．フレッシャーズセミナー（SARTセミナー）
- カ．放射線技術部門マネジメント・セミナー（医療安全、接遇・クレーム、医療経営、人材育成）
- キ．CT認定講習会
- ク．MRI基礎講習会
- ケ．乳腺セミナー
- コ．DR計測セミナー
- サ．救急撮影ケーススタディー（日本救急撮影技師認定機構との共催）
- シ．読影力向上のための講習会（支部開催セミナー）
- ス．AI（Artifical Intelligence）関連講習会の開催
- セ．オンラインセミナー、学会の充実およびデジタル化
- ソ．業務拡大2015年統一講習会の継続および告示研修開催への協力
- タ．オンライン会議有効運用
- チ．多職種職能団体との連携強化

（2）会員講師の育成と体制づくり

（3）他県診療放射線技師会や他団体との合同講習会

企画推進

ア．関東甲信越診療放射線技師学術大会への協力
イ．日本診療放射線技師全国大会への協力
ウ．埼玉県医師会主催事業への支援
エ．埼玉県臨床検査技師会への協力
オ．日本放射線技術学会関東部会との合同企画
カ．日本診療放射線技師会との合同開催企画
キ．各認定機構との合同企画（埼玉開催の推進）

2．組織運営に関わる事業

（1）行政との連携
（2）入会促進・会員継続事業の検討
（3）会員データベースの適正化

3．公益目的事業

（1）学術情報の提供 刊行誌「埼玉放射線」の発刊
（2）市民公開講座の開催
（3）地域自治体主催事業への参画
（4）医療画像展の開催と支援
（5）県民向けホームページの充実
（6）医療被ばく相談の迅速な対応
（7）埼玉県内の中学高校における放射線特別授業・3DWSの担務
（8）文部科学省事業における放射線特別授業の担務

4．編集・情報

（1）本会会誌「埼玉放射線」の充実
（2）診療放射線技師向けホームページの充実
　ア．各講習会、セミナー、イベントなどの迅速な広報
（3）e-book コンテンツの維持継続
（4）メールマガジンの有効利用

5　その他

（1）他医療職種団体との連携
（2）日本診療放射線技師会・他県技師会への協力

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会　定款

平成24年４月１日制定
平成27年５月30日改正

第１章　総　則

（名　称）

第１条　この法人は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会と称する。

（事務所）

第２条　この法人は、主たる事務所を埼玉県さいたま市に置く。

第２章　目的及び事業

（目　的）

第３条　この法人は、診療放射線技師の職業倫理を高揚するとともに、診療放射線学の向上を図り、もって地域保健医療の向上及び県民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。

（事　業）

第４条　この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（１）県民への放射線医療に関する知識の普及啓発事業

（２）診療放射線学及び診療放射線技師の職業倫理高揚に関する研修会、研究会、講習会などの開催

（３）放射線管理と医療被曝の適正化に関する事業

（４）診療放射線学に関する調査、研究、情報提供及び指導

（５）前各号に掲げる事業に関する図書、印刷物等の刊行

（６）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

２　前項の事業は、埼玉県内にて行うものとする。

第３章　会　員

（種　別）

第５条　この法人に次の会員を置く。

（１）正会員　診療放射線技師及び診療エックス線技師であってこの法人の事業に賛同して入会した個人

（２）名誉会員　この法人に特に功労のあった正会員のうち、理事会の推薦を受け総会の承認を得た個人

（３）賛助会員　正会員の資格を有しないもので、この法人の事業に賛同して、理事会の承認を得た個人又は団体

２　前項の会員のうち正会員及び名誉会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

（会員の資格の取得）

第６条　この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申し込みをし、その承認を受けなければならない。

（経費の負担）

第７条　この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった次年度から毎年、会員は、総会において別に定める額を支払う義務を負う。ただし、自己の療養又は親族の介護、育児その他やむを得ない事情により、診療放射線技師又は診療エックス線技師として現に業務に従事していない期間が継続して１年以上経過している正会員については、総会において別に定める基準に従って経費を支払う義務を免除することができる。

２　名誉会員は、前項における経費を負担することを要しない。

（任意退会）

第８条　会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

（除　名）

第９条　会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

（１）この定款その他の規則に違反したとき。

（２）この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

（３）その他除名すべき正当な事由があるとき。

（会員資格の喪失）

第10条　前２条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

（１）第７条の支払義務を２年以上履行しなかったとき。

（２）総会員が同意したとき。

（３）当該会員が死亡、又は解散したとき。

第４章　総　会

（構　成）

第11条　総会は、正会員及び名誉会員をもって構成する。

２　前項の総会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

（権　限）

第12条　総会は、次の事項について決議する。

（１）会員の除名

（２）理事及び監事の選任又は解任

（３）理事及び監事の報酬などの額に関する事項

（４）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認

（５）定款の変更

（６）解散及び残余財産の処分

（７）その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開　催）

第13条　総会は、定時総会として毎事業年度終了後３箇月以内に１回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招　集）

第14条　総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

２　正会員及び名誉会員の議決権の10分の１以上の議決権を有する会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

（議　長）

第15条　総会の議長は、当該総会において出席会員の中から選出する。

（議決権）

第16条　総会における議決権は、会員１名につき１個とする。

（決　議）

第17条　総会の決議は、正会員及び名誉会員の議決権の過半数を有する会員が出席し、出席した当該会員の議決権の過半数をもって行う。

２　前項の規定にかかわらず、次の決議は、正会員及び名誉会員の半数以上であって、正会員及び名誉会員の議決権の３分の２以上に当たる多数をもって行う。

（１）会員の除名

（２）監事の解任

（３）定款の変更

（４）解散

（５）その他法令で定められた事項

３　理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第20条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

（議事録）

第18条　総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2　議長及び出席した理事は、前項の議事録に記名押印する。

第５章　役員等

第19条　この法人に、次の役員を置く。

（1）理事　　15名以上20名以内

（2）監事　　２名以内

2　理事のうち１名を会長とし２名を副会長、６名を常務理事とする。

3　前項の会長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、副会長及び常務理事をもって同法第91条第１項第２号の業務執行理事とする。

（役員の選任）

第20条　理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2　理事会は、会長、副会長及び常務理事を選定及び解職する。会長の選定及び解職をする場合において、理事会は、総会にこれを付議した上で、その決議の結果を参考にすることができる。

（理事の職務及び権限）

第21条　理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2　会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、副会長及び常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3　会長、副会長及び常務理事は、毎事業年度に４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第22条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2　監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第23条　理事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

2　監事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

3　補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4　理事又は監事は、第19条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）

第24条　理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

（役員の報酬等）

第25条　理事及び監事に対して、総会において定める総額の範囲内で、総会において別に定める役員の報酬などの支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

（相談役）

第26条　この法人に、任意の機関として、１名以上３名以下の相談役を置く。

2　相談役は、次の職務を行う。

（1）会長の相談に応じること。

（2）理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。

3　相談役の選任及び解任は、理事会において決議する。

4　前条の規定は、相談役の報酬等について準用する。

第６章　理事会

（構　成）

第27条　この法人に理事会を置く。

2　理事会は、すべての理事をもって構成する。

（権　限）

第28条　理事会は、次の職務を行う。

（1）この法人の業務執行の決定

（2）理事の職務の執行の監督

（3）会長、副会長及び常務理事の選定及び解職

（常務理事会）

第29条　この法人に常務理事会を置く。

2　常務理事会は、会長、副会長及び常務理事をもって構成する。

3　常務理事会は、次の職務を行う。

（1）この法人の業務運営の年間計画案を策定し、理事会に提出すること。

（2）業務の適正を確保するために必要な体制の運用及び改善についての意見を理事会に提出すること。

（招　集）

第30条　理事会及び常務理事会は、会長が招集する。

2　会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長が理事会及び常務理事会を招集する。

（決　議）

第31条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2　前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第32条　理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2　出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第７章　資産及び会計

（事業年度）

第33条　この法人の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

（事業計画及び収支予算）

第34条　この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2　前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第35条　この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

（1）事業報告

（2）事業報告の附属明細書

（3）貸借対照表

（4）損益計算書（正味財産増減計算書）

（5）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

（6）財産目録

2　前項の承認を受けた書類のうち、第１号、第３号、第４号及び第６号の書類については、総会に提出し、第１号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3　第１項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に５年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、正会員及び名誉会員の名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（1）監査報告

（2）理事及び監事の名簿

（3）理事及び監事の報酬などの支給の基準を記載した書類

（4）運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

（公益目的取得財産残額の算定）

第36条　会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に

基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第３項第４号の書類に記載するものとする。

第８章　定款の変更及び解散

（定款の変更）

第37条　この定款は、総会の決議によって変更することができる。

（解　散）

第38条　この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

（公益認定の取消し等に伴う贈与）

第39条　この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定などに関する法律第５条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

第40条　この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第５条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第９章　公告の方法

（公告の方法）

第41条　この法人の公告は、電子公告により行う。

2　事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

第10章　支　部

（支　部）

第42条　この法人に、理事会の定めるところにより支部を置く。

2　支部は第34条の事業計画書に基づき、当該支部に関する事業を執行する。

3　支部は第20条第１項の規定により、総会で理事を選任するにあたり、理事候補者の推薦をすることができる。

附　則

1　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第１項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2　この法人の最初の会長は小川 清とする。

3　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定などに関する法律の施行に伴う関係法律の整備などに関する法律第106条第１項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第34条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会　諸規程

会費規程

第１条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）定款第７条の規定に基づき、会費の納入に関し、必要な細則を定めるものとする。

第２条　会費は次のとおりとする。

正会員　　年額9,000円
賛助会員（個人）　年額9,000円
賛助会員（法人）　年額25,000円

第３条　前条の会費は、毎事業年度における合計額の30%以上を当該事業年度の公益目的事業に使用する。

第４条　会員は、毎事業年度、９月30日までに、会費年額の全額を納付しなければならない。

第５条　定款第７条第１項ただし書きの規定により、会費の免除の取扱いを受けようとする者は、所定の申請書を添えて、毎年度、本会に申請するものとする。

第６条　この規程の改廃は、理事会の決定を経て総会の承認を得るものとする。

附　則

この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。

この規程は、平成28年６月18日から施行する。

役員等の報酬並びに費用に関する規程

（目　的）

第１条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）定款第25条に基づき、役員の報酬等及び費用に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（定　義）

第２条　この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）役員　理事及び監事をいう。

（２）役員等　役員及び会長から指名を受けた会員をいう。

（３）報酬等　公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第５条第13号に規定する報酬等であって、次条及び第４条に規定するものをいう。

（４）費用　職務の遂行に伴い発生する交通費、通勤手当、旅費（宿泊費を含む。）及び手数料等の経費をいう。

（報酬の額及び支給の方法）

第３条

理事の報酬は、理事会及び常務理事会の出席１回につき2,000円を上限とし、理事会で決定する。

２　監事の報酬は、年額111,370円を上限として、監事が協議して定める額とする。

３　前２項の規定にかかわらず、当該役員が報酬を辞退した場合は支給しない。

４　報酬は、四半期ごとに現金で支給する。ただし、当該役員から支給の方法について書面による申し出があるときは、当該申し出に従って支給するものとする。

（講師及び原稿執筆謝金）

第４条　役員等が会長よりセミナー、研修会若しくはシンポジウムなどの会合における講師を委嘱されたとき又は原稿執筆を委嘱されたときは、別に定める「役員等への講師及び原稿執筆謝金の支払に関する規程」に基づき講師謝金又は執筆謝金を支給する。

（費　用）

第５条　本会は、役員等がその職務の遂行に当たって負担した費用については、これを請求のあった日から遅滞なく支払うものとし、また前払いを要するものについては前もって支払うものとする。

２　前項の費用は、現金で支払うものとする。ただし、当該役員から支給の方法について書面による申し出があるときは、当該申し出に従って支払うものとする。

（公　表）

第６条　この規程をもって、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第20条第１項の規定により報酬等の支給の基準として公表するものとする。

（改　正）
第７条　この規程は、総会の議決によらなければ改正することができない。

（補　則）
第８条　この規程の実施に関し必要な事項は、会長が理事会の承認を得て、別に定めるものとする。

附　則
１　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。
１　この規程は、平成25年５月25日から施行する。

役員等への講師及び原稿執筆謝金の支払に関する規程

（本会主催の講師謝金）
第１条　公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）の役員等が、本会の主催する講演会、セミナー又はこれに類する会合（以下「講演会等」という。）の講師を務めたときは、その謝金として、１回につきその時間が30分以内のときは5,568円、１時間以内のときは11,137円を、１時間を超えるときは22,274円を支払うものとする。

（原稿執筆謝金）
第２条　役員等が、本会の発行する定期刊行物又は書籍の原稿を当会員または日本診療放射線技師会会員が執筆したときは、1,000字毎に2,500円を限度として執筆謝金を支払うことができる。但し、１回の限度額を20,000円とする。

（支払い方法）
第３条　前２条の謝金は、当該講演又は入稿の後速やかに現金で支払うものとする。ただし、当該役員等から支給の方法について書面による申し出があるときは、当該申し出に従って支給するものとする。

（会員以外の者への謝金）
第４条　診療報放射線技師以外の者が本会の発行する定期刊行若しくは書籍の原稿を執筆したときは、第２条に定める金額に100分の50を乗じた額を加算して支給する。

（改　正）
第５条　この規程は、総会の議決によらなければ改正することができない。

（補　則）
第６条　この規程の実施に関する必要な事項は、会長が理事会の承認を経て、別に定めるものとする。

附　則
１　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。
１　この規程は、平成25年５月25日から施行する。
１　この規程は、平成30年６月18日から施行する。

講師謝礼に関する規程

（目　的）
第１条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）が主催する診療放射線技師または診療エックス線技師を主な対象者とした、職業倫理高揚及び診療放射線学の向上に関する研修会、研究会、講習会等（以下、「研修会等」という）の講師への謝礼について必要な事項を定めることを目的とする。

（謝礼の支払い）
第２条　謝礼は、研修会等１回ごとに、講師１人につき55,685円を上限として支払うものとする。

（旅　費）
第３条　講師には、その自宅又は勤務地から研修会等の会場まで公共交通機関を使用した場合における交通費相当額を支給する。ただし、研修会等の会場の近辺に公共交通機関が存在しない等交通不便地の場合は、講師の自宅又は勤務地から当該会場に最も近い鉄道の駅までの交通費相当額に、当該駅から会場まで距離1kmごとに300円を乗じて得た額を加算して支給する。

（支給の方法）
第４条　謝礼及び旅費の支給日は研修会等の終了後とし、支給方法は所得税その他法令の規定に基づき控除すべき金額を控除し、その残額を現金又は当該講師の指定する銀行口座に振り込む方法により支給する。

（適用除外）
第５条　この規程は、本会の会員が研修会等の講師を勤めた場合には適用しない。
２　本会の会員が研修会等の講師を勤めた場合の謝礼及び旅費に相当する金員の支給は、役員等への講師及び原稿執筆謝金の支払に関する規程に基づき支給するものとする。

（改　正）
第６条　この規程の改廃は、理事会の議決により行う。

（補　則）
第７条　この規程の実施に関する必要な事項は、会長が理事会の承認を経て、別に定めるものとする。

附　則
１　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。
１　この規程は、平成25年５月８日から施行する。

旅費および日当等支払規程

（趣　旨）
第１条　この規程は、委員会（編集委員会、学術委員会その他理事会の議決に基づき設置した委員会その他の組織をいう。以下同じ。）の会務（当該委員会の会議及び当該委員会の所掌する事務に関する活動であって、会長の許可を得たものをいう。以下同じ。）のために出張する当該委員会の構成員に支給する旅費及び日当について定めるものとする。

（旅　費）
第２条　旅費は当該旅行のための移動方法の別にかかわらず、旅行開始場所から会務実施場所までの往復の旅程について、公共交通機関を用いて旅行した場合に生じる額を支給する。ただし、当該旅行の区間に公共交通機関による移動が不能な区間が含まれるときは、当該移動が不能な区間の旅費は、距離1kmごとに300円を乗じて得た額を支給するものとする。
第３条　会務に従事した場合は、当該委員会の構成員に日当を支給する。
２　前項の日当は、会務１日につき1,000円とする。ただし、会長が理事会の議決を経て定めたものについては2,000円とする。
第４条　旅費及び日当のほか、会務に関する学術大会、講習会等の開催及びその準備に係る役務費、消耗品費その他の経費であって委員会の構成員が立て替えたものは別に弁償する。
第５条　経費は、その都度現金により支払う。ただし、当該委員会の構成員から支給の方法について書面による申し出があるときは、当該申し出に従って支給するものとする。

（改　廃）
第６条　この規程の改廃は、理事会の議決により行う。

附　則
この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。

会員の登録等に関する規程

第１条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）定款第５条第１項、第６条及び第８条に基づいて、会員の入退会に関する細部手続について必要事項を定めることを目的とする。
第２条　本会に入会しようとする者は、診療放射線技師及び診療エックス線技師でなければならない。ただし、賛助会員はこの限りではない。
第３条　本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書を会長に提出するものとする。
第４条　理事会は、入会申込書に基づいてその諾否を審査し、入会承認を決定するものとする。
第５条　入会を承認したときは、会員原簿に登録するとともに、速やかに入会年月日を本人に通知するものとする。
２　入会を否認したときは、その理由を付して本人に通知するものとする。
第６条　会員の資格は、理事会が承認した日に始まり資格喪失した日に終わる。ただし、定款第10条（１）の要件が発生したときは、理事会の承認を経て資格を停止し、出版刊行物送付等を制限することがある。
第７条　会員は、入会申込書記載の住所、氏名、勤務先に変更を生じたときは、速やかに届け出るものとする。
第８条　会員は次の特典を享受することができる。
（１）本会が保有する会議室を優先して利用することができる。
（２）本会が刊行する会誌を無料で配布を受けることができる。

（3）メーリングリストに登載し、メール等による情報提供を受けることができる。
（4）本会が主催、共催する研修会、セミナー等に割引料金で参加することができる。
第9条　会員が退会しようとするときは、理由を付し、退会届を本会に届け出るものとする。
第10条　この規程の改廃は、理事会の議決にて行う。

附　則
1　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。
1　この規程は、平成24年12月5日から施行する。

役員選出規程

第1章　総　則

第1条　公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の役員の選出は、定款第21条に基づき、この規程により行うものとする。

第2章　選挙管理委員会

第2条　役員を選出するときは、理事会の承認を得て、選挙管理委員会を設けるものとする。
第3条　選挙管理委員会は、正会員のなかから選出して構成し、委員長は互選とする。
2　役員及び選挙の立候補者は、選挙管理委員にはなれない。
第4条　選挙管理委員会は、次の業務を行う。
（1）選挙の公示
（2）役員の立候補者届の受理、資格審査及び立候補者氏名の公示
（3）投票及び開票の管理ならびに当選の確認
（4）総会において選挙結果の報告
（5）その他選挙管理に必要な事項
第5条　選挙管理委員の任期は2年とする。

第3章　役員の選挙

第6条　理事、監事に立候補しようとする個人、又は推薦しようとする支部は、所定の様式により選挙管理委員会に届け出るものとする。ただし、推薦の場合は本人の同意を必要とする。
第7条　立候補又は推薦の届出締切りは、総会の2か月前とする。
第8条　選挙は、立候補届のあった者について、総会に出席した会員によって行うものとする。
第9条　投票は、出席会員の無記名投票により行うものとする。
第10条　投票は、次の順序によって行う。
（1）理事
（2）監事
第11条　当選者は、それぞれ有効投票数を得た者から、高点順に定める。

第4章　無投票当選

第12条　各選挙を通じ、締切日を経過しても立候補者が役員定数を超えないときは、総会において無投票により当選者を定めるものとする。

第5章　異議申し立て

第13条　選挙に関する異議は、選挙終了後14日以内に選挙管理委員会に文章をもって申し立てることができる。

第6章　立候補ならびに当選の取消

第14条　役員立候補者が、選挙公報など選挙に関わる事項について、重大な虚偽の申告を行ったことが明らかになった場合は、選挙管理委員会の決議により立候補または当選を取り消すことができる。
第15条　この規程の改廃は、理事会の議決にて行う。

附　則
1　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。

総会運営規程

第1条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の総会運営を民主的かつ能率的に運営することを目的として定める。
第2条　前条の目的を達成するために、総会運営委員会を設けるものとする。
第3条　前条の委員会は、正会員のなかから6名の委員を選出して構成し、委員長は互選とする。
第4条　総会運営委員会は、総会の付議に基づき、次のことを協議し、その承認を得て運営する。
（1）議長団の選出の方法
（2）議事日程及び進行
（3）総会出席会員の資格審査
（4）その他総会運営について必要な事項
第5条　この規程の改廃は、理事会の議決にて行う。

附　則
1　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。

表彰規程

(目　的)
第1条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）定款第4条の事業を遂行するにあたり、顕著な功績のあった者の表彰に関する事項と、関係団体からの推薦依頼に関する諸条件について定める。

(条　件)
第2条　表彰の対象となる者は、次の各号に該当することを条件とする。
（1）本会に15年以上在籍し、かつ会費を完納している者
（2）その他、会長が適当であると認めた者

(種　類)
第3条　表彰に関する分類は次のとおりとする
（1）功労賞　本会に多大な貢献があった者、または本会役員の在任期間が4年以上を有している者
（2）学術奨励賞　保健医療に関する研究、発明、発見、考案を行った者
（3）学術新人賞　研究発表を積極的に行った概ね30歳未満の正会員
（4）叙勲、関係団体表彰候補
（5）永年勤続者
　ア　20年以上放射線業務に従事した者
　イ　40年以上放射線業務に従事した者
（6）特別賞　他の模範となる善行があった者

(推　薦)
第4条　受賞者の推薦は正会員又は名誉会員が行う。

(選　考)
第5条　選考は表彰委員会が行い、委員会は会長、副会長、総務常務理事、および会長委嘱者5名の計10名で組織する。なお、会長委嘱者と委員長は役員外とする。

(決　定)
第6条　表彰委員会は選考結果を理事会に答申し、決定は理事会にて行う。その他表彰に関する必要な事項についても理事会において決定する。

(内　容)
第7条　表彰は表彰状と副賞を授与するものとする。

(実　施)
第8条　表彰の実施は総会時に行うものとする。

(改　廃)
第9条　この規程の改廃は理事会の議決にて行う。

附　則
1　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。
1　この規程は、平成25年2月6日から施行する。

表彰規程細則

(表彰の実施)
第1条　表彰に関わる旅費、交通費は旅費規程の対象外とする。
2　表彰者ならびに表彰の概要を本会会誌に掲載し広報する。

(予　算)
第2条　表彰に関する予算は当該年度の予算から充当する。

(表彰枠)
第3条　表彰の種類に関わる表彰枠は次のとおりとする。
（2）学術奨励賞　若干名
（3）学術新人賞　若干名

附　則
1　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。
1　この規程は、平成25年2月6日から施行する。

互助規程

第1条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会員の相互扶助を図るために定めたものである。
第2条　前条の目的を達成するために、次の各号の事業を行う。
（1）会員に対する死亡弔慰金の給付

第３条　死亡弔慰金の金額は20,000円とする。
第４条　正会員の死亡退会の連絡を受けた場合、内容審査のうえ速やかに関係理事を通じて該当会員の遺族に給付金を支給するものとする。
第５条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は理事会において決定するものとする。
第６条　この規程の改廃は、理事会の議決にて行う。

附　則
１　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。

委員会設置規程

(目　的)
第１条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）の運営に必要な委員会の設置基準を定め、本規定をもって定款第４条に基づく事業を、会長の指示に基づき能率的に遂行するための組織を整えることを目的とする。

(委員会の種別)
第２条　この規程に基づく委員会は、常設委員会及び特別委員会とする。
２　常設委員会は、本会の管理業務又は定例の事業を担当するものとし、次の各号のとおりとする。
（１）総務・財務委員会
（２）学術委員会
（３）編集・情報委員会
（４）公益委員会
３　特別委員会は、本会の運営上臨時に派生する問題、又は特別の事業の必要に応じ、会長が理事会の議決を経て、これを設けるものとする。

(構成及び選任)
第３条　前条の各委員会は、委員長、副委員長及び、若干名の委員により構成される。
２　前条第２項各号に規定する常設委員会における委員長への就任は、会長の指名により、常務理事が、これを分掌する。
３　前条第３項に規定する特別委員会の委員長は、会長の指名に基づき、全理事のなかからこれを選任し理事会にて承認する。
４　各委員会の副委員長は、当該委員長の指名に基づき、全理事のなかから選出し、理事会において承認の上、会長がこれを委嘱する。
５　各委員会の委員は、正会員又は名誉会員から当該委員長が推挙し、会長が委嘱する。

(職　務)
第４条　委員長は、当該委員会を代表し、その事務を総理する。
２　各委員は、当該委員長の求めにより、随時招集される所属委員会に出席し、付議事項の審議を行う他、委員長を補佐し、本会の事業計画の実行、又は問題の解決に努めなければならない。
３　委員長に不測の事態が起きた場合は、副委員長がその職務を代行する。

(委員会)
第５条　各委員会は、当該委員長が随時招集する。
２　各委員長は、委員会が開催される毎に、以下の内容について、簡潔明瞭な報告書（議事録）を作成し、これを会長及び、総務担当の常務理事（常務理事）に提出しなければならない。
（１）付議された事項
（２）その審議内容
（３）審議結果

(理事会への報告)
第６条　各委員長及び、各委員長により分担指名された副委員長は、担当する管理業務又は事業の企画及び実施状況を理事会に報告しなければならない。

(規程の変更)
第７条　この規程の改廃は理事会の議決にて行う。

(雑　則)
第８条　この規程に定めるもののほか、状況により必要な事案が発生した場合は、会長が理事会に諮り定めるものとする。

附　則
１　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。
１　この規程は、平成26年９月４日から施行する。

研究会設置規程

（目　的）
第１条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）定款第４条に基づき本会に研究会を設置する場合の手続きを定め、学術研究活動の促進を目的とする。

（定　義）
第２条　この規程でいう研究会とは、前条に掲げた目的を達成するための学術研究を目的とする組織をいう。

（設置申請）
第３条　この規程に従い研究会の設立をしようとする正会員又は名誉会員は、研究会設置申請書（様式―研１）を会長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

（承認基準）
第４条　前条により研究会の設立承認をする場合、次の基準を満たしていなければならない。
（１）学問領域としての専門性と主体性、かつ社会性が認められること
（２）当該研究会の活動により県民が利益を得られること
（３）本会が認可する研究会の幹事及び主たる構成員は本会会員であること

（解散及び廃止）
第５条　研究会は、研究会解散届（様式―研２）を会長に提出し、自主的に解散することができる。
２　理事会は前項のほか、前条の基準を満たさないと判断した場合、研究会を廃止することができる。

（名　称）
第６条　研究会は、その名称とともに本会研究会であることを称することができる。

（活　動）
第７条　研究会は、目的を達成するために自主的に活動するものとし、概ね次の活動を行う。
（１）研究会を開催する
（２）研究成果を学術大会等に発表する

（報　告）
第８条　研究会は、毎年の活動状況を総会に報告する。

（助　成）
第９条　本会は、認可した研究会の発展向上を図る目的で、研究会からの申請により、理事会の承認を得て、助成を行うことができる。
２　助成の規模及び方法は別途理事会で定める。

（規程の改廃）
第10条　この規程の改廃は理事会の議決にて行う。

附　則
１　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。

技師会センター運営規程

第１条　公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）技師会センターは埼玉県診療放射線技師会事務所及び会議室で構成する。
第２条　この規程は、技師会センターの運用について規定する。
第３条　技師会センターの管理責任者は会長とする。会長はセンターの業務管理者を指名し、業務管理者がセンター運営業務を行う。
２　重要事項については理事会において審議する。
第４条　業務管理者はセンターの運営に関する全ての責任を有する。

（会議室の利用）
第５条　次に掲げる各号に適合する場合、会長の許可を得て技師会センターを利用することができる。
（１）理事が主催する全ての会議、委員会、講習会等
（２）本会会員が所属する団体で、会長が認めた会議等
（３）その他、会長が特に認めた会議、講習会等

（使用手続）
第６条　前条のうち（1）に該当する場合を除き使用する者は、使用責任者を定め、別に定める「技師会センター使用許可申請書」を３週間前までに、所定の使用料金を添えて提出し、会長の許可を得なければならない。

（使用の優先）
第７条　使用は本会事業に関するものを優先し、第５条の順とする。

（使用料及び使用時間）
第８条　使用料及び使用時間は、第５条の（１）に該当する場合を除き、下記の規定によるものとする。
２　使用時間の区分及び使用料は次に定めるとおりとする。
（１）09：00～12：00　　2,000円
（２）13：00～17：00　　2,000円
（３）18：00～21：00　　2,000円
（４）09：00～17：00　　4,000円
（５）13：00～21：00　　4,000円
（６）09：00～21：00　　5,000円
第10条　使用責任者は重大なる過失による使用中の火災設備等の毀損事故に対して責任を有するものとする。
第11条　この規程の改廃は、理事会の決議により行う。

附　則
１　この規程は、公益社団法人の設立登記の日から施行する。

理事の職務権限規程

（目　的）
第１条　この規程は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下「本会」という。）定款第21条に基づき、本会の理事の職務権限を定め、公益社団法人としての業務の適法、かつ効率的な執行を図ることを目的とする。

（定　義）
第２条　この規程において、理事とは、理事並びに代表理事たる会長並びに、業務執行理事たる副会長及び常務理事をいう。

（法令等の遵守）
第３条　理事は、法令、定款及びこの法人が定める規範、規程等を順守し、誠実に職務を遂行し、協力して、定款に定める本会の目的の遂行に寄与しなければならない。

（理　事）
第４条　理事は、理事会を組織し、法令及び定款の定めるところにより、本会の業務の執行の決定に参画する。

（会　長）
第５条　会長の職務権限は、別表に掲げるもののほか、次のとおりとする。
（１）代表理事として本会を代表し、その業務を執行する。
（２）理事会を招集し、議長としてこれを主宰する。
（３）毎事業年度に４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告する。

（副会長）
第６条　副会長の職務権限は、別表に掲げるもののほか、次のとおりとする。
（１）会長を補佐し、本会の業務を執行する。
（２）会長に事故あるとき又は欠けたときは、会長の業務執行に係る職務を代行する。
（３）毎事業年度に４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告する。

（常務理事）
第７条　常務理事の職務権限は、別表に掲げるもののほか、次のとおりとする。
（１）理事会が決める担当業務を分掌し、執行する。
（２）副会長に事故あるとき又は欠けたときは、副会長の業務執行に係る職務を代行する。
（３）毎事業年度に４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告する。

（細　則）
第８条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、理事会の決議により別に定めることができる。

（改　廃）
第９条　この規程の改廃は、理事会の議決にて行う。

附　則
この規程は、平成24年12月５日から施行する。

別　表

理事の職務権限

決　裁　事　項	決　裁　権　者		
	会　長	副会長	常務理事
事業計画及び予算の案の作成に関すること	○		
事業報告及び決算の案の作成に関すること	○		
人事及び給与制度の立案に関すること	○		
重要な使用人以外の者の任用に関すること	○		
出張に関すること	○		
契約の締結	○		
支出			
一件 20 万円以上（理事会承認が必要）	○		
一件 20 万円未満	○		
一件　5 万円以下		○	○

別　紙

選挙立候補届

現住所

氏名　　年齢

勤務先名および住所

年　月　日執行の
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（理事・監事）
選挙に立候補します。

上記の通りお届けします。
年　月　日
氏名　　印

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会選挙管理委員長　殿

選挙候補者推薦届

候補者住所

氏名　　年齢

勤務先名および住所

年　月　日執行の
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（理事・監事）
選挙に上記の者を推薦します。

年　月　日
推薦者氏名　　第○支部代表　　印

（理事・監事）候補への推薦を受諾いたします。
年　月　日
候補者署名　　印

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会選挙管理委員長　殿

総会資料

互助給付金申請書

年　　月　　日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

会長　　殿

〇〇支部理事

㊞

会員　　氏に下記事項発生のため互助規程により見舞金を給付されるよう申請いたします。

記

勤務場所

氏名

当該事項

発生年月日

金額

理事の意見

会費免除申請書

申請日　　年　　月　　日

会費規程第５条により、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会費免除の申請をいたします

申請者会員番号	
申請者名	㊞
連絡先	〒 電話
申請代理者氏名	㊞ 事情により本人が申請できない場合、ご署名下さい。 続柄
会費免除申請理由	(1) 自己の療養　(2) 介護　(3) 育児 (4) その他（　　） ※該当する申請理由に〇をつけて下さい。
休業期間	年　月　日～　年　月　日まで ※ご職場に申請されている休業期間をお書き下さい。
休業証明書の確認	有　・　無

※免除の対象となるのは、毎年度の会費を納入期限までに納めている会員に限ります。また、申請時に当年度の会費が納入されている必要があります。
※本申請には休業期間を証明する書類が必要となります。

事務処理欄

受付欄	
会費確認	

様式－研１

研究会設置申請書

年　月　日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長　　殿

〇〇 研究会
代表者　　印

規程の定めるところにより、下記のとおり研究会の設置を申請します。

記

1　研究会の名称
2　代表者、役員等の名前
3　連絡先
4　研究会構成員－別添名簿のとおり
（本会会員と他の区別がわかるような名簿）
5　研究分野、内容（具体的に）
6　研究会履歴
7　助成申請の有無

様式－研２

研究会廃止届

年　月　日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長　　殿

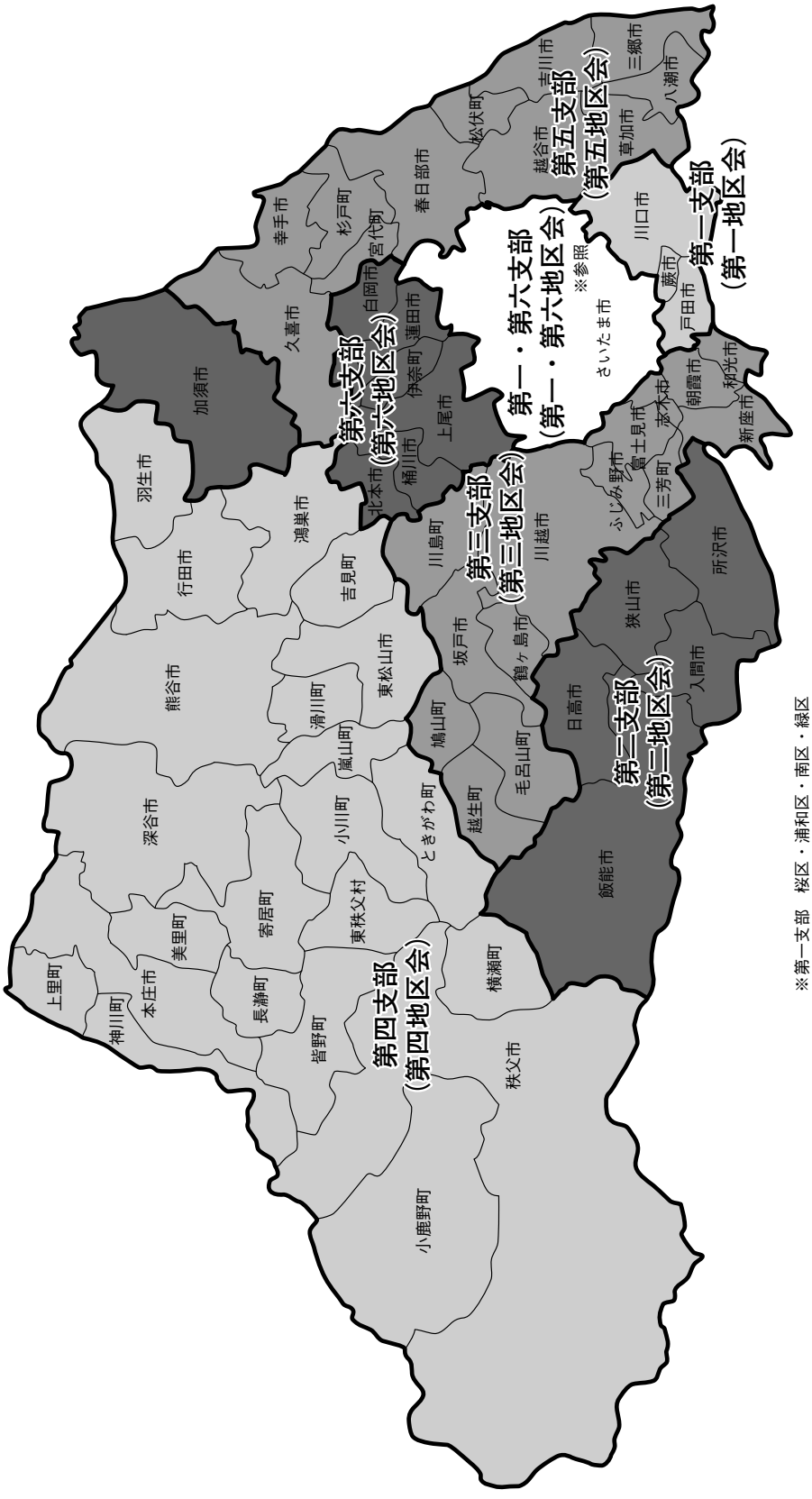
〇〇 研究会
代表者　　印

規程の定めるところにより、下記のとおり研究会の廃止を届けます。

記

1　研究会の名称
2　代表者、役員等の名前
3　連絡先
4　廃止の理由
5　廃止の年月日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会　支部地図（2022年4月1日現在）



2023年度収支予算書

自2023年4月1日至2024年3月31日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

科　目	公益目的事業会計					収益事業会計			法人会計	内部取引控除	合計	備考
	公1	公2	公3	共通	小計	収1	共通	小計				
Ⅰ一般正味財産増減の部												
1.経常増減の部												
(1)経常収益												
受取会費	0	0	0	3,784,500	3,784,500		0	0	8,830,500		12,615,000	
正会員受取会費				3,672,000	3,672,000		0	0	8,568,000		12,240,000	
賛助会員受取会費				112,500	112,500		0	0	262,500		375,000	
事業収益	1,070,000	35,000	820,000	0	1,925,000	411,084	0	411,084	0		2,336,084	
講習会受講料等収益	740,000	35,000			775,000			0			775,000	
学術大会参加登録費収益	330,000				330,000			0			330,000	
会誌広告収益		0	820,000		820,000			0			820,000	
福利事業収益					0			0			0	
賃貸収益					0	411,084		411,084			411,084	
受取寄付金	0	0			0			0			0	
雑収益	300,000	0	30,000	0	330,000	0	0	0	173,300		503,300	
受取利息					0			0	100		100	
雑収益	300,000	0	30,000		330,000			0	173,200		503,200	
経常収益計	1,370,000	35,000	850,000	3,784,500	6,039,500	411,084	0	411,084	9,003,800		15,454,384	
(2)経常費用												
事業費												
給与手当	206,000	154,500	154,500	0	515,000			0			515,000	
福利厚生費	93,000	72,000	0		165,000			0			165,000	
会議費	136,000	40,000	135,000		311,000			0			311,000	
旅費交通費	838,500	197,000	54,000		1,089,500			0			1,089,500	
通信運搬費	210,135	77,061	730,261		1,017,457			0			1,017,457	
減価償却費	52,340	17,447	17,447		87,234	20,354		20,354			107,588	
消耗什器備品費					0			0			0	
消耗品費	133,574	96,391	56,158		286,123			0			286,123	
修繕費	30,000	30,000	30,000		90,000			0			90,000	
印刷製本費	8,000		2,274,700		2,282,700			0			2,282,700	
光熱水料費	63,000	21,000	21,000		105,000			0			105,000	
賃借料	1,264,625	132,000	84,964		1,481,589			0			1,481,589	
保険料	74,138	24,712	24,712		123,562			0			123,562	
諸謝金	1,706,681	212,925	132,000		2,051,606			0			2,051,606	
租税公課	24,270	8,090	8,090		40,450	20,000		20,000			60,450	
支払手数料	11,000	4,400	12,540		27,940			0			27,940	
渉外費	15,000	5,000	5,000		25,000			0			25,000	
委託費	99,000		537,600		636,600	25,000		25,000			661,600	
雑費	20,000	20,000	20,000		60,000			0			60,000	

管理費												
役員報酬									103,800		103,800	
給与手当									515,000		515,000	
福利厚生費用									230,000		230,000	
会議費									429,000		429,000	
旅費交通費									364,000		364,000	
通信運搬費									585,736		585,736	
減価償却費									87,234		87,234	
消耗什器備品費											0	
消耗品費									219,517		219,517	
修繕費									90,000		90,000	
印刷製本費									10,000		10,000	
光熱水料費									105,000		105,000	
賃借料									10,000		10,000	
保険料									123,562		123,562	
諸謝金									1,216,752		1,216,752	
租税公課									140,000		140,000	
支払手数料									13,200		13,200	
渉外費									200,000		200,000	
委託費									140,000		140,000	
雑費									150,000		150,000	
経常費用計	4,985,263	1,112,526	4,297,972	0	10,395,761	65,354	0	65,354	4,732,801		15,193,916	
評価損益等調整前当期経常増減額												
評価損益等計												
当期経常増減額	▲ 3,615,263	▲ 1,077,526	▲ 3,447,972	3,784,500	▲ 4,356,261	345,730	0	345,730	4,270,999		260,468	
2.経常外増減の部												
（1）経常外収益												
（2）経常外費用												
当期経常外増減額												
他会計振替額				142,271	142,271	▲ 142,271	0	▲ 142,271			0	
法人税・住民税及び事業税						▲ 145,000	0	▲ 145,000			▲ 145,000	
当期一般正味財産増減額	▲ 3,615,263	▲ 1,077,526	▲ 3,447,972	3,926,771	▲ 4,213,990	58,459	0	58,459	4,270,999		115,468	
一般正味財産期首残高												

2022年（令和4年） 受賞者
栄えある受賞おめでとうございます。（敬省略）

瑞宝双光章（秋）　　中　野　寿　夫

厚生労働大臣表彰　　田　中　　宏

埼玉県知事表彰　公衆衛生事業功労者に対する知事表彰

齋　藤　幸　夫

志　田　智　樹

八木沢　英　樹

左から田中会長・齋藤幸夫氏・志田智樹氏・八木沢英樹氏

瑞寶雙光章を受章して

熊谷外科病院　中野　寿夫

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会員の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて私こと、令和４年秋の叙勲において、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のご推薦により、瑞寶雙光章の栄誉に浴することができました。

これもひとえに永年にわたり歴代会長をはじめ、多くの先輩方または同僚、そして会員の皆さまに支えられた賜物とあらためて深謝します。

令和４年11月24日、埼玉県知事公館にて大野知事より、勲記・勲章の伝達を受けました。昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、皇居での拝謁、式後のパーティは中止となりましたが、中庭で知事から眩い紅葉の下、記念撮影に応じていただくなど貴重な体験をさせていただき、感謝と感激でいっぱいです。

昭和54年、夜間の放射線技師学校に入学と同時に放射線科補助員として奉職、43年間医療従事者として歩んできた事が走馬灯のごとく過ぎて行き、感慨深い気持ちです。本会とは、平成２年熊谷駅ビルでの放射線展企画にて、駅前の医療機関との事で実行委員となり、それからの関係で地区会役員、平成９年から平成13年まで理事、地区会長をさせていただきました。その間、地区会則制定に地区役員の皆さまと行った事や、学術大会などでの運営など自身として誇れる実績などございませんが、皆さまに支えられ会務の運営に携わる事ができました。このたび受賞内示にあたり、本会会務や地域医療にもっとできた事があったのではと恐縮しています。今後はこの章の栄誉に恥じぬよう職場スタッフや会員皆さまの規範となるよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻をお願いします。

最後に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のますますのご発展と会員の皆さまのご健勝とご多幸をお祈りし、ご報告とお礼のあいさつとします。

左：中野寿夫　右：大野知事

2022年度　第20回　胸部認定試験　開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
学術理事　滝口　泰徳

2023年１月15日（日）に埼玉県診療放射線技師会主催の第20回胸部認定試験がオンライン形式で開催されました。認定試験の受験者は県内外合わせ11人でした。昨年度よりオンライン形式で開催しており、県外からの受験者がいることはそのメリットであると感じます。

開催方法は昨年度同様、Zoomで受験者と通信を行ったまま、Webのアンケートサイトを用い読影問題および筆記問題を解答する方法をとりました。試験後の受験者のアンケートでは「とても勉強になりました」や「自分に足りないところが分かりました」などの感想をいただき、今後もより内容を充実させつつ、事業を継続する必要があると感じました。

認定試験を行うに当たり、問題作成にご協力いただいた講師の先生方、オンライン開催に向けさまざまな意見を下さった学術委員、また受験いただいた皆さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

認定試験の結果は以下の通りです。

【胸部認定】

Ａ認定：該当者なし

Ｂ認定：吉澤　孝郁　（埼玉医科大学総合医療センター）
五十嵐　慧　（かわぐち心臓呼吸器病院）
松吉　和樹　（自衛隊中央病院）
奥田　さくら　（丸山記念総合病院）
新井　隼統　（上尾中央総合病院）
須崎　雅人　（埼玉県済生会川口総合病院）

認定試験を合格者したかたがたには、各施設において撮影技術向上と精度管理の普及をお願いするとともに、放射線業務の質の向上に努めていただければ幸いです。

2022年度　乳腺セミナー　開催報告

学術委員　亀山　枝里

2023年1月15日（日）に、埼玉県診療放射線技師会主催の乳腺セミナーが、オンラインで開催されました。受講された参加者は22人おり、県外からの参加者も見られ、オンライン開催の利点であると考えられます。

今回のセミナーでは、マンモグラフィの標準撮影法と読影法の基礎から追加撮影法まで学べる内容でした。早期乳がんを見逃さないために重要な項目であり、セミナー後のアンケートに関しても、良かったとの回答を頂け、次回開催に向けてのご意見も頂けました。

今回ご講演いただきました講師のかたがた、またご参加いただいた受講生の皆さまにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

プログラム（敬称略）

9：00～10：00	マンモグラフィの標準撮影法	埼玉協同病院	佐藤夏都美
10：00～11：00	マンモグラフィの追加撮影法	熊谷生協病院	新島　正美
11：10～12：10	マンモグラフィの読影法	熊谷総合病院	亀山　枝里

2022年度　第13回CT認定試験開催報告

学術理事　中根　　淳

2023年１月19日（木）に、昨年度同様にオンライン環境のみで第13回CT認定試験を開催した。認定試験の受験者数は７人であった。昨年度よりCT認定試験は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、会場集合型から切り替えてオンラインで実施をしている。オンライン開催のため、他県からの受験がありオンラインのメリットと考えている。内容は、例年通り筆記・読影・物理特性の３つの試験を実施し、各試験70点以上で認定取得となる。試験当日、ページングによる読影はリモートデスクトップアプリケーションなどを活用し、会場型と同じような試験を構築し、大きなトラブルもなく終えることができた。今後も、オンラインにて継続的に認定試験は実施する予定である。

最後に認定試験を行うに当たり、問題作成にご協力いただいた講師の先生、また受験いただいた皆さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

【CT認定者】敬称略
Ａ認定：該当者なし
Ｂ認定：安澤　毅幸（西大宮病院）
　　武田　尚也（上尾中央総合病院）
　　白石　健吾（埼玉医科大学総合医療センター）

認定試験を合格されたかたがたには、各施設でCT検査の技術向上において中心的な役割を担っていただけたら幸いです。

2022年度救急撮影ケーススタディ Web 開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
学術理事　滝口　泰徳

2023年１月20日（金）にWeb会議システムを用いて、2022年度救急撮影ケーススタディ Webを開催しました。参加は10人の申し込みがありました。内訳は、埼玉県以外にも多くの地域からの参加があり、オンラインセミナーのメリットと考えています。内容と講師は、以下の通りです。

プログラム（敬称略）

19：00～20：00　頭頸部領域の疾患

埼玉石心会病院　岡本　拓己

20：00～21：00　胸部領域の疾患

上尾中央総合病院　武田　尚也
宮本　桃子

グループワークファシリテータ

上尾中央総合病院　佐々木　健
埼玉医科大学総合医療センター　大根田　純
JCHO船橋中央病院　滝口　泰徳

埼玉県診療放射線技師会では救急撮影ケーススタディとして、「１つの疾患に対して、身体所見、生理検査から総合的に画像検査を捉える」ことを目的にグループワークを含む講習会を行ってまいりました。しかし、ここ２年間は新型コロナウイルスの感染拡大の観点から、Web(Zoom)を用いた座学中心のセミナーとなっておりましたが、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いることにより、再びグループワークを行うことが可能となりました。今回のテーマは「絶対に見逃してはいけない救急疾患」ということで、頭頸部と胸部領域について行われました。ブレイクアウトルームを用いた講習会は学術事業として初めて行いましたが、演者の先生や学術委員との事前練習の成果もあり滞りなく終了できたものと思います。開催後のアンケート結果では非常に高い満足度が得られており、今後も継続的に開催し、より多くの方に参加していただきたいと感じました。

最後になりますが、講師の皆さまおよびセミナーに参加していただいた皆さまにこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

2022年度　上部消化管検査認定講習会・認定試験　開催報告

学術担当　浅見　純一

2023年１月22日（日）に2022年度上部消化管検査認定講習会を開催しました。今年度も前回と同様に完全オンライン形式での開催となりましたが、熊本県から参加された方もいらっしゃり、遠方からのご参加はオンライン開催による効果だと考えております。申込者数は７人で、全ての方が全講習会を聴講し修了されました。今後もより充実した講習会を開催できるように企画してまいります。

講習会のプログラムおよび講師は下記の通りです。

プログラム（敬称略）

開催日：2023年1月22日（日）
会　場：Zoomを利用したオンライン講習

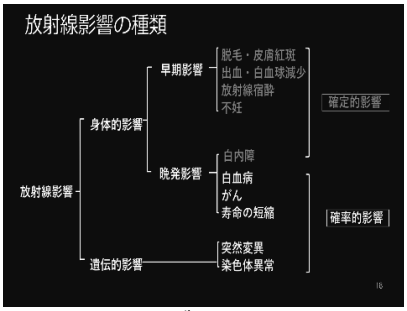
8：30～ 9：30	X線透視装置の基礎：画質：性能評価	浅見　純一（行田中央総合病院）
9：40～10：40	被ばく管理	志田　智樹（丸山記念総合病院）
10：50～11：50	受診者管理（造影剤・検査説明・接遇・情報管理）	伊藤　寿哉（埼玉石心会病院）
11：50～12：50	昼休み	
12：50～13：50	上部消化管撮影技術	池田　圭介（済生会川口総合病院）
14：00～15：00	上部消化管検査に必要な病理	今出　克利（大宮医師会）
15：10～16：10	上部消化管検査に必要な読影	今出　克利（大宮医師会）
16：20～17：20	精密検査法とレポート作成	大森　正司（さいたま赤十字病院）

また、2023年２月５日（日）に2022年度上部消化管検査認定試験を開催しました。今年度も前回と同様にオンライン試験となりましたが、大きなトラブルもなく開催することができました。２人の方が受験されましたが、合格者はいらっしゃいませんでした。今後も、新型コロナウイルスの感染状況に左右されないように、講習会や認定試験を企画してまいりますので、ぜひ、ご参加ください。

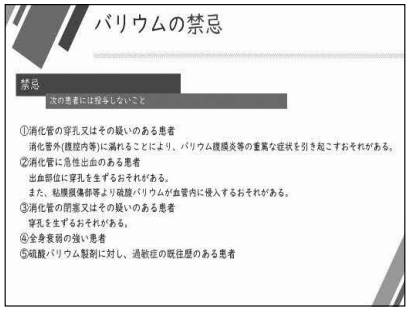
終わりに、参加された受講生の皆さま、講義を担当していただいた先生方に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

本会の動き

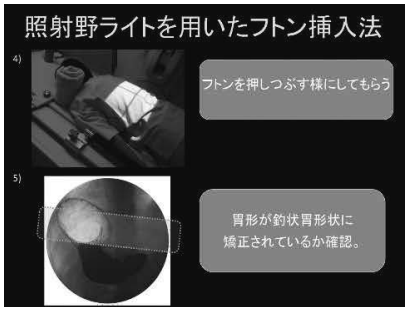
【講義資料および認定試験（画像評価）の一部】



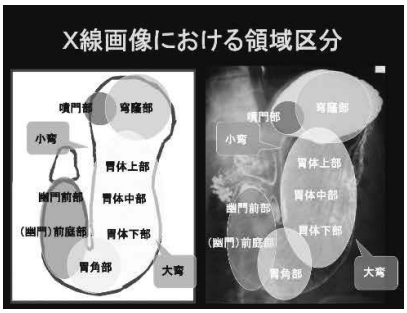
被ばく管理



受診者管理

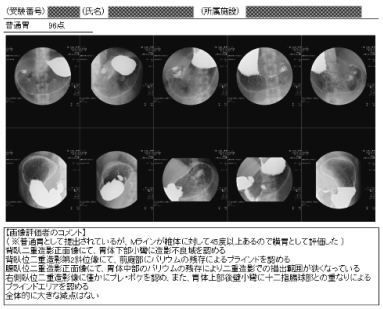


上部消化管撮影技術



上部消化管検査に必要な読影

精密検査法とレポート作成



画像評価

放射線被ばくに関する講習会　開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
公益理事　紀陸　剛志

2023年１月25日（水）に埼玉県診療放射線技師会主催の放射線被ばくに関する講習会が、オンラインで開催されました。参加者は24人でした。昨年同様、埼玉県外からの申し込みが多数あり、放射線被ばくに関する関心の高さを再認識しました。

今回は、「放射線被ばくに関する知識をアップグレードしよう」という趣旨から、JART会誌に連載されている「放射線の影響・防護の知識」放射線影響研究所　中村典先生の誌上講座の内容を参考に、１、放射線被ばくに関する基礎知識　２、放射線被ばくとがん　３、放射線被ばくと遺伝的影響　について、講師のかたがたに講演いただきました。被ばく相談にもよく関連する内容であり、知識のアップグレードの重要性を感じる、非常に興味深い講演となりました。また改めてJART会誌を読み返すことで、さらに理解が深まると感じました。

昨今の法改正により、国民に対して診療放射線技師が、正しい放射線知識の啓発に貢献できると期待されていることから、われわれも放射線被ばくに関する知識を正しく理解し、身に付けておく必要があります。今後も知識のアップグレードのため、放射線被ばくに関する講習会を企画していきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

最後に、当講習会にご協力いただきました講師のかたがた、ご参加いただきました会員の皆さまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

プログラム（敬称略）

総合司会　埼玉医科大学病院　紀陸　剛志

1	放射線被ばくに関する基礎知識	上尾中央総合病院　嶋崎　恭介
2	放射線被ばくとがん	さいたま赤十字病院　大河原進司
3	放射線被ばくと遺伝的影響	済生会川口総合病院　志藤　正和

第４回SART被ばく相談事例検討会　開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
公益理事　紀陸　剛志

2023年2月18日（土）に埼玉県診療放射線技師会主催の第４回SART被ばく相談事例検討会が、RaiBoC Hall(市民会館おおみや)で開催されました。参加者は13人でした。3年ぶりに会場集合型の開催となり、参加者同士での活発な意見交換を拝見することができました。

今回は、「相談者の本音を引き出す！回答力アップのコツ」という趣旨から　(1)被ばく相談とは、コツ　(2)メールでの被ばく相談　(3)対面での被ばく相談　について、３人の公益委員に講演していただきました。普段被ばく相談を行っていく上でのコツや、初心者でも安心して始められるような分かりやすい内容で、非常に興味深い講演となりました。

グループワークでは、相談内容をディスカッションした後、実際に発表形式にて被ばく相談を行いました。今回は、国家資格キャリアコンサルタントのかたがたに、アドバイザーとしてご参加いただきました。われわれが普段行っている被ばく相談に対して、一般市民としての意見や感想を聞くことができ、相談者の気持ちの揺らぎや応対について助言を頂きました。医療側の伝えたい返答と、一般市民側の気持ちの変化を実際に感じることで、今後の被ばく相談の幅が広がる貴重な機会となりました。

最後に、当講習会にご協力いただきました国家資格キャリアコンサルタントの小林さま、高岡さま、ご参加いただきました会員の皆さまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

プログラム（敬称略）

	司会　佐々木　健、紀陸　剛志
１．相談者の本音を引き出す！回答力アップのコツ	
(1) 被ばく相談とは、コツ	SART公益委員　石田　仁子
(2) メールでの被ばく相談	SART公益委員　宮崎　千晶
(3) 対面での被ばく相談	SART公益委員　内海　将人
２．被ばく相談事例検討会（グループワーク）	
グループワークファシリテータ	SART公益委員
アドバイザー	国家資格キャリアコンサルタント　小林　京子
	国家資格キャリアコンサルタント　髙岡　稔

第36回埼玉県診療放射線技師学術大会　開催報告

大会長　田中　　宏
実行委員長　城處　洋輔

第36回埼玉県診療放射線技師学術大会は新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、ソニックシティの会場とWeb配信を併用したハイブリッド形式にて、2023年３月５日（日）に開催した。 参加申し込み者数は238人で、県内が234人、県外は４人であった。

大会テーマは、『診療放射線技師の次なるステージを目指して』とし、これからの診療放射線技師の在り方を考える大会となるよう思いを込めた。一般演題には29演題と多くの登録があり、発表していただいた演者の先生方には感謝申し上げます。

大会講演では、順天堂大学医学部附属順天堂医院の木暮陽介先生に「STAT画像報告の新しいステージ」について講演いただき、現在進めているSTAT画像報告ガイドラインの概要や進捗について分かり易く解説され、非常に興味深い内容であった。特別講演では日本診療放射線技師会理事の高橋俊行先生に「日本診療放射線技師会 新生涯教育システムについて」について講演頂き、ラダーシステムの考え方、現在利用できる範囲などについて紹介された。学術講演１では、上尾中央総合病院循環器内科の増田尚己先生に「虚血性心疾患の治療」について講演いただいた。学術講演２では、さいたま赤十字病院の寺澤和晶先生に「造影CT技術の草わけを回想する～八町先生の造影理論～」について講演いただいた。その他、フレッシャーズセミナー、学術委員会企画、ランチョンセミナー、臨床検査技師会合同シンポジウムを企画した。

大会運営については、埼玉県で初めてのハイブリッド開催であり、実行委員をはじめ、講師・座長・演者の先生方の事前の準備から当日の発表に至るまでご協力いただきまして、この場をお借りして感謝申し上げます。

次回の第37回埼玉県診療放射線技師学術大会は2024年３月３日（日）、ソニックシティで開催予定です。開催形式については変更する可能性がありますが、ぜひご参加ください。

【最優秀演題賞】

演題番号７：自動断面設定を用いた膝関節MRIにおける再現性の検討
埼玉医科大学病院　若林　将希

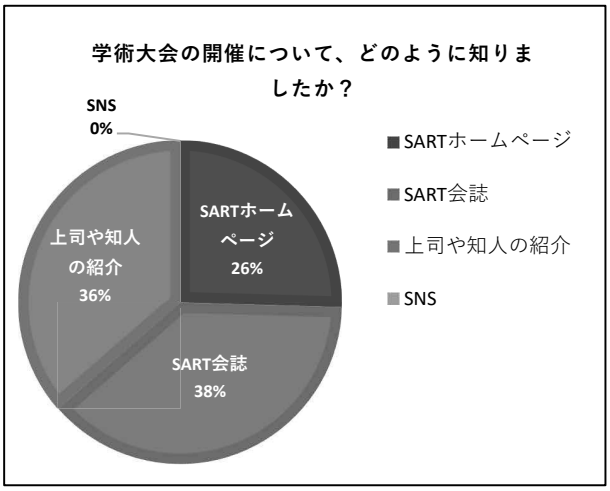
【優秀演題賞】

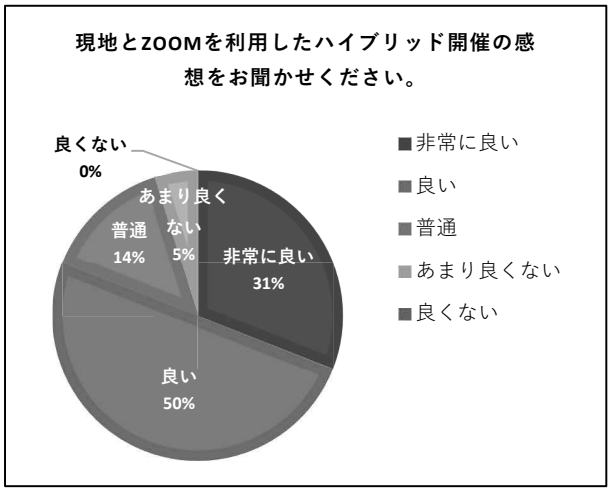
演題番号27：深層学習再構成法が金属アーチファクト低減処理を用いた
金属物質再構成画像に与える影響
上尾中央総合病院　中川原　拓実

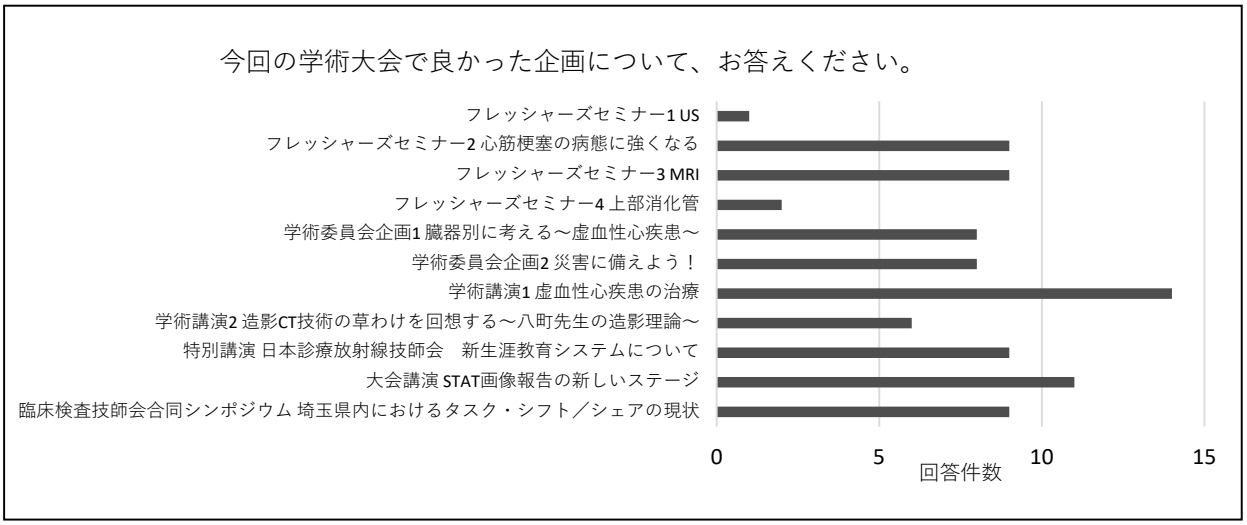
演題番号15：移動型Ｘ線透視装置における3Dスキャン条件の基礎的検討
上尾中央総合病院　蛯原　　彩

本会の動き

【アンケート報告】







学術大会に参加した感想およびご意見など、ご入力ください。（抜粋）

- 医師の講演は貴重なので聞けて良かった。
- 職場で活かせる知識と診療放射線技師としての最新の情報が得られた。
- ハイブリッド開催があると参加者も増えていいと思う。
- 体調や家庭の事情等、現地に行かなくても参加できてたので良かった。
- ZOOMは遠方からや多く時間が割けない人にとって参加しやすく良いと思う。しかし現地は現地でその場の雰囲気などモニター越しでは感じえない空気感があり良いと思うので、今回の様なハイブリッド型の開催を続けてほしい。
- Zoomでの参加となりましたが、通信不良が重なり聞きにくい場面が多々ありましたので改善していただけると幸いです。
- Zoom開催の利点もありますが、やはり回線が不安定なので改善できればよいのですが。
- 機器展示ブースが閑散としていたのが残念だった。

今後、聞いてみたい企画や内容など、要望がありましたら、ご入力ください。

- AIの画像再構成について
- STAT 画像の講演と、タスクシフトへの各施設の取り組みが今後も興味あります。
- 医療安全、機器管理、一般撮影、救急医療
- STAT の事業は解りました。先行する認定資格の機器管理士、放射線管理士の活動はどうなっているのでしょうか？
- 虚血性心疾患は興味あり，勉強になりました。
- 会場でのFreeWifi があれば、会場でZoomできスライドがよく見えますね。検討ください。

本会の動き

開会宣言

大会長あいさつ

受付風景

機器展示風景

実行委員長あいさつ

閉会宣言

本会の動き

実行委員　集合写真

ご来賓の皆さま

2022年度　MRI基礎講習会（Web）の開催報告

埼玉県診療放射線技師会
学術理事　近藤　敦之

埼玉県診療放射線技師会が主催してきたMRI基礎講習会は、昨年に引き続きZoomを利用したオンラインセミナーとし2023年３月25日（土）に開催しました。内容は性能評価項目に関する講義、問題演習としました。受講者は19人でした。

装置性能評価解説（評価項目、レポート作成について）では認定試験受験に必要な装置性能評価項目の解説をしました。この講義を受けることで性能評価実験のやり方、レポート作成ができるようになったと思います。実験の進め方については複数の装置メーカーの例を提示し、実験を進める上での注意点を解説しました。実験を進める際のポイントがつかんでもらえたと思います。試験問題解説では、磁気共鳴専門技術者認定試験の中から性能評価に関連する問題を取り上げました。試験問題を表示してから解説する演習形式で講義をしました。性能評価を整理してもらえたと思います。

最後に、講師の皆さま、受講者の皆さま、協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

プログラム（敬称略）

2023年 3月25日（土）13:00～

13：30～14：30 装置性能評価解説（評価項目、レポート作成について）
さやま総合クリニック　坂口　功亮

14：40～15：40 実験の進め方について
埼玉医科大学病院　近藤　敦之

15：50～16：50 試験問題解説（性能評価項目関連）
埼玉医科大学国際医療センター　駒形　一成

第一支部

報告事項

（1）支部役員会

ア．日　時：2023年2月16日（木）19：00～

イ．場　所：ZoomによるWeb開催

ウ．参加者：11人

エ．内　容：次回勉強会について

役員変更について

退任）酒井　利幸、鎌田　靖男、小野寺衣里、戸澤　僚太

新任）田村　智將、小野田真帆、関口　　諒

（2）第2回第一支部勉強会および会計報告

ア．日　時：2023年3月23日（木）19：00～20：30

イ．場　所：ZoomによるWeb開催

ウ．参加者：44人

エ．内　容：

（ア）2022年度会計報告

第一支部理事　双木　邦博

（イ）メーカー講演

「造影検査におけるリスクマネージメント

―造影CT/MRI検査を中心に―」

バイエル薬品株式会社　小西　達也

「最新情報　MRI/マンモグラフィー/アンギオグラフィー」

シーメンスヘルスケア株式会社

MR事業部　大澤　勇一

XP事業部　青木　みき

Cardiology/IR事業部　金子　達也

（ウ）一般演題

「頭部領域におけるDual-Energy CTの有用性について」

さいたま市立病院　林崎　芽衣里

浦和区役所保健センターより

「浦和区健康まつり～健康で共に支えあうまちづくりのために～」の事業終了が決定しました。

今後は、新しいかたちでの活動も模索し、「浦和区健康まつり」の開催について、2022年度をもって一旦終了とさせていただくことになりました。

第三支部

第三支部だより

第三支部理事　市川　隆史

花屋の軒先にカーネーションが並ぶ季節となりました。第３支部会員の皆さまにおかれましてはお健やかにお暮らしのことと存じます

さて昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年行事である川越市健康祭りは川越市ホームページ上のWeb開催となり、第三支部勉強会もWeb開催のみで開催致しました。また、納涼会、新年会などの親睦活動も自粛をさせていただきました。本年度はどのような活動が可能であるのか分かりませんが、慎重かつ期待をもって状況を見ていきたいと思います。

勉強会につきましても、埼玉県診療放射線技師会活動に鑑みて開催する予定です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

【報告事項】

1．第2回　第三支部勉強会・総会

（ア）日時：2023年3月29日（水）18：30～20：00

（イ）場所：COVID-19感染対策でZoomにて開催

（ウ）内容：「埼玉医科大学国際医療センター新棟（化学放射線治療棟）の紹介」

埼玉医科大学国際医療センター　吉田　春果

「急性期脳梗塞の血管内治療について」

埼玉医科大学国際医療センター　柴田　美穂

参加人数：32人

2．第5回　支部役員会

（ア）日時：2023年3月29日（水）20：00～20：30

（イ）場所：COVID-19感染対策でZoom会議

（ウ）内容：役員交代による申し送り・次年度運営に関して

参加人数：10人

【今後の予定】

1．2023年度　第１回第三支部役員会

（ア）日時：未定

（イ）場所：Zoomでの開催を予定

（ウ）内容：年間活動予定報告

※第三支部活動は随時、埼玉県診療放射線技師会ホームページに掲載しますのでご確認ください。

各支部掲示板

【2022年度総会開催報告】

2023年3月29日に「2022年度　第三支部総会」を開催しました。
第2回勉強会（Web開催）の後、開催となりました。
開催時の資料を、この場を借りて提示させて頂きます。

審議　R4-1　令和４年度事業報告

令和４年度　埼玉県診療放射線技師会　第三支部・地区事業報告

（令和４年４月１日～5 年３月 31 日まで）

報告事項

（1）第１回　役員会
日時：2022 年６月３日(金) 19:00～19:40
場所：COVID-19 感染対策で ZOOM 会議
出席者：4 名
内容：2022 年度事業日程について

（2）第２回　役員会
日時：2022 年 11 月８日（火）　19:00～19:40
場所：COVID-19 感染対策で ZOOM 会議
出席者：6 名
内容：第１回第３支部勉強会について

（3）第１回　勉強会
日時：2022 年 11 月 22 日（火）　18:00～
内容：テーマ　若葉マークの撮影技術学
・「マンモグラフィー編」 埼玉医科大学病院中央放射線部　工藤　いづみ　氏
・「核医学編」　　埼玉医科大学病院中央放射線部　松本　朱音　氏

（4）第３回　役員会
日時：2022 年 11 月 22 日（火）　19:00～19:40
場所：COVID-19 感染対策で ZOOM 会議
出席者：7 名
内容：川越市健康まつり、第２回第３支部勉強会について

（5）第４回　役員会
日時：2023 年２月 28 日（火）　18:00～18:40
場所：COVID-19 感染対策で ZOOM 会議
出席者：5 名
内容：第２回第３支部勉強会、令和４年度第３支部総会について

審議　R4-1　令和４年度事業報告

（6）第２回　勉強会・総会
日時：2023 年３月 29 日（水）　18:30～ 19:30
内容：「埼玉医科大学　国際医療センター　新棟（化学放射線治療棟）の紹介」
埼玉医科大学国際医療センター中央放射線部　吉田　春果　氏
「急性期脳梗塞の血管内治療について」
埼玉医科大学国際医療センター中央放射線部　柴田　美穂　氏

（7）第５回　役員会
日時：2023 年３月 29 日（水）　19:30～
場所：COVID-19 感染対策で ZOOM 会議
参加人数：10 人
内容：役員交代による申し送り・次年度運営に関して

第三支部理事　市川　隆史
第三支部監査　今井　昇

審議 R4-3 令和５年度事業計画（案）

令和５年度 埼玉県診療放射線技師会 第三支部・地区 事業計画（案）

第三支部理事・地区代表幹事　市川　隆史
（令和５年４月１日～令和６年３月 31 日まで）

1. 勉強会
1）第１回勉強会（支部合同）　令和５年 5 月
2）第２回勉強会　令和５年 11 月
3）第３回勉強会　令和６年３月

2. 親睦会行事
1）納涼会　未定
2）ボーリング大会　未定
3）新年会　未定

3. 公益
1）リレーフォーライフ川越　令和５年９月　開催未定
2）川越市健康まつり　令和５年 11 月　開催未定

4. 役員会
1）第１回役員会　令和５年５月
2）第２回役員会　令和５年９月
3）第３回役員会　令和５年 12 月
4）第４回役員会　令和６年２月
5）第５回役員会　令和６年３月

5. 地区定期総会　令和６年３月

注）COVID-19 感染対策により開催の有無、日付の変更の可能性あり

第三支部理事・地区代表 市川　隆史
第三支部・地区監査　今井　昇

審議R4-2　2022年度 第三支部決算報告

埼玉県診療放射線技師会 第三支部　財務出納帳

日付	支払い／入金先	勘定科目	摘要	入金	出金	残金
2022年4月1日	埼玉県診療放射線技師会		当年度補助金（500円x会員 274人）	137000		137000
2022年4月1日	銀行		硬貨を伴う引出し手数料		110	136890
2022年4月～2023年3月	第三支部役員会	会議	会議費（通信費）(1人×1000円）延べ30名 4月、11月、2月、3月		30000	106890
2023年7月2日	第1回勉強会講師謝礼 松本 朱音 氏、工藤 いづみ 氏	学術	講師謝礼 5568円×2		10000	96890
2023年2月16日	郵便局	公益	往復はがき(120枚)		15120	81770
2023年2月27日			プライバシーシール		1055	80715
2023年3月29日	第2回勉強会講師謝礼 吉田 春果 氏、柴田 美穂 氏	学術	講師謝礼 5568円×2		10000	70715
2023年3月29日	銀行		硬貨を伴う引出し手数料		110	70605
2023年3月30日	郵便局		封筒代 郵送代		2430	68175
2023年3月30日	銀行		硬貨を伴う引出し手数料		110	68065

入金合計	出金合計	残金合計
¥137,000	¥68,935	¥68,065

第三支部　理事　市川 隆史
第三支部　会計　瀬川 麻衣子
第三支部　監査　今井 昇

第六支部

～Lock on～

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

• 巻頭言
• 旧役員退任あいさつ

巻頭言

支部活動で出会えた皆さまの言葉

上尾中央総合病院　放射線技術科　茂木　雅和

・埼玉県診療放射線技師会第六支部の役員として

9年間活動しましたが、組織に従事する診療放射線技師にありながら、学術発表や《**雑用**》、ひいては技師会活動に精を出し過ぎて《**何を重視して働くか**》について悩んだ時期がありました。完全に《**ワークライフバランス**》を見失っていた時期です。そのような中、支部活動で出会った諸先輩方から、《**時間の大切さ**》《**コミュニケーション(飲み会)の必要性**》《**子育て**》など、人としての素養を教えてくださり、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

・支部会長（支部理事）として

《**2020年**》から支部会長として数多くの勉強会を開催して、人前で色々と《**説明**》する場面も多くあった。私はどちらかというと、緊張して《**ネガティブ**》思考になってしまうため、あまり喋ることは得意ではない。そのため、勉強会が始まる前は《**禁煙**》している時のような不安が強く押し寄せてくるが、相手を思いやる気持ちが大切という《**茶道**》をされていた方からのフレーズを思い出し、目の前にいる聴講者のかたがたに楽しんでもらおうと必死になっていました。勉強会に参加されていた方はお気付きでしたでしょうか？

・一人の診療放射線技師として

新型コロナウイルス感染症の発見から3年経過し、時代の様変わりとなった。診療放射線技師として一番感じる部分は、Webを使用したリモート会議や勉強会ではないだろうか。初めて開催したWeb役員会では《**その場に合わせた最善を**》と思い試行錯誤したが、《**コミュニケーションの難しさ**》をつくづく痛感して、会議どころではなかったことを今まさに思い出す。

・最後に・・・

今日まで、私一人では何も成し遂げられませんでした。

しかし、これまでに出会えた《**人との関わり**》や《**あいさつの重要性**》を大切にしたからこそ、支部活動を《**当たり前の日常**》にできてきたと思います。そして、私にとって今年は次のステップへの《**転換点**》となりそうです。

これまで燃やしてきた気持ちを《**風化させない**》ように、引き続き精進していきたいと思います。

さて、《**健康管理**》のため《**ランニング**》でもしようかな。。。

※本内容の詳細は、SART支部HP【技師会雑誌 巻頭言集】をご確認ください。

旧役員退任あいさつ

4年間にわたり第六地区/支部会長(理事)を務めさせていただきました、上尾中央総合病院の茂木です。

2023年3月9日の定期総会を持ちまして、退任させていただくこととなりました。在職中は支部会長という大役を務めさせていただき、監事はじめ役員の方のご尽力により健全な会運営に携われました事、心よりお礼申し上げます。また、仲西会長の下、埼玉県診療放射線技師会第六地区のますますの発展を心より祈念申し上げます。まずは略儀ながら書面をもちまして退任のごあいさつを申し上げます。

上尾中央総合病院　茂木　雅和

4年間、総務として参加させていただきました。私は地元が栃木なので、埼玉に来たときは特に知り合いのいない状態でしたが、第六支部の存在を知り、勉強会で他施設の診療放射線技師のかたがたとの交流を持つことができ、大変勉強になりました。ここで学んだことを生かせるように次の職場でも頑張りたいと思います。4年間ありがとうございました。

大宮中央総合病院　小屋　　匠

2年間総務を務めさせていただきました。任期中はオンラインでの活動となりましたが、貴重な経験をさせていただきました。至らぬ点も多々あり、皆さまには大変お世話になりました。今後も技師会の一員として活動に貢献していきたいと思います。

埼玉県立小児医療センター　茂木健太朗

3年間編集を務めさせていただきました。会長はじめ役員の皆さまには大変お世話になりました。
他施設の皆さまとの交流など貴重な経験をさせていただきました。
これからは一会員として第六支部の活動に参加していきたいと思います。
3年間ありがとうございました。

埼玉県立がんセンター　佐越　美香

求人コーナー

本会は、求人情報の掲載のみで、雇用内容に関するお問い合わせは受けておりません。また雇用契約に一切関わっておりません。

施設名　しもかわクリニック

住所	越谷市袋山2048-1
担当者氏名	事務長　下川
TEL	048-970-7770
募集対象者	放射線技師
雇用形態	常勤
業務内容	放射線業務（一般、CT、MRI経験者）
待遇	￥300,000～　賞与あり　車通勤可能
勤務時間	8：30～12：00　14：30～19：00
休日	週休２日（年末年始、GW、夏期休暇、祝日）
募集人員	１人
宿舎の有無	無
社会保険など	有　社会保険　厚生年金　雇用　労災
応募方法	面接
その他	新クリニックへ移転６月～稼動開始予定　研修あり

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会発行の会誌「埼玉放射線」で、診療放射線技師の求人コーナーを掲載しております。次の掲載要項をご理解の上、申し込みくださるようお願い申し上げます。

掲載要項

発 行 部 数：約1560部
発行エリア：埼玉県内
発　行　月：１・５・７・10月中旬
原稿締切日：発行月の１カ月前の１日
申 込 方 法：求人広告掲載申し込み用紙でFAX、または同項目を記載し電子メールにて申し込み。
　　法令により年齢や性別に関する記述はできません。
掲 載 可 否：後日担当者より連絡
掲　載　料：１回１万円
振　込　先：掲載決定後にご連絡

求人広告掲載申し込み FAX 用紙

施設名	
住所	
担当者氏名	
TEL	
FAX	
E-mail アドレス	
募集対象者	
雇用形態	
業務内容	
待遇	
勤務時間	
休日	
募集人員	
宿舎の有無	
社会保険など	
応募方法	
その他	

FAX 送信先　公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
FAX 番号　048-664-2733
電子メールアドレス　sart@beige.ocn.ne.jp

2022年度　第2回常務理事会議事録

日　　時：2022年10月6日（木）19：00～20：30
場　　所：ZoomによるWeb会議
出 席 者：会　　長：田中　　宏
副 会 長：富田　博信、潮田　陽一
常務理事：今出　克利、八木沢英樹、
城處　洋輔、中根　　淳、
清水　邦昭
監　　事：浅野　克彦
事務局長：結城　朋子

第１．議事録作成人、議事録署名人の選出について

議　　長：田中　　宏
議事録署名人：田中　　宏、潮田　陽一
議事録作成人：八木沢英樹　と定めた。

第２．報告および確認事項

１．会長（田中）
（１）告示研修会（埼玉県開催）
第1回開催報告を行った。(告示研修会責任者：城處常務理事)
第2回から第4回開催ファシリテーター・スタッフなど人数について検討を行った。

２．副会長（富田）
（１）報告事項なし

３．副会長（潮田）
（１）立入監査について
ア．開催日程：11月18日（金）
イ．関係書類準備の担当者割振りを行った。

４．総務（今出）
（１）告示研修の委嘱状の発送について
ア．該当者12人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-13)
イ．9月6日（火）に郵送した。
（２）臨時総務委員会を開催した。
ア．日時：2022年9月7日(水)19：00～21：20
イ．会場：ZoomによるWeb会議
ウ．内容：永年勤続表彰候補者の抽出について (業務引継ぎ)
エ．添付資料①：臨時総務委員会　議事録
（３）会費免除申請について
ア．会員番号：1200
イ．申請理由：育児
ウ．休業期間：2022年3月～2023年5月
エ．2022年度会費を免除とした。
（４）救急撮影ケーススタディの委嘱状の発送について
ア．該当者3人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-14)
イ．9月22日（木）に郵送した。
（５）胸部認定講習会の委嘱状の発送について
ア．該当者4人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-15)
イ．9月22日（木）に郵送した。
（６）DR計測セミナーの委嘱状の発送について
ア．該当者2人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-16)
イ．9月26日（月）に郵送した。
（７）CT認定講習会の委嘱状の発送について
ア．該当者6人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-17)
イ．9月28日（水）に郵送した。
（８）JART永年勤続表彰対象者（50年，30年）の候補者推薦状の発送について
ア．該当者23人に対して、推薦状を作成した。(公印番号4-18)
イ．10月5日（水）に郵送した。
（９）SART会員DBの不具合について
戸澤事務局員より、以下の通り不具合箇所の指摘があり、望月印刷に修正を依頼する方向で協議中である。
① 技師学校の新規登録ができない。
② 勤務先電話番号が個人ページおよびCSVに表示されない。
③ 会員編集ページにて、「専攻」「会誌発行」「認定技師」「都道府県」は不要かと考える。
④ 同じく会員編集ページにて、「免許証登録番号」と「免許証番号」どちらか不要と考えます。現在は前者欄に番号を記載している。

⑤ 会員検索ページのキーワード検索について、旧DBのようにSART番号、JART番号、氏名、カナなど個々の入力でも検索できるようになればスムーズな検索ができる。現在は検索の都度、「何を検索するか」を選んでから情報を入力しなければ検索できない仕様となっている。

⑥ 会員情報ページに勤務先の郵便番号・住所・電話番号などが表示されると良い。現在は勤務先名のみの表示となっている。

⑦ 会員編集ページにて、自宅住所カナの変更ができず、変更前の情報のまま登録される。

（10）2022年度の会議予定

日程	イベント名	備考欄
2022/10/ 6（木）	第2回常務理事会	
2022/10/27（木）	第5回常務連絡会	
2022/11/10（木）	第5回理事会	祭日のためスライド
2022/12/ 1（木）	第3回常務理事会	
2022/12/29（木）	第6回常務連絡会	
2023/ 1/ 5（木）	第6回理事会	
2023/ 2/ 2（木）	第4回常務理事会	
2023/ 2/22（水）	第7回常務連絡会	祭日のためスライド
2023/ 3/ 2（木）	第7回理事会	

5．総務（八木沢）

（1）国会見学について

見学日：12月18日（日）午後

参加締め切り：11月13日（日）

6．学術（城處）

（1）技師会事務所倉庫

ハチの巣があり、「告示研修会物品箱」にはちみつが付着業者に“ハチの巣”除去依頼検討

（2）2022年度　第36回埼玉県診療放射線技師学術大会

開催日：2023年3月5日（日）

場所：大宮ソニックシティ・Web（ハイブリット開催）

演題募集：2022年10月11日（火）～11月20日（日）

7．学術（中根）

報告事項なし

8．編集情報（清水）

（1）会誌

ア．会誌埼玉放射線10月270号

再校正中

（ア）内容

ａ．会告

・2022度永年勤続表彰連絡
・第36回埼玉県診療放射線技師学術大会の開催案内および参加登録について
・2022年度　第7回　DR計測セミナー
・第13回CT　認定講習会
・2022年度　第20回胸部認定講習会Web開催のお知らせ
・乳腺セミナー
・2022年度　救急撮影ケーススタディWeb開催のお知らせ
・2022年度　第20回上部消化管検査認定講習会　開催のお知らせ
・放射線被ばくに関する講習会のご案内
・2022年度　第4回SART被ばく相談事例検討会
・2022年度　MRI基礎講習会（Web）のお知らせ

ｂ．特集　2022年編集情報委員会企画

「Hybrid ER Systemの使用経験」

ｃ．技術解説

「AIを用いた画像再構成技術」

GEヘルスケア株式会社

イ．会誌埼玉放射線1月第271号

締め切り：12月1日（木）

（ア）内容

・第36回埼玉県診療放射線技師学術大会抄録集

未定

（2）委員会開催

第1回編集情報委員会　2022年6月3日(金）済

第2回編集情報委員会　2022年11月4日(金)

（3）会誌発行部数　1520部に変更

（4）ホームページ

ア．Webサイト　掲載および更新（会員用）

（ア）2022年度　第7回　DR計測セミナー

議事録

（イ）第四支部勉強会のお知らせ
（ウ）2022年度　第2～4回告示研修（実技研修）開催のお知らせ
（エ）第36回埼玉県診療放射線技師学術大会演題登録
（5）メールマガジン
ア．メールマガジン登録1件
イ．メールマガジンNo117配信

9．公益（佐々木）
（1）被ばく相談
ア．7月）0件
8月）0件
9月）1件（継続中）
（2）勉強会開催に関して
ア．2022年度放射線被ばくに関する講習会：2023年1月25日（水）開催
イ．2022年度被ばく相談事例検討会：2023年2月18日（土）開催
（3）委員会
ア．第2回公益委員会を9月8日（木）に開催した
（4）文科省委託事業の「小中学生に対する放射線出前授業」研修および試験が9月10-11日で開催された

第3．審議・承認事項

1．常務理事会議案-2　常務理事会メンバーのモバイル端末データ増量と新機種購入補助について
（1）起案者：潮田　陽一（副会長）
（2）事由：現時点で契約しているモバイルデータはメール送受信を想定した3.1Gである。常務理事会メンバーはZoom会議なども多く容量不足が発生しているためデータ量の増加を求めたい。また前回端末代として1万円を技師会から補助したが、その時に購入した端末は現在動作対象外となっているものが多い。新たな端末購入を行うため再度1万円の補助をお願いしたい。
（3）実施日：2022年11月1日（火）
審議の結果、賛成多数で承認された。

審議・承認事項まとめ

No	タイトル	資料	意見	質問	審議結果	特記事項	議案書No,
1	常務理事会メンバーのモバイル端末データ増量と新機種購入補助について	なし		3	承認		常理-2

配布資料（メール配信を含む）
（1）会長資料
（2）総務資料
（3）編集情報資料
（4）学術資料
（5）財務資料
（6）議案書
（7）前回議事録

本会議の議決を証明するために、議事録署名人において署名捺印します。

2022年4月4日（月）

議事録署名人　　田中　　宏　（押印略）
潮田　陽一　（押印略）

2022年度　第5回理事会議事録（抄）

日　　時：2022年11月10日(木)19：00～20：30
場　　所：ZoomによるWeb会議
出 席 者：会　　長：田中　　宏
副 会 長：潮田　陽一
常務理事：今出　克利、八木沢英樹、
城處　洋輔、清水　邦昭、
佐々木　健
理　　事：肥沼　武司、滝口　泰徳、
近藤　敦之、吉田　　敦、
紀陸　剛志、双木　邦博、
大野　　渉、市川　隆史、
茂木　雅和
事務局長：結城　朋子
監　　事：堀江　好一、浅野　克彦
顧　　問：小川　　清
欠　　席：富田　博信、中根　　淳、
大西　圭一、矢﨑　一郎、
鈴木　正人、戸澤　　茜

第1．議事録作成人、議事録署名人の選出について

議　　長：田中　　宏
議事録署名人：田中　　宏、浅野　克彦
議事録作成人：八木沢英樹　と定めた。

第2．報告および確認事項

1．会長（田中）
（1）サプライチェーンの値上がりによる会誌原料値上げについて

2．副会長（富田）
報告事項：なし

3．副会長（潮田）
報告事項：なし

4．総務（今出）
（1）告示研修の委嘱状の発送について
ア．該当者12人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-13)
イ．9月6日（火）に郵送した。
（2）臨時総務委員会を開催した。
ア．日時：2022年9月7日（水）19：00～21：20
イ．会場：ZoomによるWeb会議
ウ．内容：永年勤続表彰候補者の抽出について(業務引継ぎ)
エ．添付資料①：臨時総務委員会　議事録
（3）会費免除申請について
ア．会員番号：1200
イ．申請理由：育児
ウ．休業期間：2022年3月～2023年5月
エ．2022年度会費を免除とした。
（4）救急撮影ケーススタディの委嘱状の発送について
ア．該当者3人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-14)
イ．9月22日（木）に郵送した。
（5）胸部認定講習会の委嘱状の発送について
ア．該当者4人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-15)
イ．9月22日（木）に郵送した。
（6）DR計測セミナーの委嘱状の発送について
ア．該当者2人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-16)
イ．9月26日（月）に郵送した。
（7）CT認定講習会の委嘱状の発送について
ア．該当者6人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-17)
イ．9月28日（水）に郵送した。
（8）JART永年勤続彰対象者（50年，30年）の候補者推薦状の発送について
ア．該当者23人に対して、推薦状を作成した。(公印番号4-18)
イ．10月5日（水）に郵送した。
（9）上部消化管検査認定講習会の委嘱状の発送について
ア．該当者5人に対して、委嘱状を作成した。(公印番号4-19)
イ．10月7日（金）に郵送した。
(10) SART会員DBの不具合について
戸澤事務局員より、以下の通り不具合箇所の指摘があり、望月印刷に修正を依頼する方向で協

議中である。

ア．技師学校の新規登録ができない。

イ．勤務先電話番号が個人ページおよびCSVに表示されない。

ウ．会員編集ページにて、「専攻」「会誌発行」「認定技師」「都道府県」は不要かと考える。

エ．同じく会員編集ページにて、「免許証登録番号」と「免許証番号」どちらか不要と考える。現在は前者欄に番号を記載している。

オ．会員検索ページのキーワード検索について、旧DBのようにSART番号、JART番号、氏名、カナなど個々の入力でも検索できるようになればスムーズな検索ができる。現在は検索の都度、「何を検索するか」を選んでから情報を入力しなければ検索できない仕様となっている。

カ．会員情報ページに勤務先の郵便番号・住所・電話番号などが表示されると良い。現在は勤務先名のみの表示となっている。

キ．会員編集ページにて、自宅住所カナの変更ができず、変更前の情報のまま登録される。
なお、「イ」と「エ」については、保守の範囲内ということで、10月18日に対応済みである。

（11）第4回SART被ばく事例検討会の委嘱状の発送について

ア．該当者2人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-21）

イ．10月19日（水）に郵送した。

（12）2023年度、役員選挙の準備

ア．選挙の告示（会誌1月号に掲載予定）

イ．選挙管理委員会の発足（各支部より選出）

（13）2023年度総会の開催準備

ア．総会資料の作成依頼（12月末）

イ．総会委員を各支部より選出

ウ．SART永年勤続表彰者（20，40年）の選出

（ア）年内に候補者を選出し書類を送付する

（イ）第8回理事会に議案化する

【2022年度の会議予定】

日程	イベント名	備考欄
2022/11/10（木）	第5回理事会	祭日のためスライド
2022/12/ 1（木）	第3回常務理事会	
2022/12/29（木）	第6回常務連絡会	
2023/ 1/ 5（木）	第6回理事会	
2023/ 2/ 2（木）	第4回常務理事会	
2023/ 2/22（水）	第7回常務連絡会	祭日のためスライド
2023/ 3/ 2（木）	第7回理事会	

5．総務（八木沢）

報告事項なし

6.編集情報（清水）

（1）会誌埼玉放射線10月第270号：発送済み

ア.内容

（ア）特集：編集情報委員企画
「Hybrid ER Systemの使用経験」
～IVR-CT導入から運用まで～

（イ）各種講習会・セミナー情報

（ウ）技術解説GEヘルスケアジャパン株式会社

（2）会誌埼玉放射線1月第271号

1部を除き、締め切りは、12月1日（木）となります。

ア．内容

（ア）技術解説：シーメンスヘルスケア株式会社

（イ）技術解説：富士フイルムヘルスケア株式会社予定

（ウ）各種講習会・セミナー情報

（エ）第36回埼玉県診療放射線技師学術大会抄録集

（3）委員会開催

第1回編集情報委員会
2022年6月3日（金）
第2回編集情報委員会
2022年11月4日（金）
第3回編集情報委員会　2023年3月予定

（4）会誌発行部数　1561部に変更

e-book　5月号にてご案内とID、パスワードを掲載
2023年5月号でパスワード変更

7.編集情報（吉田）

（1）ホームページ

ア．Webサイト　掲載および更新（会員用）

（ア）2022年度　第7回　DR計測セミナー

（イ）第四支部勉強会のお知らせ

（ウ）2022年度　第2～4回告示研修（実技研修）開催のお知らせ
（エ）第36回埼玉県診療放射線技師学術大会演題登録
（オ）2022年度　第20回胸部認定講習会Web
（カ）2022年度　第13回CT認定講習会
（キ）第78回　画像の向こうの患者をみよう勉強会（症例検討会）
（ク）（公社）日本診療放射線技師会永年勤続表彰候補者推薦について
（ケ）2022年度「放射線（診療）業務従事者の教育訓練（講習会）」

（2）メールマガジン
ア．メールマガジン登録3件
イ．メールマガジンNo117・No118配信

8．学術（城處）
（1）学術ナイトセミナーを開催した。
ア．日程：2022年7月29日（金）
イ．場所：ZoomによるWeb開催
ウ．参加人数：47人
（2）学術ナイトセミナー再放送を開催した。
ア．日程：2022年8月5日（金）
イ．場所：ZoomによるWeb開催
ウ．参加人数：3人
（3）2022年度　第3回学術委員会を開催した。
ア．日程：2022年8月23日（火）
イ．場所：ZoomによるWeb会議
ウ．添付資料：第3回学術委員会議事録（添付資料①）
（4）JART基礎技術講習（一般撮影）を開催した。
ア．日程：2022年8月28日（日）
イ．場所：ソニックシティ　602会議室
ウ．参加人数：33人（会員31人、非会員2人）
（5）告示研修（埼玉県第1回）を開催した。
ア．日程：2022年9月25日（日）
イ．場所：済生会川口総合病院　東館講堂
ウ．参加人数：47人
（6）2022年度　第4回学術委員会を開催した。
ア．日程：2022年10月18日（火）
イ．場所：ZoomによるWeb会議
ウ．添付資料：第4回学術委員会議事録（添付資料②）
（7）その他
ア．JART基礎技術講習会：2023年度e-ラーニングとなる予定

9．学術（中根）
報告事項なし

10．財務（肥沼）
（1）公益インフォメーション
ア．10月17日（月）公益インフォメーションから事業報告の修正依頼があった。
イ．10月18日（火）公益インフォメーション事業報告修正内容再提出した。
（2）今後の予定
ア．公益インフォメーションからの依頼に順次対応する。

11．公益（佐々木）
（1）被ばく相談
8月：0件
9月：1件
10月：2件
（2）勉強会開催に関して
ア．2022年度放射線被ばくに関する講習会：2023年1月25日（水）開催予定である。
イ．2022年度被ばく相談事例検討会：2023年2月18日（土）開催予定である。
（3）委員会の開催について
第2回公益委員会を2022年9月8日（木）開催した。
（4）その他
文科省委託事業の「小中学生に対する放射線出前授業」研修および試験が9月10日（土）11日（日）に開催された。

12．公益（紀陸）
報告事項
2023年2月18日（土）に開催予定の「SART被ばく事例検討会」の講師が1人変更となった。
会場予約の抽選に当選したので、仮予約していたソニックシティ会議室からRaiBoC Hallレイボックホール（市民会館おおみや）へ開催会場が変更となった。

13. 第一支部（双木）
報告事項なし

14. 第二支部（大西）
報告事項なし

15. 第三支部（市川）
（1）今後の予定
ア．第2回川越市健康まつり実行委員会
日時：2022年11月1日（火）14：00～
場所：川越市保健センター
イ．第2回第三支部役員会
日時：2022年11月8日（火）19：00～
場所：Zoomにて開催
ウ．第１回第三支部勉強会
日時：2022年11月22日（火）18：00～
19：00
場所：Zoomにて開催
内容：若葉マークの撮影技術学
・「マンモグラフィ編」
・「核医学編」

16. 第四支部（大野）
（1）報告事項
ア．第四支部Web勉強会
（ア）日程：2022年9月29日（木）
（イ）内容：
【メーカー講演】
・XTV　FLEXAVISION　F4
島津製作所　医用機器事業部
グローバルマーケティング部
飯沼　正雄氏
・頭部乳房専用PET　BresTome
島津製作所　医用機器事業部
グローバルマーケティング部
大谷　篤氏
【技師講演】
ちょっと怖い　糖尿病の話
秩父市立病院　横田　文克
（ウ）参加者：40人
（2）今後の予定
ア．第四支部Web勉強会
（ア）日程：2023年1月19日（木）
（イ）内容：未定

17. 第五支部（矢﨑）
報告事項：なし

18. 第六支部（茂木）
（1）報告事項
ア．第2回支部役員会
日程：2022年9月8日（木）
場所：Web会議
参加人数：13人
内容：四半期報告、定期講習会など
イ．第六支部　勉強会打ち合わせ
日程：2022年11月7日（月）
場所：Web会議
参加人数：10人
（2）今後の予定
ア．2022年度　第一回支部勉強会
日時：未定
場所：Web

第３．審議・承認事項

１．議案-26　本会事務所倉庫の修繕について
実施日：2022年10月23日（日）
（1）起案者：田中　宏（会長）
（2）事　由：事務所倉庫の天井裏に蜂の巣があり、天井の一部が腐食している状態である。保管物にも影響の恐れがあり、蜂の巣の撤去と修繕を行いたい。

資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

２．議案-27　新入会員の承認について
（1）起案者：今出 克利（総務理事）
（2）事　由：新入会員の承認
（3）審議経過：第5回常務連絡会（2022/12/27）
会員の動向まとめ（2022/10/24現在）

新入会	23人	2022年度累計　82人
再入会	0人	2022年度累計　8人
転入	1人	2022年度累計　9人
転出	0人	2022年度累計　6人
退会	0人	2022年度累計　2人

※第5回理事会承認後、会員数：1,448人

資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

議事録

審議・承認事項まとめ

	タイトル	資料	意見	質問	審議結果	特記事項	議案書No.
1	本会事務所倉庫の修繕について	あり	0	0	承認	なし	理-26
2	新入会員の承認について	あり	0	0	承認	なし	理-27

配信資料（メール配信を含む）

(1) 総務
(2) 学術
(3) 公益
(4) 財務
(5) 編集・情報
(6) 各支部
(7) 議案書

本会議の議決を証明するために、議事録署名人において署名捺印します。

2023年1月5日（木）

議事録署名人　田中　宏　(押印略)
浅野　克彦　(押印略)

2022年度　第6回理事会議事録（抄）

日　　時：2023年1月5日（木）19：00～20：30
場　　所：ZoomによるWeb会議
出 席 者：会　　長：田中　　宏
副 会 長：富田　博信、潮田　陽一
常務理事：今出　克利、八木沢英樹、城處　洋輔、清水　邦昭、佐々木　健
理　　事：肥沼　武司、滝口　泰徳、近藤　敦之、吉田　　敦、紀陸　剛志、双木　邦博、大西　圭一、大野　　渉、市川　隆史、矢﨑　一郎、茂木　雅和
事務局長：結城　朋子
監　　事：堀江　好一、浅野　克彦
顧　　問：小川　　清
欠　　席：中根　　淳、鈴木　正人、戸澤　　茜

第１．議事録作成人、議事録署名人の選出について

議　　長：田中　　宏
議事録署名人：田中　　宏、浅野　克彦
議事録作成人：八木沢英樹　と定めた。

第２．報告および確認事項

１．会長（田中）
報告事項なし

２．副会長（富田）
（１）「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」などが2022年3月10日一部改正された。
（文部科学省・厚生労働省・経済産業省より）
ア．JARTの研究論理および学術大会における演題区分が変更となる。
（JART会誌2023年1月号掲載）
イ．SARTにおいても、研究倫理規定および学術大会における演題区分の変更について、学術委員会を中心に協議を進めて行く。また、研究倫理規定および演題区分の変更にあたり、会員に周知するために勉強会などの開催を検討する。

３．副会長（潮田）
（１）顧問税理士の月次監査を受けた。
ア．日程：2022年11月18日（金）　2022年12月29日（木）
（２）埼玉県医療整備課の立入検査に対応した。
ア．日程：2022年11月18日（金）

４．総務（今出）
（１）乳腺セミナーの委嘱状の発送について
ア．該当者3人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-23）
イ．11月7日（月）に郵送した。
（２）告示研修（11/26開催）の委嘱状の発送について
ア．該当者4人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-24）
イ．11月7日（月）に郵送した。
（３）告示研修（1/22開催）の委嘱状の発送について
ア．該当者4人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-24）
イ．11月9日（水）に郵送した。
（４）告示研修（2/26開催）の委嘱状の発送について
ア．該当者4人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-24）
イ．11月16日（水）に郵送した。
（５）MRI基礎講習会の委嘱状の発送について
ア．該当者3人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-28）
イ．11月30日（水）に郵送した。
（６）第4回SART被ばく事例検討会の委嘱状の発送について
ア．該当者3人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-29）
イ．12月2日（金）に郵送した。
（７）第1回選挙管理委員会を開催した。
ア．日時：12月12日（月）19:00～20:00
イ．場所：Zoomを利用したオンライン会議

ウ．参加者：今出常務理事、八木沢常務理事、結城事務局長、三橋則行、高橋將史、矢部　智、野口祐輔
エ．議事：自己紹介、スケジュール確認、業務の確認
オ．添付資料：議事録

（7）SART永年勤続表彰対象者（20年、40年）の抽出および書類を作成した
ア．日時：12月19日（月）19:00～21:20
イ．場所：技師会事務所
ウ．参加者：八木沢常務理事、結城事務局長、今出常務理事

（8）告示研修（1/22開催）の委嘱状の発送について
ア．医師2人に対して、委嘱状を作成した。（公印番号4-33）
イ．12月23日（金）に郵送した。

（9）2023年度、役員選挙の準備について
ア．選挙の告示（会誌1月号に掲載予定）
イ．選挙管理委員会の発足（各支部より選出）

（10）2023年度総会の開催準備について
ア．総会資料の作成依頼（12月末）
イ．総会委員を各支部より選出
ウ．SART永年勤続表彰者（20、40年）の選出
（ア）年内に候補者を選出し書類を送付する。
（イ）第7回理事会に議案化する。

【2022年度の会議予定】

日程	イベント名	備考欄
2023/ 1/ 5（木）	第6回理事会	
2023/ 2/ 2（木）	第4回常務理事会	
2023/ 2/22（水）	第7回常務連絡会	祭日のためスライド
2023/ 3/ 2（木）	第7回理事会	

5．総務（八木沢）
（1）SART第12回定期総会（2023年6月11日（日）開催）資料作成依頼（各委員会・理事）
原稿締切期限：2023年3月17日（金）
※締切期限後の年度内イベントなどは別途原稿をお送り下さい。
（会誌5月掲載（総会資料）原稿締切が4月上旬）

6．編集情報（清水）
（1）会誌
ア．会誌埼玉放射線1月第271号
校正中：1月末頃発行予定
（ア）内容
a．特集：医療法に基づくエックス線診療室の漏えい線量測定
b．技術解説：
シーメンスヘルスケア株式会社
c．技術解説：
富士フイルムヘルスケア株式会社
d．技術解説：
コニカミノルタジャパン株式会社
e．技術解説：株式会社千代田テクノル
f．各種講習会・セミナー開催報告
g．第36回埼玉県診療放射線技師学術大会抄録集
イ．会誌埼玉放射線5月272号
原稿締め切り：2023年4月1日（土）
（ア）内容
a．連載特集：放射線治療「深吸気息止め照射の臨床導入」
b．総会資料
c．その他
ウ．会誌発行部数　1561部に変更
エ．e-book　2023年5月号でパスワード変更予定

（2）委員会開催
第1回編集情報委員会　2022年6月3日（金）
第2回編集情報委員会　2022年11月4日（金）
第3回編集情報委員会　2023年3月予定

7.編集情報（吉田）
（1）ホームページ
ア．Webサイト　掲載および更新（会員用）
（ア）会誌バックナンバー266号掲載
（イ）会誌バックナンバー267～270号表紙・巻頭言掲載
（ウ）第64回　埼玉消化管撮影研究会開催案内
（エ）乳腺セミナー
（オ）2022年度　第20回胸部認定試験
（カ）放射線被ばくに関する講習会
（キ）2022年度　第４回SART被ばく相談事例検討会

（ク）2023年新春のつどい　開催中止のお知らせ
（ケ）2022年度　埼玉県がん検診セミナーの開催について
（コ）2022年度　第13回CT認定試験
（サ）2022年度　救急撮影ケーススタディ
（シ）2022年度　第20回上部消化管検査認定講習会
（ス）第79回　画像の向こうの患者をみよう勉強会（症例検討会）
（セ）第四支部　勉強会のお知らせ
（ソ）第107回　埼玉CT Technology Seminar開催のご案内

（2）Webサイト　掲載および更新（一般用）
ア．会誌バックナンバー266号掲載
イ．会誌バックナンバー267～270号表紙・巻頭言掲載
ウ．メールマガジン
メールマガジンNo119・No120配信

8．学術（城處）
（1）第7回DR計測セミナーを開催した。
ア．日程：2022年11月11日（金）
イ．場所：ZoomによるWeb開催
ウ．参加人数：17人
エ．添付資料：第7回DR計測セミナー開催報告（添付資料①）
（2）第13回CT認定講習会を開催した。
ア．日程：2022年11月20日（日）
イ．場所：ZoomによるWeb開催
ウ．参加人数：10人
エ．添付資料：第13回CT認定講習会開催報告（添付資料②）
（3）告示研修（埼玉県第2回）を開催した。
ア．日程：2022年11月26日（土）
イ．場所：県民活動総合センター
ウ．参加人数：46人
（4）第20回胸部認定講習会を開催した。
ア．日程：2022年11月27日（日）
イ．場所：ZoomによるWeb開催
ウ．参加人数：16人
エ．添付資料：第20回胸部認定講習会開催報告（添付資料③）
（5）第5回学術委員会（学術大会プログラム委員会）を開催した。
ア．日程：2022年12月5日（月）
イ．会場：ZoomによるWeb会議
ウ．添付資料：第5回学術委員会(学術大会プログラム委員会）議事録（添付資料④）
（6）第36回埼玉県診療放射線技師学術大会の開催について
ア．日程：2023年3月5日（日）
イ．会場：大宮ソニックシティ（国際会議室、市民ホール)とWebによるハイブリッド
ウ．添付資料：開催案内と参加登録、プログラム（添付資料⑤）

9．学術（中根）
報告事項なし

10．財務（肥沼）
（1）学術大会
ア．12月9日（金）第36回学術大会一般演題抄録集とりまとめ提出
イ．12月12日（月）第36回学術大会一般演題採用通知作成送信
（2）公益インフォメーションからの依頼に順次対応
（3）第36回学術大会web抄録作成予定

11．公益（佐々木）
（1）被ばく相談
11月：1件
12月：1件

12．公益（紀陸）
（1）2023年度　放射線特別授業
ア．埼玉県内の県立高等学校、私立高等学校、私立中学校への案内の郵送が完了した。
（2）放射線被ばくに関する講習会
ア．日時：2023年1月25日（水）19：00～20：40
イ．場所：ZoomによるWeb開催
ウ．申込期間：2022年12月1日（木）～2023年1月10日（火）
（3）第4回SART被ばく事例検討会
ア．日時：2023年2月18日（土）15:00～18:00
イ．会場：RaiBoC Hall（市民会館おおみや）6階　集会室9

ウ．申込期間：2022年12月2日（金）～2023年2月4日（土）

13．第一支部（双木）
報告事項なし

14．第二支部（大西）
報告事項なし

15．第三支部（市川）
（1）第１回第三支部勉強会
ア．日時：2022年11月22日（火）18：00～19：00
イ．場所：Zoomにて開催
ウ．内容：若葉マークの撮影技術学
（ア）「マンモグラフィ編」
（イ）「核医学編」
エ．参加人数：36人
（2）第3回第三支部役員会
ア．日時：2022年11月22日（火）19：00～
イ．場所：Zoomにて開催
ウ．参加人数：７人
（3）第4回川越市健康まつり実行委員会
ア．日時：2023年1月18日（水）14：00～
イ．場所：川越市保健センター　3階研修室

16．第四支部（大野）
（1）Web勉強会の開催について
ア．日程：2023年1月19日（木）
イ．内容：
メーカー講演：「Embo　familyの特徴とTIPS」
ジョンソン・エンド・ジョンソン
セレノバス事業部2課　木村　萌子
技師講演：「急性期脳梗塞の診断から治療まで」
行田総合病院　放射線科　大谷　智則

17．第五支部（矢﨑）
（1）越谷市民祭り参加報告（医用画像展を開催した）
ア．日程：2022年10月23日（日）
イ．場所：越谷市役所　周辺
ウ．実行委員：矢﨑　一郎
（春日部市立医療センター）
矢部　　智（越谷市立病院）
中村　正之
（獨協医科大学埼玉医療センター）
中嶋　幸孝
（春日部市立医療センター）
長坂　　純（三郷中央総合病院）

18．第六支部（茂木）
（1）2022年度 Web定期講習会の開催について
ア．日程：2023年1月12日（木）
イ．内容：
メーカー講演：「Philips心臓MRI撮像の概要」
株式会社フィリップス・ジャパン
栃本　　剛
ユーザー講演：「知っておきたい心臓CTの基礎」
さいたま赤十字病院　池野　裕太
「当院における心臓MRI検査の現状について」
上尾中央総合病院　　伊藤　悠貴
（2）第六支部　第3回支部役員会
ア．日程：2023年1月26日（木）
イ．場所：Zoom

第３．審議・承認事項

１．議案-28　2023年度 診療放射線技師のためのフレッシャーズセミナー（第24回SARTセミナー）の開催について
開催日：2023年5月28日（日）
（1）起案者：今出 克利（総務理事）
（2）事　由：本セミナーは新入会員を対象とし、日本診療放射線技師会と埼玉県診療放射線技師会との合同企画として、技師会活動の紹介および、日常業務に必要な基礎的知識や実習に加え、社会人として必要とされるマナーなどの習得を目的として開催している。2023年度の開催を企画したので審議願います。

資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

２．議案-29　役員選挙における選挙管理委員の選出について
（1）起案者：今出　克利（総務理事）
（2）事　由：以下の選挙管理委員についての承認について

議事録

委員長　第一支部　三橋　則行
（さいたま市立病院）
委　員　第二支部　三島　裕介
（所沢ハートセンター）
委　員　第三支部　高橋　将史
（埼玉医科大学病院）
委　員　第四支部　増渕　康太
（東松山市立市民病院）
委　員　第五支部　矢部　　智
（越谷市立病院）
委　員　第六支部　野口　裕輔
（丸山記念総合病院）

（3）審議経過：第6回常務連絡会（メール審議）
資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

3．議案-30　2023年度公益社団法人埼玉県診療放射線技師会第12回定期総会の開催について
（1）起案者：今出 克利（総務理事）
（2）事　由：2023年度　第12回定期総会開催について
会場＋オンライン配信によるハイブリッド型での開催を予定
新型コロナウイルス感染状況により、オンライン配信のみとなる可能性もあります。
日時：2023年6月11日（日）14:00から
会場：埼玉会館７Ａ会議室
（3）審議経過：第6回常務連絡会（メール審議）
資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

4．議案-31　新入会員の承認について
（1）起案者：今出 克利（総務理事）
（2）事　由：新入会員の承認
（3）審議経過：第6回常務連絡会（メール審議）
資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

会員の動向まとめ（2022/12/23現在）

新入会	22人	2022年度累計　104人
再入会	3人	2022年度累計　11人
転入	4人	2022年度累計　13人
転出	3人	2022年度累計　9人
退会	5人	2022年度累計　7人

※第6回理事会承認後、会員数：1,468人

5．議案-32　ホームページ更新作業の契約について
（1）起案者：清水 邦昭（編集情報理事）
（2）事　由：前回の契約が12月末をもって終了の為、更新契約のお願い
資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

6．議案-33　表彰推薦者の承認について
（1）起案者：田中 宏（会長）
（2）事　由：
ア．公衆衛生功労知事表彰推薦者（３人）
イ．公衆衛生功労厚生労働大臣表彰推薦者（１人）
ウ．令和６年春叙勲候補者推薦者（１人）
（3）審議経過：第2回表彰委員会（メール審議）
資料を基に、説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

議事録

審議・承認事項まとめ

	タイトル	資料	意見	質問	審議結果	特記事項	議案書No,
1	2023年度 診療放射線技師のためのフレッシャーズセミナー（第24回SARTセミナー）の開催について	あり	1	1	承認	なし	理-28
2	役員選挙における選挙管理委員の選出について	あり	0	0	承認	なし	理-29
3	2023年度 第12回定期総会の開催について	あり	1	0	承認	なし	理-30
4	新入会員の承認について	あり	0	1	承認	なし	理-31
5	ホームページ更新作業の契約について	あり	1	2	承認	なし	理-32
6	表彰推薦者の承認について	あり	0	1	承認	なし	理-33

配信資料（メール配信を含む）

(1) 総務
(2) 学術
(3) 公益
(4) 財務
(5) 編集・情報
(6) 各支部
(7) 議案書

本会議の議決を証明するために、議事録署名人において署名捺印します。

2023年3月2日（木）

議事録署名人　田中　宏　(押印略)
浅野　克彦　(押印略)

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

2021・2022 年度役員名簿

役職名	氏　名	勤　　務　　先	勤務先電話	技師会メール
会　　長	田中　　宏	埼玉県立小児医療センター	048-601-2200	h-tanaka@sart.jp
副　会　長	富田　博信	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	h-tomita@sart.jp
副　会　長	潮田　陽一	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3593	y-ushioda@sart.jp
常務理事（学　　術）	城處　洋輔	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	y-kidokoro@sart.jp
常務理事（学　　術）	中根　　淳	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	j-nakane@sart.jp
常務理事（総　　務）	今出　克利	大宮医師会	048-663-5633	k-imade@sart.jp
常務理事（総　　務）	八木沢英樹	JCHO 東京蒲田医療センター	03-3738-8221	h-yagisawa@sart.jp
常務理事（公　　益）	佐々木　健	上尾中央総合病院	048-773-1111	t-sasaki@sart.jp
常務理事(編集・情報)	清水　邦昭	深谷赤十字病院	048-571-1511	k-shimizu@sart.jp
理　　事（財　　務）	肥沼　武司	国立障害者リハビリテーションセンター	04-2995-3100	t-koinuma@sart.jp
理　　事（学　　術）	近藤　敦之	埼玉医科大学病院	0492-76-1264	a-kondo@sart.jp
理　　事（学　　術）	滝口　泰徳	JCHO船橋中央病院	047-433-2111	y-takiguchi@sart.jp
理　　事(編集・情報)	吉田　　敦	国立障害者リハビリテーションセンター	04-2995-3100	a-yoshida@sart.jp
理　　事（公　　益）	紀陸　剛志	埼玉医科大学病院	049-276-1264	takashi-kiroku@sart.jp
第一支部理事	双木　邦博	さいたま市立病院	048-873-4111	k-namiki@sart.jp
第二支部理事	大西　圭一	所沢ハートセンター	042-940-8611	k-onishi@sart.jp
第三支部理事	市川　隆史	埼玉医科大学病院	049-276-1264	takafumi-ichikawa@sart.jp
第四支部理事	大野　　渉	羽生総合病院	048-562-3000	wataru-ohno@sart.jp
第五支部理事	矢﨑　一郎	春日部市立医療センター	048-735-1261	i-yazaki@sart.jp
第六支部理事	茂木　雅和	上尾中央総合病院	048-773-1111	masakazu-motegi@sart.jp

事務局

役職名	氏　名	勤　　務　　先	勤務先電話	技師会メール
事務局長	結城　朋子	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	t-yuuki@sart.jp

監事・顧問

役　　職　　名	氏　名	勤　　務　　先	勤務先電話	技師会メール
監　　事	堀江　好一	JCHO さいたま北部医療センター	048-663-1671	k-horie@sart.jp
監　　事	淺野　克彦	参議院議員秘書		katsuhiko-asano@sart.jp
顧　　問	小川　　清			k-ogawa@sart.jp
顧　　問	鈴木　正人	埼玉県県会議員		m-suzuki@sart.jp
顧問税理士	増田　利治	税理士法人クレシェンド会計事務所	048-649-1386	

総務・財務委員会

役職名	氏　名	勤　　務　　先	勤務先電話	技師会メール
委 員 長	今出　克利	大宮医師会	048-663-5633	k-imade@sart.jp
副委員長	八木沢英樹	JCHO 東京蒲田医療センター	03-3738-8221	h-yagisawa@sart.jp
副委員長	潮田　陽一	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	y-ushioda@sart.jp
委　　員	結城　朋子	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	t-yuuki@sart.jp
委　　員	肥沼　武司	国立障害者リハビリテーションセンター	04-2995-3100	t-koinuma@sart.jp
委　　員	双木　邦博	さいたま市立病院	048-873-4111	k-namiki@sart.jp
委　　員	大西　圭一	所沢ハートセンター	042-940-8611	k-onishi@sart.jp
委　　員	市川　隆史	埼玉医科大学病院	0492-76-1264	takafumi-ichikawa@sart.jp
委　　員	大野　　渉	羽生総合病院	048-562-3000	wataru-ohno@sart.jp
委　　員	矢﨑　一郎	春日部市立医療センター	048-735-1261	i-yazaki@sart.jp
委　　員	茂木　雅和	上尾中央総合病院	048-773-1111	masakazu-motegi@sart.jp
委　　員	田中　達也	小川赤十字病院	0493-72-2333	yt-tanaka@sart.jp
委　　員	矢部　　智	越谷市立病院	048-956-2221	s-yabe@sart.jp
委　　員	佐々木　剛	埼玉医科大学病院	049-276-1264	tsuyoshi-sasaki@sart.jp
委　　員	岡田　尚也	さいたま赤十字病院	048-852-1111	naoya-okada@sart.jp
委　　員	福田　　栞	さいたま市立病院	048-873-4111	shiori-fukuda@sart.jp
委　　員	戸澤　　茜	埼玉県診療放射線技師会　事務局	048-664-2728	akane-tozawa@sart.jp

役員名簿

学術委員会

役職名	氏　名	勤　務　先	勤務先電話	技師会メール
委員長	城處　洋輔	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	y-kidokoro@sart.jp
副委員長	中根　淳	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	j-nakane@sart.jp
副委員長	近藤　敦之	埼玉医科大学病院	0492-76-1264	a-kondo@sart.jp
副委員長	滝口　泰徳	JCHO 船橋中央病院	047-433-2111	y-takiguchi@sart.jp
委員	今出　克利	大宮医師会	048-663-5633	k-imade@sart.jp
委員	寺澤　和晶	さいたま赤十字病院	048-852-1111	kazuaki-terasawa@sart.jp
委員	土田　拓治	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	t-tsuchida@sart.jp
委員	佐々木　健	上尾中央総合病院	048-773-1111	t-sasaki@sart.jp
委員	伊藤　寿哉	埼玉石心会病院	04-2953-6611	t-ito@sart.jp
委員	大根田　純	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	jun-oneda@sart.jp
委員	亀山　枝里	熊谷総合病院	048-521-0065	eri-kameyama@sart.jp
委員	妹尾　大樹	埼玉医科大学国際医療センター	042-984-7702	taiki-senoo@sart.jp
委員	浅見　純一	行田中央総合病院	048-553-2000	jyunichi-asami@sart.jp
委員	吉澤　孝郁	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	takafumi-yoshizawa@sart.jp
委員	戸澤　僚太	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	ryouta-tozawa@sart.jp
委員	新島　正美	熊谷生協病院	048-524-3841	masami-niijima@sart.jp

編集・情報委員会

役職名	氏　名	勤　務　先	勤務先電話	技師会メール
委員長	清水　邦昭	深谷赤十字病院	048-571-1511	k-shimizu@sart.jp
副委員長	吉田　敦	国立障害者リハビリテーションセンター	04-2995-3100	a-yoshida@sart.jp
委員	宮崎　雄二	北里大学メディカルセンター	048-593-1212	y-miyazaki@sart.jp
委員	潮田　陽一	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3593	y-ushioda@sart.jp
委員	肥沼　武司	国立障害者リハビリテーションセンター	04-2995-3100	t-koinuma@sart.jp
委員	大友　哲也	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	t-otomo@sart.jp
委員	渡部　伸樹	さいたま赤十字病院	048-852-1111	nobuki-watanabe@sart.jp
委員	堀越　隆之	大宮シティクリニック	048-645-1256	takayuki-horikoshi@sart.jp
委員	八木沢英樹	JCHO 東京蒲田医療センター	03-3738-8221	h-yagisawa@sart.jp

公益委員会

役職名	氏　名	勤　務　先	勤務先電話	技師会メール
委員長	佐々木　健	上尾中央総合病院	048-773-1111	t-sasaki@sart.jp
副委員長	紀陸　剛志	埼玉医科大学病院	049-276-1264	takashi-kiroku@sart.jp
委員	志藤　正和	埼玉県済生会川口総合病院	048-253-1551	m-shito@sart.jp
委員	内海　将人	埼玉県済生会栗橋病院	0480-52-3611	m-uchiumi@sart.jp
委員	石田　仁子	白岡中央総合病院	0480-93-0661	kimiko-ishida@sart.jp
委員	石川　里紗	深谷赤十字病院	048-571-1511	risa-sakamoto@sart.jp
委員	大河原侑司	さいたま赤十字病院	048-852-1111	yuji-okawara@sart.jp
委員	佐藤　克哉	埼玉県立小児医療センター	048-601-2200	katsuya-sato@sart.jp
委員	宮崎　千晶	埼玉医科大学国際医療センター	042-984-0089	chiaki-miyazaki@sart.jp
委員	嶋崎　恭介	上尾中央総合病院	048-773-1111	kyousuke-shimasaki@sart.jp
委員	坂庭　琴美	上尾中央総合病院	048-773-1111	kotomi-sakaniwa@sart.jp

正　会　員　入　会　申　込　書

年　　月　　日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会　　会長殿

私は貴会の目的に賛同し、下記により入会を申し込みます。

フリガナ 氏　名		性　別 男・女	生　　年　　月　　日 西暦　　年　　月　　日

1．2．それぞれに○をつけご回答ください 1．今回の入会は［□新入会　□再入会　□転入］ 2．□日本診療放射線技師会＆埼玉県診療放射線技師会へ入会 □埼玉県診療放射線技師会のみ入会	転入前の 所属技師会	

フリガナ 勤務先名	TEL　　—　　—
フリガナ 勤務先住所	〒
フリガナ 自宅住所	〒　　TEL　　—　　—
E-mail （携帯不可）	

正会員入会申し込み

会誌送付先	①　勤務先　　②　自宅	所属支部（地区）

診療放射線技師免許	国家試験	第　　回　　合格
	登録	第　　号　　年　　月　　日　　登録

免許取得の学歴	入学年月日	西暦　　年　　月
	卒業年月日	西暦　　年　　月
	学校	

関連分野の最終学歴	学位	ある　　なし
	学位記番号	
	授与年月	
	授与機関	

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
〒331-0812 さいたま市北区宮原町 2-51-39
TEL 048-664-2728
FAX 048-664-2733

退会届

年　　月　　日

会員番号	日本診療放射線技師会
	埼玉県診療放射線技師会
会員名	印
退会理由	
退会希望日	年　　月　　日
会費納入状況	年度分まで納入済み

注 1）規程により、埼玉県診療放射線技師会を退会すると日本診療放射線技師会も同時に退会となります。
注 2）滞納している会費がある場合にはお支払いください。
※重要　注 3）退会時には必ず会員番号をご記入ください。
記載がない場合、退会処理に時間がかかり、希望日に間に合わない場合があります。

決算処理

埼放技	
日放技	

FAX申し込み

会員異動届

ファックス送信票

下記の通り送信致しますので、よろしくお願い致します。

受信者	FAX番号：048－664－2733 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
送信者	氏　　名 施 設 名 〒 施設住所

＊郵送の場合
〒331－0812　さいたま市北区宮原町２丁目51番地39
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
電話：048－664－2728

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会員登録変更届

年　　月　　日

ふりがな 届出会員名		支部名	支部
技師会番号			

①転出者は正確にご記入ください			
転出先	（　　）県へ転出	技師会費を（　　）年度まで納入	
変更項目	○印	②変更した項目をご記入ください	
		ふりがな 自宅住所	〒　－ TEL　－　－
		ふりがな 勤務先名	
		ふりがな 勤務先住所	〒　－ TEL　－　－
		ふりがな 改　姓	
		支部変更	第（　）支部を第（　）支部に
		連絡先変更	

2023年度

埼玉県診療放射線技師会
日本診療放射線技師会など　年間スケジュール表

2023 年度（5-7）予定											
5月		埼放技	日放技など	6月		埼放技	日放技など	7月		埼放技	日放技など
1	月	役員選挙公示 （立候補者）		1	木			1	土		
2	火			2	金			2	日		
3	水			3	土			3	月		
4	木			4	日			4	火		
5	金			5	月			5	水		
6	土			6	火			6	木		
7	日			7	水			7	金		
8	月			8	木			8	土		
9	火			9	金			9	日		
10	水			10	土			10	月		
11	木			11	日	第12回公益社団法人 埼玉県診療放射線 技師会定期総会		11	火		
12	金			12	月			12	水		
13	土			13	火			13	木		
14	日			14	水			14	金		
15	月			15	木			15	土		
16	火			16	金			16	日		
17	水			17	土			17	月		
18	木			18	日			18	火		
19	金			19	月			19	水		
20	土			20	火			20	木		
21	日			21	水			21	金		
22	月			22	木			22	土		
23	火			23	金			23	日		
24	水			24	土		2023年度 関東甲信越 診療放射線 技師学術大会	24	月		
25	木			25	日			25	火		
26	金			26	月			26	水		
27	土			27	火			27	木		
28	日	2023年度 診療放射線 技師のためのフレッ シャーズセミナー （第24回SARTセミナー）		28	水			28	金		
29	月			29	木			29	土		
30	火			30	金			30	日		
31	水							31	月		

2023 年度（8-10）予定											
8月		埼放技	日放技など	9月		埼放技	日放技など	10月		埼放技	日放技など
1	火			1	金			1	日		第39回日本 診療放射線 技師学術大会
2	水			2	土			2	月		
3	木			3	日			3	火		
4	金			4	月			4	水		
5	土			5	火			5	木		
6	日			6	水			6	金		
7	月			7	木			7	土		
8	火			8	金			8	日		
9	水			9	土			9	月		
10	木			10	日			10	火		
11	金			11	月			11	水		
12	土			12	火			12	木		
13	日			13	水			13	金		
14	月			14	木			14	土		
15	火			15	金			15	日		
16	水			16	土			16	月		
17	木			17	日			17	火		
18	金			18	月			18	水		
19	土			19	火			19	木		
20	日			20	水			20	金		
21	月			21	木			21	土		
22	火			22	金			22	日		
23	水			23	土			23	月		
24	木			24	日			24	火		
25	金			25	月			25	水		
26	土			26	火			26	木		
27	日			27	水			27	金		
28	月			28	木			28	土		
29	火			29	金		第39回日本 診療放射線 技師学術大会	29	日		
30	水			30	土			30	月		
31	木							31	火		

広告協賛会社一覧（順不同）

No.	会社名	郵便番号	住所	電話
1	株式会社メディカルクリエート	330-0854	さいたま市大宮区桜木町2-403ほていやビル3階	048-782-7424
2	日本放射線防禦株式会社	113-0033	東京都文京区本郷2-38-12	03-3811-1158
3	株式会社メディカルサービスティアンドケイ	362-0001	上尾市上1710-3	048-777-7021
4	バイエル薬品株式会社	330-0843	さいたま市大宮区吉敷町1-75-1太陽生命大宮吉敷町ビル7階	048-640-6027
5	日本メジフィジックス株式会社	136-0075	東京都江東区新砂3-4-10	03-5634-7450
6	富士フイルムメディカル株式会社	330-0842	さいたま市大宮区浅間町2-240	048-645-6001
7	GEヘルスケア・ジャパン株式会社	330-0845	さいたま市大宮区仲町3-13-1住友生命第2ビル1階	048-614-9950
8	富士製薬工業株式会社	102-0094	東京都千代田区三番町5番地7	03-3264-2211
9	PDRファーマ株式会社	104-0031	東京都中央区京橋2-14-1 兼松ビル	03-3538-3621
10	キヤノンメディカルシステムズ株式会社	331-8701	さいたま市北区土呂町1-45-10	048-651-9290
11	コニカミノルタジャパン株式会社	105-0023	東京都港区芝浦1-1-1	03-6324-1080
12	シーメンスヘルスケア株式会社	141-8644	東京都品川区大崎1丁目11番1号ゲートシティ大崎ウエストタワー5階	03-3493-7500
13	富士フイルムヘルスケア株式会社	330-0812	埼玉県さいたま市北区宮原町4-17-22	048-661-8500

広告索引

造影剤関係

富士製薬工業株式会社…… 5
バイエル薬品株式会社…… 2

アイソトープ関係

PDRファーマ株式会社 …… 6
日本メジフィジックス株式会社…… 3

フイルム関係

富士フイルムメディカル株式会社…… 4

機器関係

株式会社メディカルサービスティアンドケイ …… 1
キヤノンメディカルシステムズ株式会社 …… 2
GEヘルスケア・ジャパン株式会社 …… 4
コニカミノルタジャパン株式会社…… 6
シーメンスヘルスケア株式会社…… 3
富士フイルムヘルスケア株式会社…… 5

施設工事関係

日本放射線防禦株式会社…… 1

PACSサービス関係

株式会社メディカルクリエート…… 表3

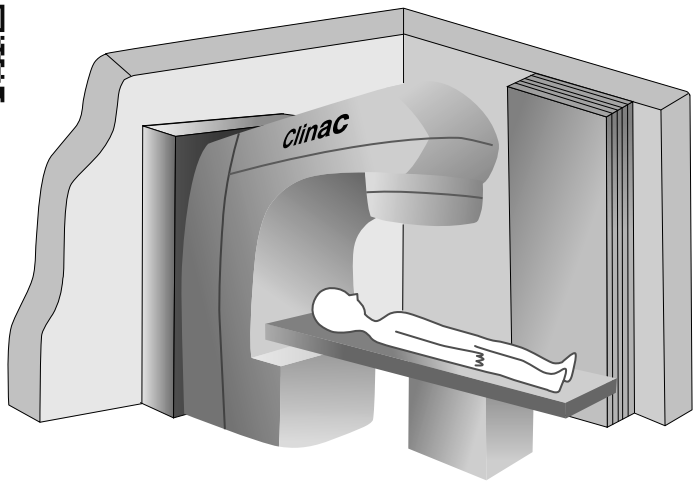
放射線施設等の設計、施工、維持管理

- リニアック、CT・MRI・RI検査室建造など
- 鉛、RC等の放射線遮へい工事
- 電波・磁気シールド工事
- 空調、電気、給排水設備工事
- 医療法、電離則に基づく法定測定

最近の施工施設（全国）

国立病院北海道がん	慶應大学病院
秋田大学病院	名古屋大学病院
東北大学病院	大阪大学病院
埼玉県立がんセンター	九州大学病院
国立がん研究セ中央病院	琉球大学病院

など多数



HUMAN & THE EARTH NIPPON

本社

日本放射線防禦株式会社

国土交通大臣許可　（特-28）　第21807号
高度管理医療機器等販売業・貸与業

本　　社／〒590-0074　堺市堺区北花田口町３丁２番10号　TEL072-232-0741・FAX072-223-7393
東京支店／〒113-0033　東京都文京区本郷２丁目38番12号　TEL03-3811-1158・FAX03-3811-1046
名古屋支店／〒460-0008　名古屋市中区栄３丁目32番20号　TEL052-269-9130・FAX052-269-9133

ＵＲＬ［http://www.nippoh-net.co.jp］

医療用画像診断機器・医療機器・医療資材　　販売代理店

株式会社メディカルサービスティアンドケイ

〒362-0001
埼玉県上尾市上1710-3

TEL. 048-777-7021
FAX. 048-777-7023

Canon

Introducing our new approach to AI in healthcare

AIテクノロジーを活用した、新しい医療価値の創出――。
その世界の起点を
私たちは変わることなく、尊い「いのち」への
貢献であると考えています。

一人ひとりの患者さんのペーシェント・ジャーニー。
さまざまなシーンで、よりパーソナライズされた
高精度な診断を支えるのは、高精度データです。

高精細検出器をはじめとする独自技術を、
機械学習・深層学習の技術と融合させる。
私たちのアプローチから生まれた
ソリューションはすでに、
診断の「質」の向上、CTにおける被ばく量の低減など、
新たな医療の世界をかたちづくっています。

<Altivity>は、キヤノンメディカルシステムズの
AIソリューション・ブランドです。

M000087

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 https://jp.medical.canon

Made For life

X線CT装置

SOMATOM go.Top

Lead to the top expanding clinical demand

www.siemens-healthineers.com/jp

SIEMENS
Healthineers

全身用X線CT診断装置　ゾマトム go Top/All　認証番号：230AABZX00028000

保険適用
（薬価基準未収載）

FDG PET

放射性医薬品・悪性腫瘍診断薬，虚血性心疾患診断薬，てんかん診断薬

処方箋医薬品注）

FDGスキャン®注

放射性医薬品基準フルデオキシグルコース（^{18}F）注射液

注）注意ー医師等の処方箋により使用すること

効能･効果、用法･用量、警告･禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

®：登録商標

資料請求先
日本メジフィジックス株式会社
〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号

製品に関するお問い合わせ先
0120-07-6941

弊社ホームページの"医療関係者専用情報"サイトで
PET検査について紹介しています。
https://www.nmp.co.jp

2019年1月改訂

AI技術※を活用して胸部単純X線画像の「結節・腫瘤影」「浸潤影」「気胸」診断を支援

※ AI技術のひとつであるディープラーニングを設計に用いた。導入後に自動的にシステムの性能や精度が変化することはない。

胸部X線画像病変検出ソフトウェア CXR-AID
販売名：胸部X線画像病変検出（CAD）プログラム LU-AI689型
承認番号：30300BZX00188000
※ご利用いただくにはアプリケーションがインストールされた高速処理ユニットが必要です。

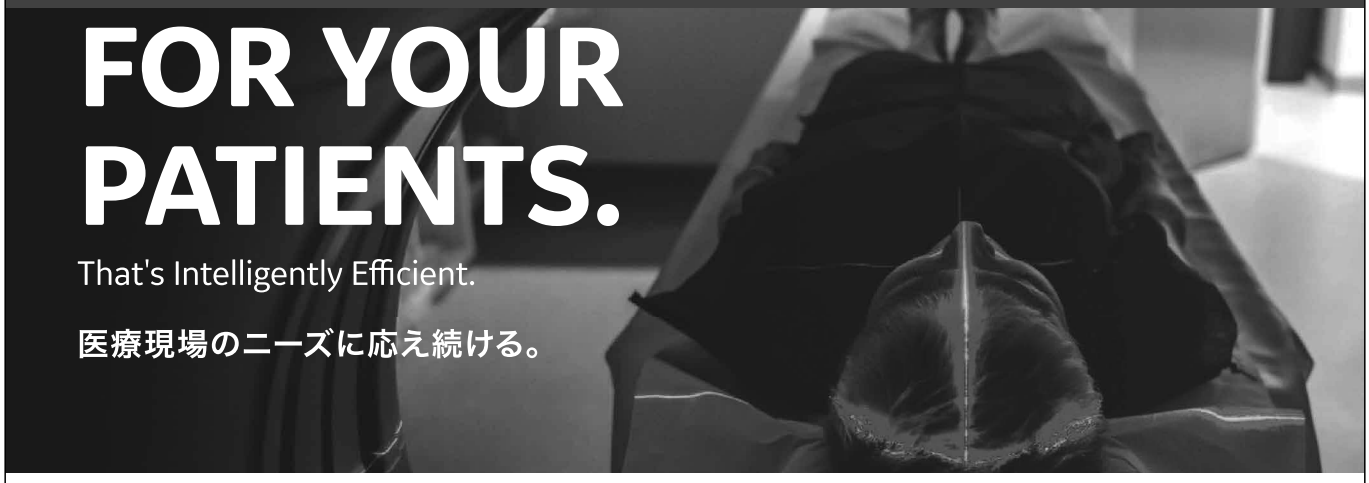
製造販売業者：富士フイルム株式会社
販売業者：富士フイルム メディカル株式会社
〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フイルム西麻布ビル
TEL.03-6419-8040（代） URL https://fujifilm.com/fms/

Powered by Edison

A CT SCANNER THAT LOOKS OUT FOR YOUR PATIENTS.

That's Intelligently Efficient.

医療現場のニーズに応え続ける。



GEヘルスケアのRevolution™ Maximaは、Deep Leaning※技術を搭載したCTで、最適な撮影ポジショニングを自動解析・調整します。
低被ばく高画質といった臨床的なメリットに加え、ワークフローの簡素化により、安全で質の高い検査をサポートします。
GEヘルスケアのテクノロジーの実装を通じて、多様化する医療現場のニーズに応え、患者さんのために最善を尽くします。
詳しくは、gehealthcare.co.jpをご覧ください。

Revolution Maxima（レボリューションマキシマ） 医療機器認証番号：301ACBZX00013000
※Deep Learningは製品開発に用いられており、納入後に学習し続ける技術ではありません。
JB03625JA

FUJIFILM
Value from Innovation

Scan me!

たて・よこ・ななめ、診たいアングルに。

CUREVISTA Apex

販売名：デジタルX線透視撮影システム CUREVISTA Open / CUREVISTA Apex
医療機器認証番号：302ABBZX00032000
●CUREVISTAは富士フイルムヘルスケア株式会社の登録商標です。
●CUREVISTA Apexは3WAY ARMを搭載したモデルの呼称です。

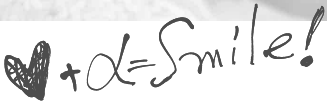
富士フイルムヘルスケア株式会社
https://www.fujifilm.com/fhc

3WAY ARM | 3方向アーム（たて・よこ・ななめ）

これからは、「ななめ」でも被検者を動かしません。X線管アームの動きは水平方向の「たて」と「よこ」。そして、左右軸方向の「ななめ」がプラスされました。肝内胆管の重なりや前後が分かりづらい時は角度を変えて観察できます。出番は、たくさんありそうです。

ひとりひとりの笑顔に応えたい。

皆さまのすこやかな明日のために、全力を尽くすこと。
優れた医薬品づくりを通じて、社会に貢献すること。
それぞれの思いや悩みを受け止め、一緒に解決を考えていくこと。
私たちは、健康への願いや夢に向かって歩む皆さまにとって、
心から信頼のおけるパートナーでありたいと願っています。
私たちは、一丸となって、あなたの笑顔に応えていきます。



〔資料請求先〕
富士製薬工業株式会社
〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7
http://www.fujipharma.jp

2011年6月作成

放射性医薬品／悪性腫瘍診断薬・虚血性心疾患診断薬・てんかん診断薬　処方箋医薬品注）　保険適用

フルデオキシグルコース(18F)静注「FRI」

Fludeoxyglucose(18F) Injection FRI

放射性医薬品基準フルデオキシグルコース(18F)注射液　注）注意－医師等の処方箋により使用すること。

製造販売元
PDRファーマ株式会社
文献請求先及び問い合わせ先　TEL 03-3538-3624
〒104-0031 東京都中央区京橋2-14-1 兼松ビルディング

※「原則禁忌」、「効能又は効果」、「用法及び用量」、
「使用上の注意」等については電子添文をご参照ください。

2022年3月作成

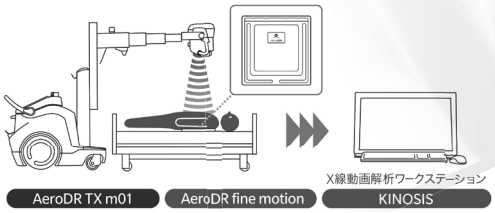
KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

Dynamic Digital Radiography
デジタルX線動画撮影システム

ポータブル撮影の可能性を広げる
ワイヤレス動画撮影を実現

Dynamic Digital Radiography デジタルX線動画撮影システム
撮影した動画像は、X線動画解析ワークステーション「KINOSIS」へ
送信することにより、視認性の向上や定量化を目的とした
様々な画像解析処理を実施することができます。



下の二次元コード
から動画像をご覧
頂けます

Mobile X-Ray System

AeroDR TX m01

多様な視点で未来をデザインする
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

販売名：移動型汎用X線装置 AeroDR TX m01（製造販売認証番号：303ABBZX00055000）★AeroDR fine motion/fineは、『デジタルラジオグラフィー SKR 3000』（製造販売認証番号：228ABBZX00115000）の呼称です。
★X線動画解析ワークステーション KINOSIS、及びKINOSISは、『画像診断ワークステーション コニカミノルタ DI-X1』（製造販売認証番号：230ABBZX00092000）の呼称です。★記載の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

製造販売元：コニカミノルタ株式会社　販売元：コニカミノルタ ジャパン株式会社 105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 http://www.konicaminolta.jp/healthcare

編集後記

先日、お付き合いで歌舞伎を見に行った。劇場では舞台を説明するイヤホンがレンタルできる。正直な話、これがないと何をやっているのか全く分からないが、日本の伝統芸能の良さや人を引き込む魅力を感じた。

今年は春にWBC、秋にラグビーワールドカップがある。テレビやネットニュースは日本愛のようなものを前面に出し、お腹がいっぱいになることが多くなりそうだ。しかし「今まで気づかなかった部分で日本の良さを知るかもしれない」と期待するようになれたのは、途中で眠くなりながらも、最後には「また観劇したい」と思わせた歌舞伎のおかげなのかもしれない。

（うし）

表紙の解説

「新緑」

写真提供　**吉田　敦 氏**

埼玉放射線　第272号

印　　刷　2023年5月15日

発 行 日　2023年5月26日

発 行 所　〒331-0812
さいたま市北区宮原町2-51-39
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

Eメールアドレス　sart@beige.ocn.ne.jp

発 行 人　公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会　　長　田中　　宏
編集代表　清水　邦昭

編集委員　吉田　　敦
宮崎　雄二
潮田　陽一
肥沼　武司
大友　哲也
渡部　伸樹
堀越　隆之
八木沢英樹

印　　刷　〒130-0023
東京都墨田区立川2丁目11番7号
株式会社キタジマ
電話　03（3635）4510

事 務 所

〒331-0812
さいたま市北区宮原町2丁目51番39
公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会

電　話　**048-664-2728**
ＦＡＸ　**048-664-2733**
Eメールアドレス　**sart@beige.ocn.ne.jp**

事務局長　結城朋子
事 務 員　戸澤　茜
勤務時間　9：00～12：00
13：00～15：00
電話問い合わせは平日の月・水・金のみ

院外に放射線科
もうひとつの選択肢

メディカルクリエートは画像診断で
あなたの業務をサポートします

- 遠隔診断
- 至急読影
- 健診判定
- 症例相談

独自のレポートシステムで高精度かつ迅速な読影
胸部・胃部・MMG・CT・MRI・超音波・眼底・心電図

株式会社メディカルクリエート

■ 大宮本社　埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-403 ほていやビル３階
TEL:048-782-7424　FAX:048-782-7425

■ 倉敷読影センター　■ 新宿読影センター

http://www.saitama-medical-create.jp/

写真提供

「役員研修会（国会議事堂）」　清水　邦昭 氏

公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会

〒331-0812　埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目51番39

TEL 048-664-2728　FAX 048-664-2733

HP https://www.sart.jp　E-mail sart@beige.ocn.ne.jp

領布価格：1,000円（会誌購読料は会費に含まれる）